

州藝

嚴島圖會

寶物之部

卷之六



廟宇

廟宇駕勢以壇壝

上穀軋園神庫依絕境

秘藏千古物海龍所

所護相戒慎鑄鑄世守

吾所知必由緣法覽閱蕊

經平換寫其國字之字楷

石渠寶笈

栗日日軸金題篆或銅函
卷弄八標輝錯繪圖
隱謎難辨詰駟伏均免
如佞媚憑神佛威權清
雲未飛跡存墨墨華
哀共養和帝細衣蜀

錦微託胎角犀家葵
骨斂留窈窕獨欽小松
公輕甲遺洪鐵應振
待溪門免回檀浦蟻世
代遙遷移黃鼻駢陳
列仁山納寶刀桐菊餽

其室怙何厲皇詔紳
擢決犯闡阿隆魁犀
鎧絲緇緞黑札何如賊
刃刺忠情防身密反
見劍雄雄錫長韓鑄
秘劍弓認衛錦三五

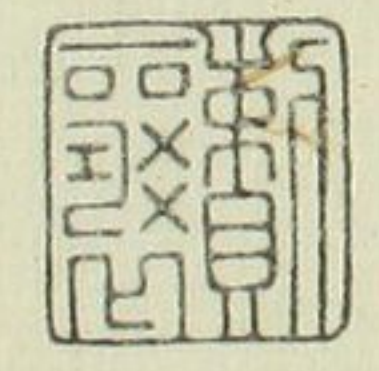
冒畫一江公亮賊時
或濟鯨鯢血義此年
神所若某如前日足
後一長刀敵者講一
去一揮柄情隨無揮
插溟渤鷗首輕乘一

石點禱吞日沒人事
雙雲煙神止長截薛
大息衆下階初舟緣存
樾回醉謔之古夕陽
尊品

伶伯子粹道余觀

神屏訪藏歸館賦
以頌以紀乃自之事

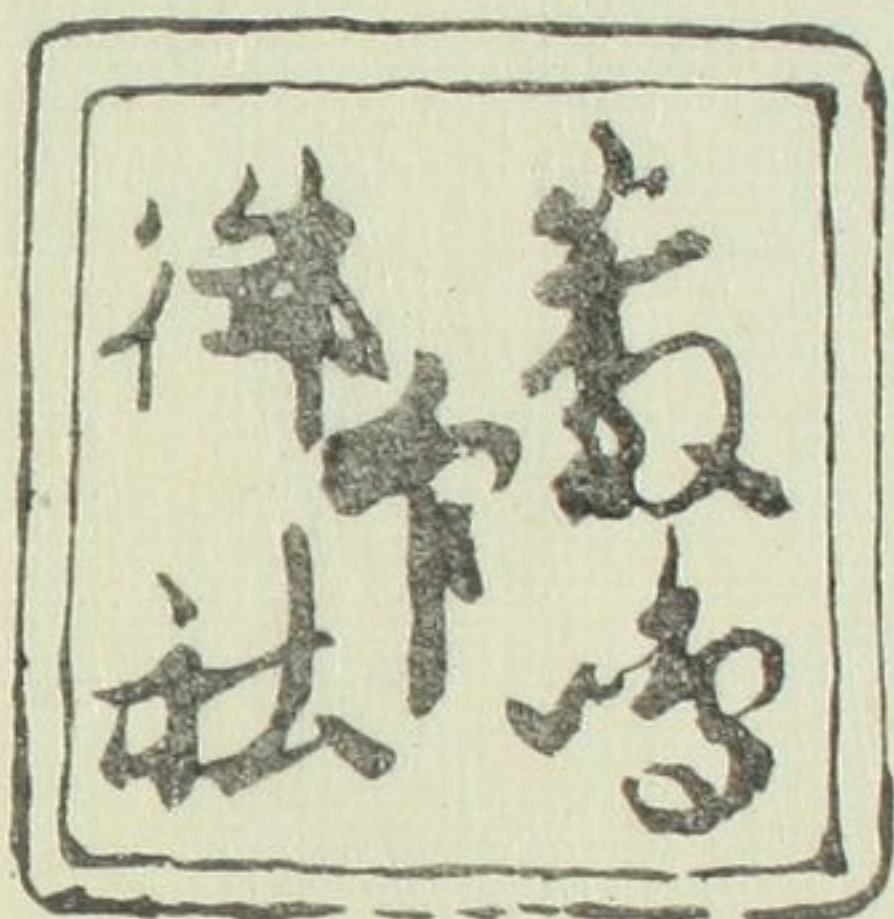
賴表



右先人手書協盥手謹臨為宮崎生瀨



文治五年解所押
嚴島御社印



天喜元年解所押
安藝國印



嚴島寶物圖會

凡例

一 當社ノ技倉ハ草創ヨリ以來兵燹ノ災害ヲ遁レテ神寶棟ニ充レドモ樂器經卷刀劔甲冑ナドノ外有用ノ具ニアラザルモノヨバヨサミ省キテ収メス

一 技倉ノ開閉容易カラスコレニヨリテ毎年ノ七月虫拂ノ節ニ閱スルニシタガヒテ収入セシカバ世次年代ソノ序ヲタ、スコト能ハズ

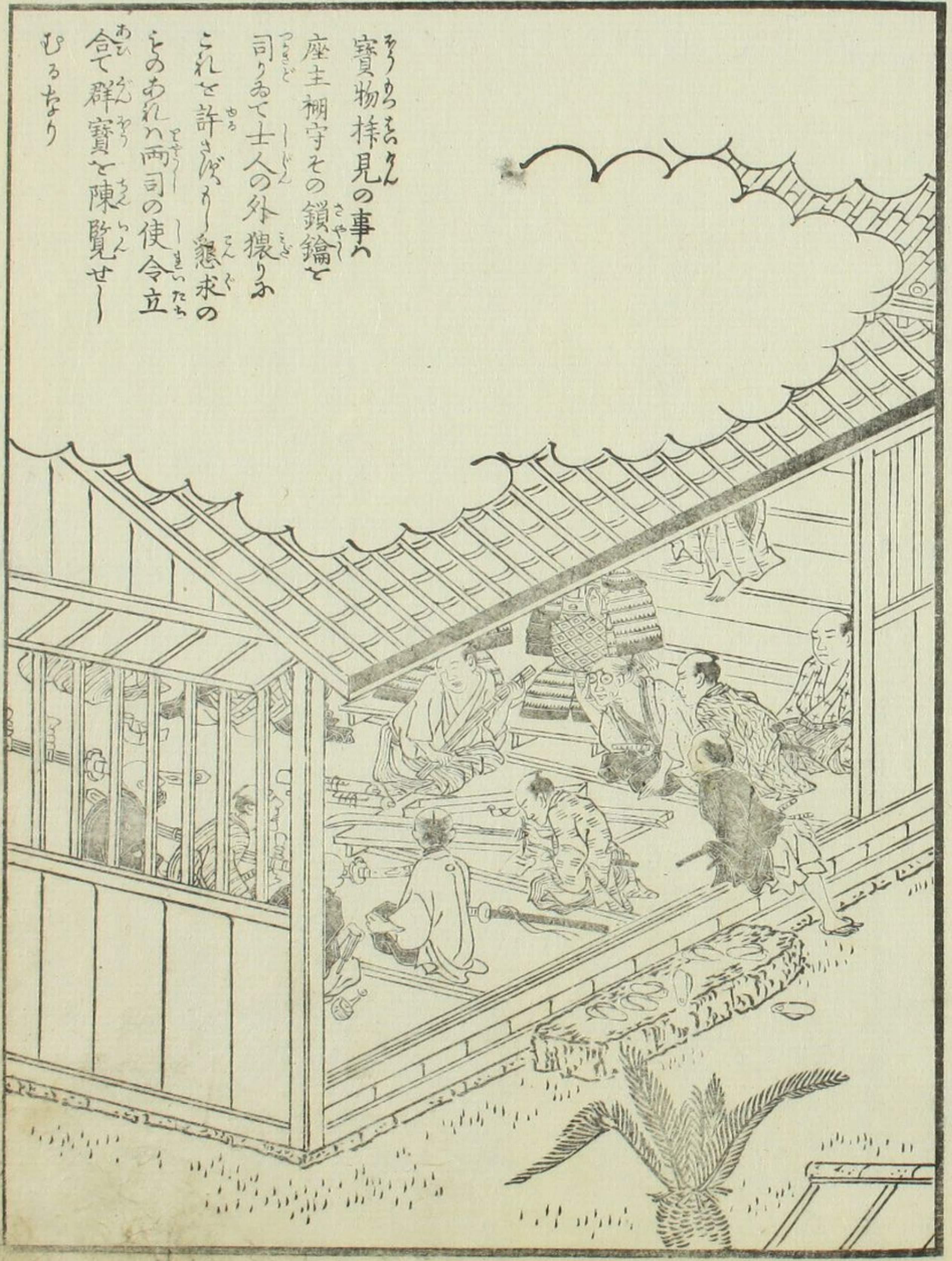
一 偽贋ニ涉リテ疑フヘキコトアル物トイヘドモ或、社傳ノ由來タビシク或ハ證據ノ指摘ナキカ、ルタグヒマ、多シイマコトミク収テ以テ博覽ノ資トナセリ古史實錄ニカナハヌコトアリトモミタリニコレヲ嘲ルヘカラズ

一物ノ名目俗ニシタガヒテ雅ナラザルコト多シトヘハ經卷ノ
 襪ヲ或ハ袖トモ或ハ表紙トモカケルガ如キミナコレ寫
 手ノ便ニシタガヒテノワザナリ餘モ准ヘテシルヘシ
 一弘法大師真蹟ノ三摩耶經ハ海内無比ノモノナレドモコ
 レヲ平家ノ寫經トオナジクタゞ兩三行ノミ摸寫シ出
 セルハ紙葉ノイタツラニツフヲイトヒテナリ後日別ニ全文
 ヲ刊行シ臨池家ノ觀覽ニソナヘントス
 一画ハミナ姓名印章ヲ載セテソノ人ヲアラハセリ姓名印章
 ナハヒトリ俊峯齋守嗣ノ筆ノミナリ

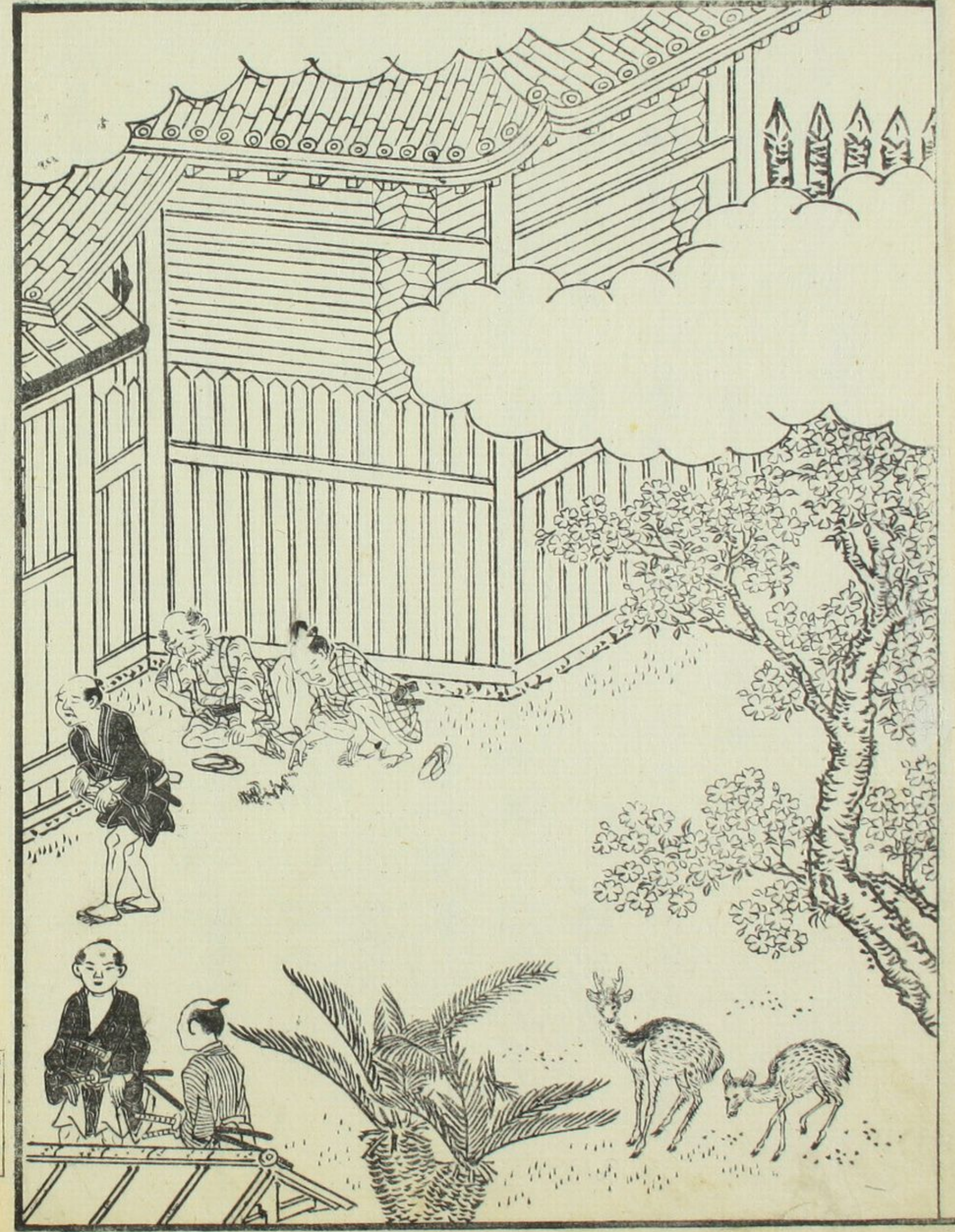
嚴島寶物圖會卷之壹

目錄

技頭面	還城樂面	羅陵玉面	納蘇利面
散手面	貴徳面	採桑老面	按摩二舞面
未詳面	奚婁	鼗	笙
高倉帝御扇	檜扇	安德帝御産衣	
同帝御石帶	同帝御笏	同帝御劔	同帝御矢
同帝御扇	黃揚駒	琴	駐腦笛
沈枕	弘法大師佛具		同大師袈裟
和琴	箏	琵琶	



寶物持見の事ハ
 座主 桐守 その鎖鑰と
 司りて 士人の外 猥りふ
 これと 許さばり 懇求の
 之のあれハ 兩司の使令立
 合て 群寶と陳覽せし
 びるなり

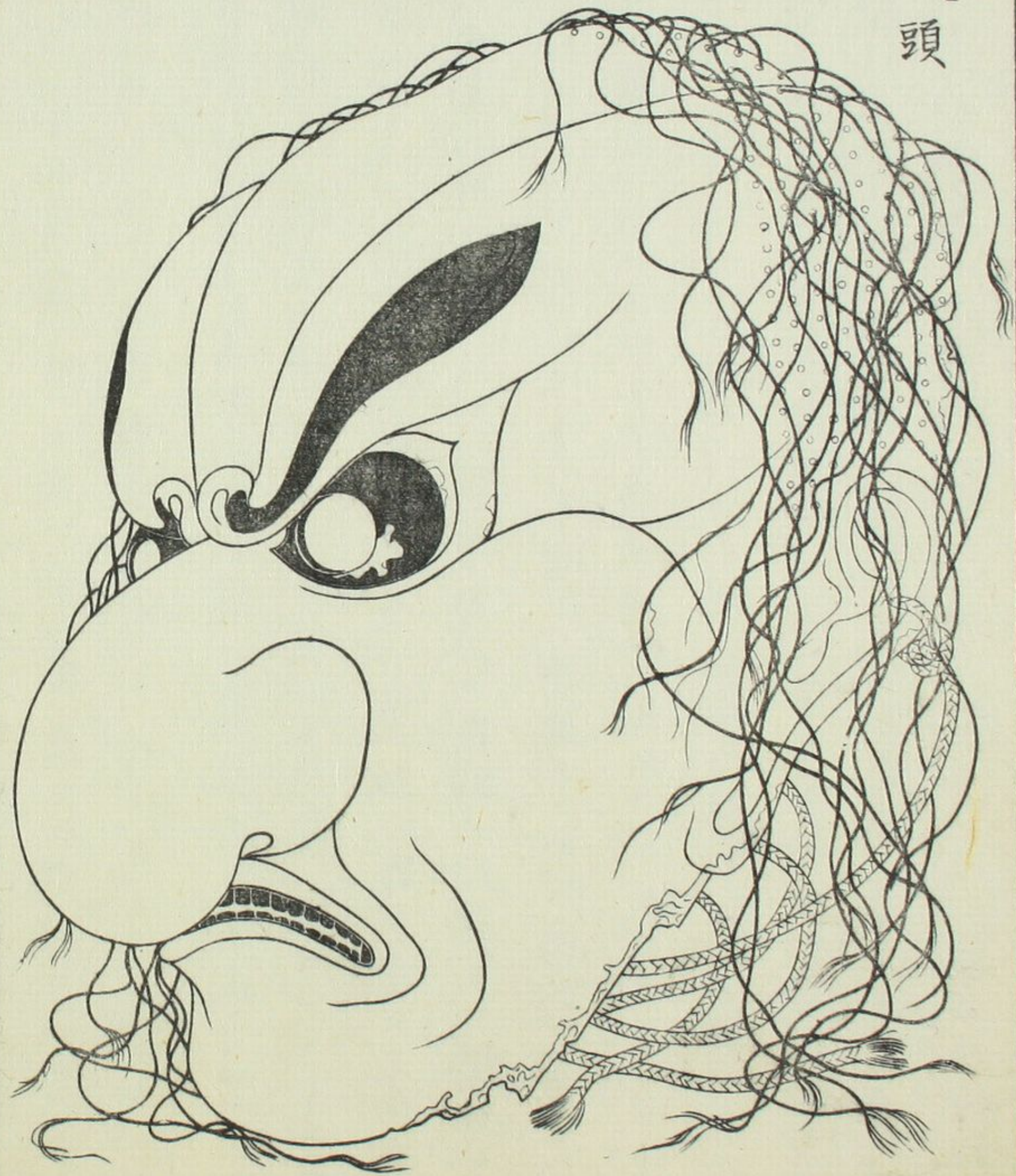


拔頭舞傳來

當島ノ拔頭舞ソノ盪觴サダカナラズトイヘドモ下ニ畧スルト
コロノ面ノ裏書ニ伊津岐島社拔頭面承安三年トミエ
マ夕棚守所藏ノ古文書ノ中ニ嘉禎三年舞樂裝束注
進狀ノ写シアリツノ狀ノウチニ拔頭裝束一具以赤地錦用
之面縫物袍錦打懸同袴同帶ト見エタレバ凡六七百年バ
カリ以前ヨリコノ舞アリシコト知ラレタリソノ後連綿トシテ
斷絶ナカリケルニヤ文明三年ニ天王寺樂人太秦廣吉ト
イフ者ヨリ彦三郎安種トイフ者ヘ拔頭相傳ノ狀アリコノ安種
トイフ者
ノコトイマ詳ラカニ知ラズトイヘトモマ夕同寺ノ樂人岡兵部大輔
當島ノ者ナルコトハウタガヒナシ
昌歲トイフ者ヨリ戈菊房頭ヘ相傳ノ狀中ニモ拔頭ノ舞アレ
ハソレヨリ以前モ代々ノ相傳ハカナラズアリツラムコト更ニウ

夕ガヒナシ房頭ヨリ以來ハ譜面ヲ用ヒズ所作ヲ以テソノ子
孫ニヲシヘ今ノ棚守元貞ニイタリテ九代オヨソ三百余年ノ
間年ゴトノ正月五日禁裡御祈禱ノ舞樂ニコノ拔頭ヲ用ヒテ
退轉ナク歷然ト傳ヘ來レリシカルニイツノホトニカアリケン天王
寺ニハカヘリテコノ樂斷絶セシカバ寛政八年ニムカシ房頭ニ
ツタヘケル岡昌歲ノ後裔伊豫守昌綱ニ元貞ヨリ復傳セリ
ソレニツキテ故障イデキテ元貞ヲ京都ヘメサレ樂所ノ者ニモア
ラズ譜面ヲモタズシテ復傳セシハイカナル故アリテノコトゾ
ト訊問アラセラレシニ六七百年以來ノ故實ヲ記録シ社人ノ
身ナガラ樂役ヲ帶テ譜代ノ者ナルヨシ委曲ニ申上シカバ
朝廷ノ御疑モトケテ社祭ノ舞樂退轉ナクツトムヘキヨシカ
シコクモ傳奏ヲ以テ仰ワタサレケリソノ時ニコノ面ヲハ證據ノ

抜頭



面朱漆眼眉齒ミナ黒漆髪緋麻ノヨリ糸面堅一尺ヨコ耳ノウヘ七寸二分

面ノ裏黒ヌリ赤漆
ニテウラ書アリ



兼安ノ年号磨滅シテ永安ノ如ク見ユシカ
レドモ下ニ兼ノ字炳焉タルモノアリカレヲ
以テコレヲ知ベシ

抜頭

殿覽はる原は抜下

古の殊勝なるは

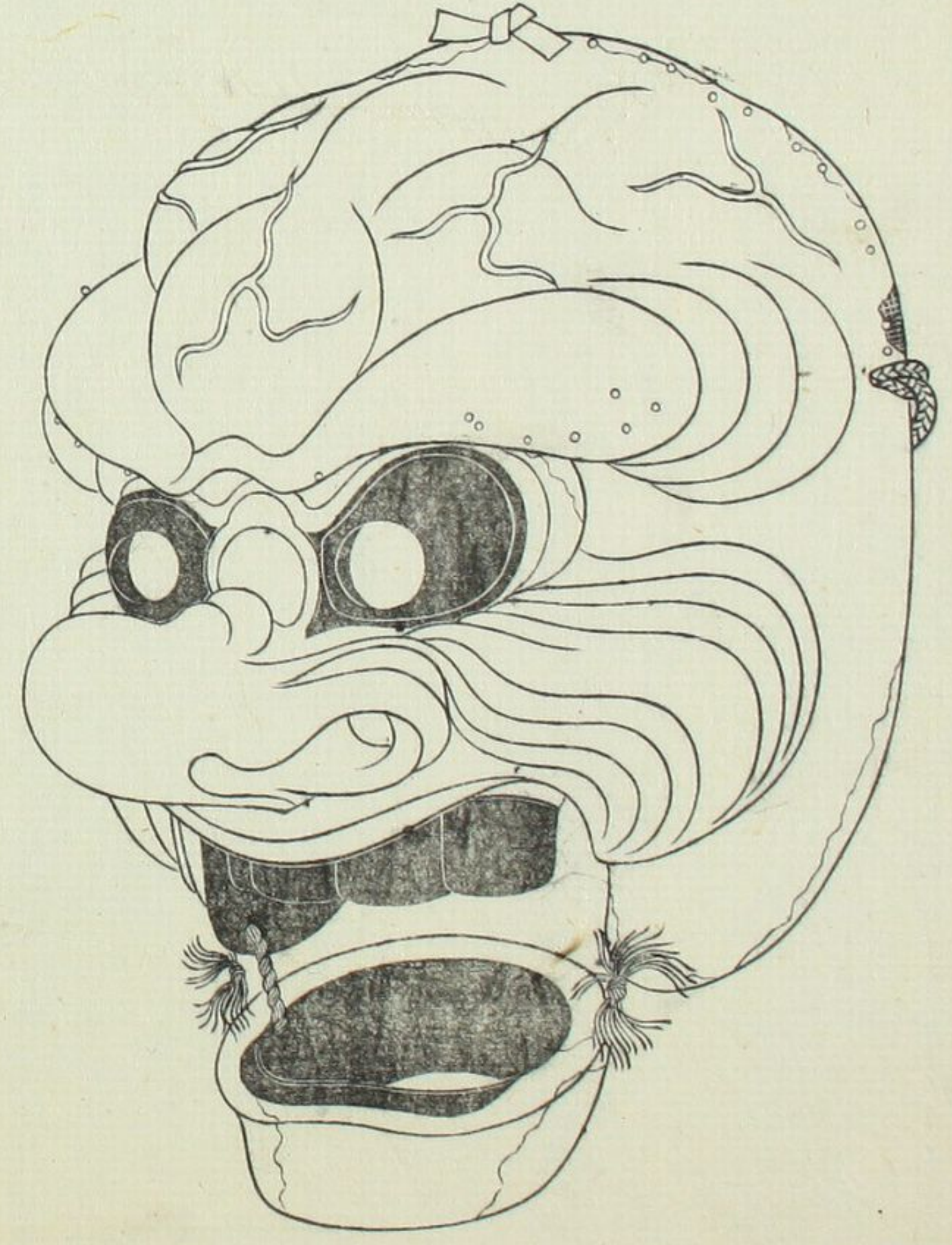
思石は抜大切は原は

十月

夕メニ殿覽ニソナヘシトソサレバ當島ニオイテ抜頭舞ノ傳來ハイ
トフルキコトニテヤンゴトナキ神事ナリカシ

還城樂

面朱漆古色
 ニシテ少シクロ
 ミアリ眼齒ミ
 ナ黒ワリ願外
 朱ウチ黒漆
 眼鼻革ヲ以テ
 頭ヨリツリタリ
 豎長齒ヨリ頭
 ニ至テ六寸ヨコ
 耳ノ上六寸七分
 願厚サ一寸ニ
 分五リン

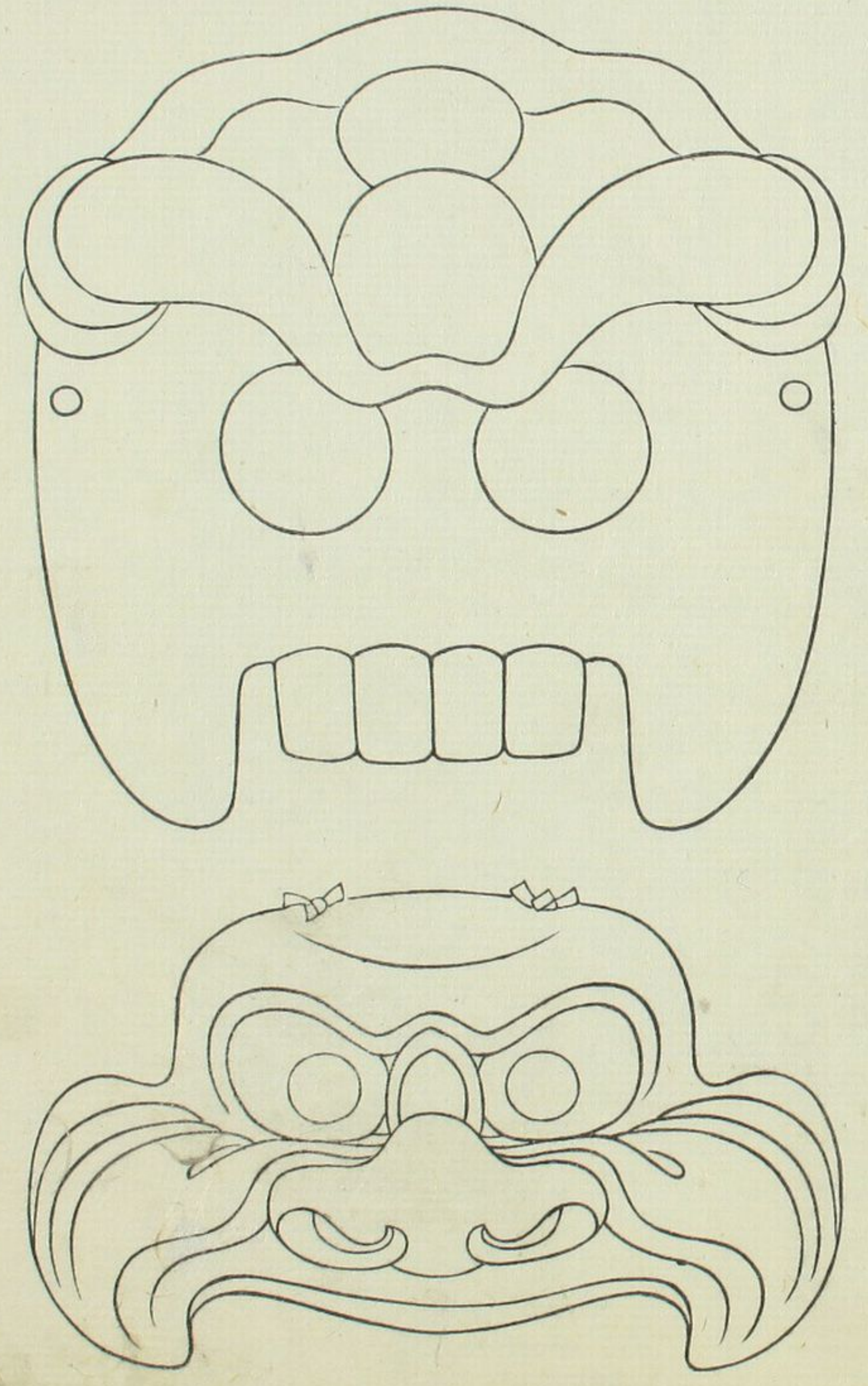


面ノウラ
 クロ塗赤
 漆ヲ以テ
 裏書アリ

扇邊社還城樂面故所御奇道
 永享二年八月日佛師沙門

同裏ノ圖

梅身勝直本



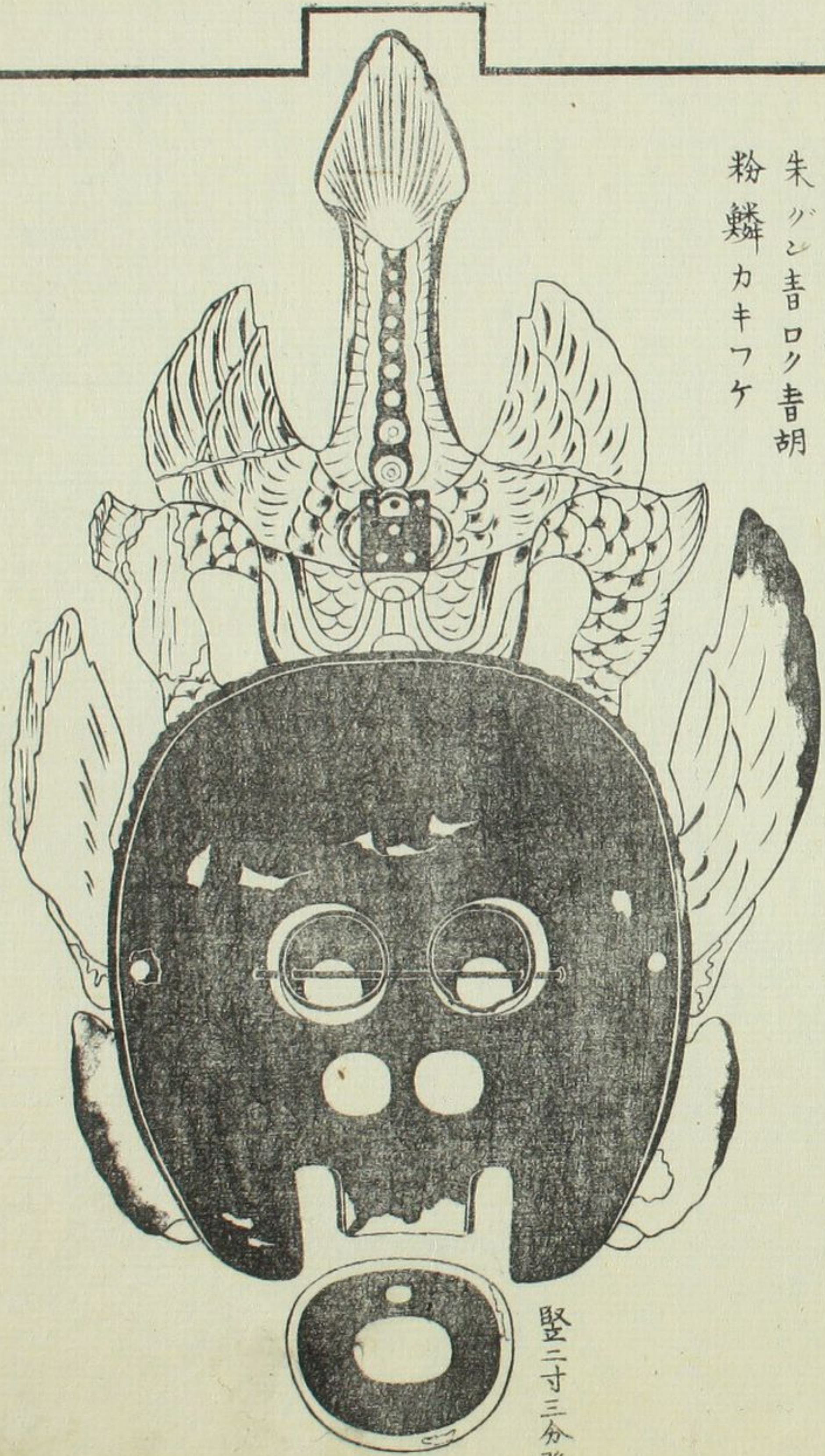
陵王

面金箔ヲオケリ髪空青眼中金鼻ノウチ朱齒黒又リ鬚眉トモニ馬尾釣願外金中黒



龍眼中白マフチ朱
 髪朱モホリツケ
 ロク青ノモガキアリクチノ中
 朱ウハ願金ウロコ朱ノカキワケ緑青彩リ鱗彫物朱緑青ノカキワケ
 夕テ龍ノ頭毛ヨリ上颯ノ下齒ノトヨマデ一尺三寸二分 横耳ノトコロニテ五寸八分強

裏黒又リ龍ノウラ
 朱グン吉ロク吉胡
 粉鱗カキワケ



堅二寸三分強

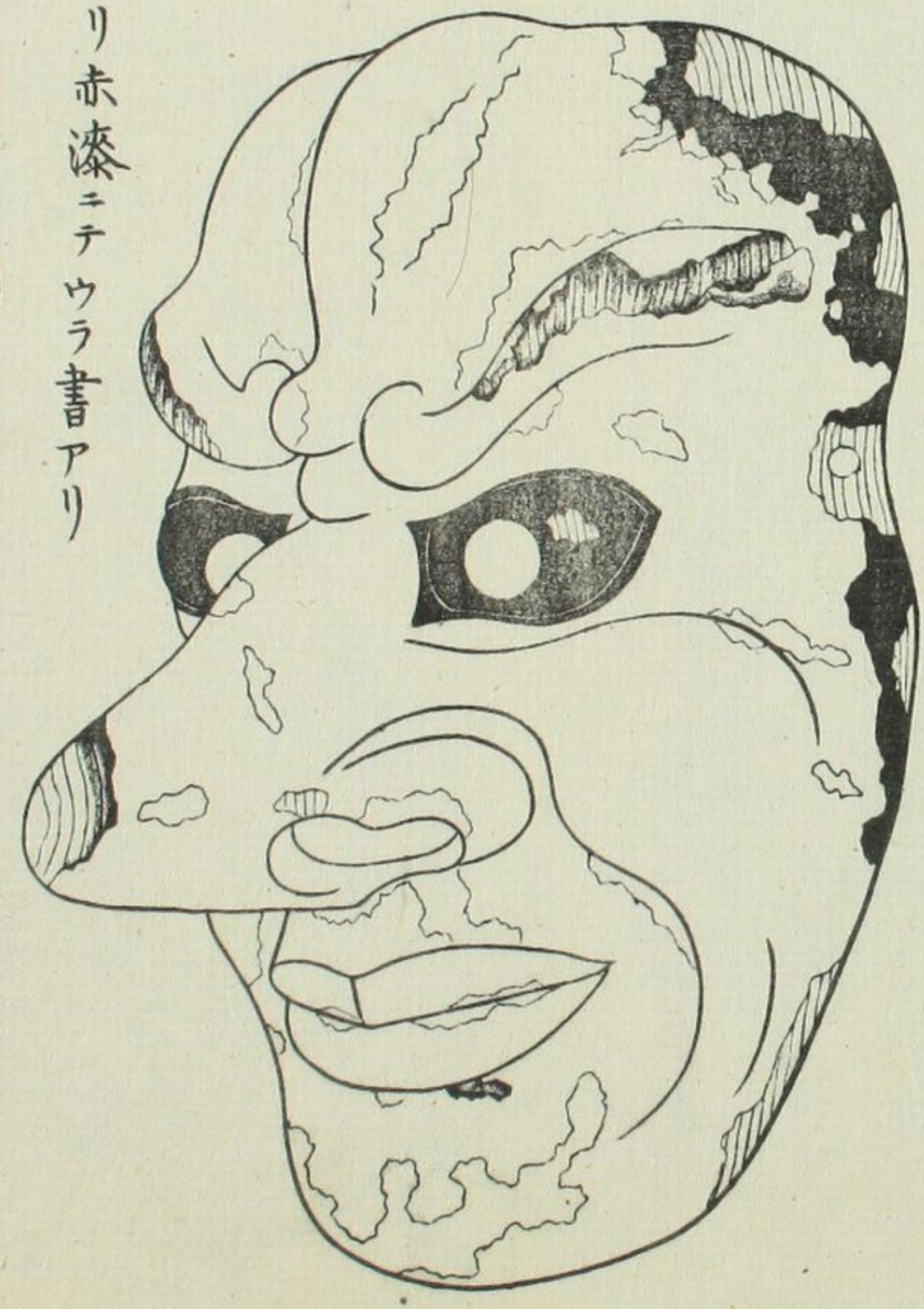
納 蕪 利

空音古色
ニシテ詳
ナラズ
眼ノフ
千朱
唇朱
鼻ノ
中朱
ウラシ
口塗裏
書赤漆ヲ以テカケリ



頭ヨリ順ニテ七寸六分強
ヨコ耳ノトヨロニテ五寸四分

散手
面朱眼
中クロ
翌長七
寸八分
ヨコ紐
付ニテ五
寸二分



裏クロヌリ赤漆ニテウラ書アリ

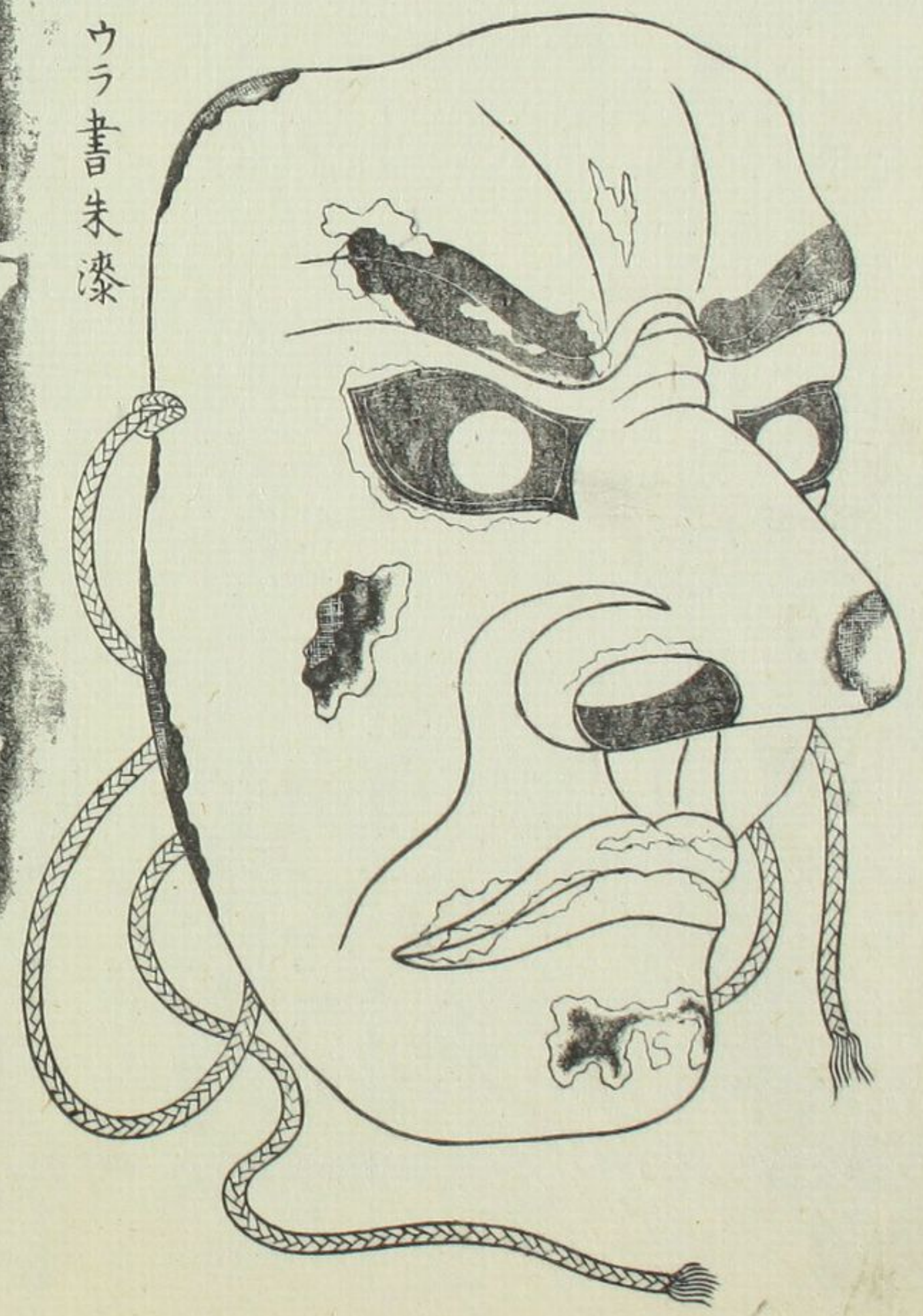
伴 津 伎
面
八
寸
八
分

貴徳

面胡粉
眼中ク
口唇朱
古色
詳ナ
ラズ
堅七
寸三
分ヨコ
紐付五
寸四分

裏黒ヌリウラ書朱漆

伴津伎鳴社 貴徳面
永正三年八月



採栗老

面白肉
雲母ノ
艶ヲト
眼中白
唇朱甚タ
アラシ塗タ
リ堅長七
寸ヨコ五寸

ウラ黒ヌリ赤
漆ヲ以テ裏ガ
キアリ

伴都伎鳴社

採栗老面

建長元年九月十四日

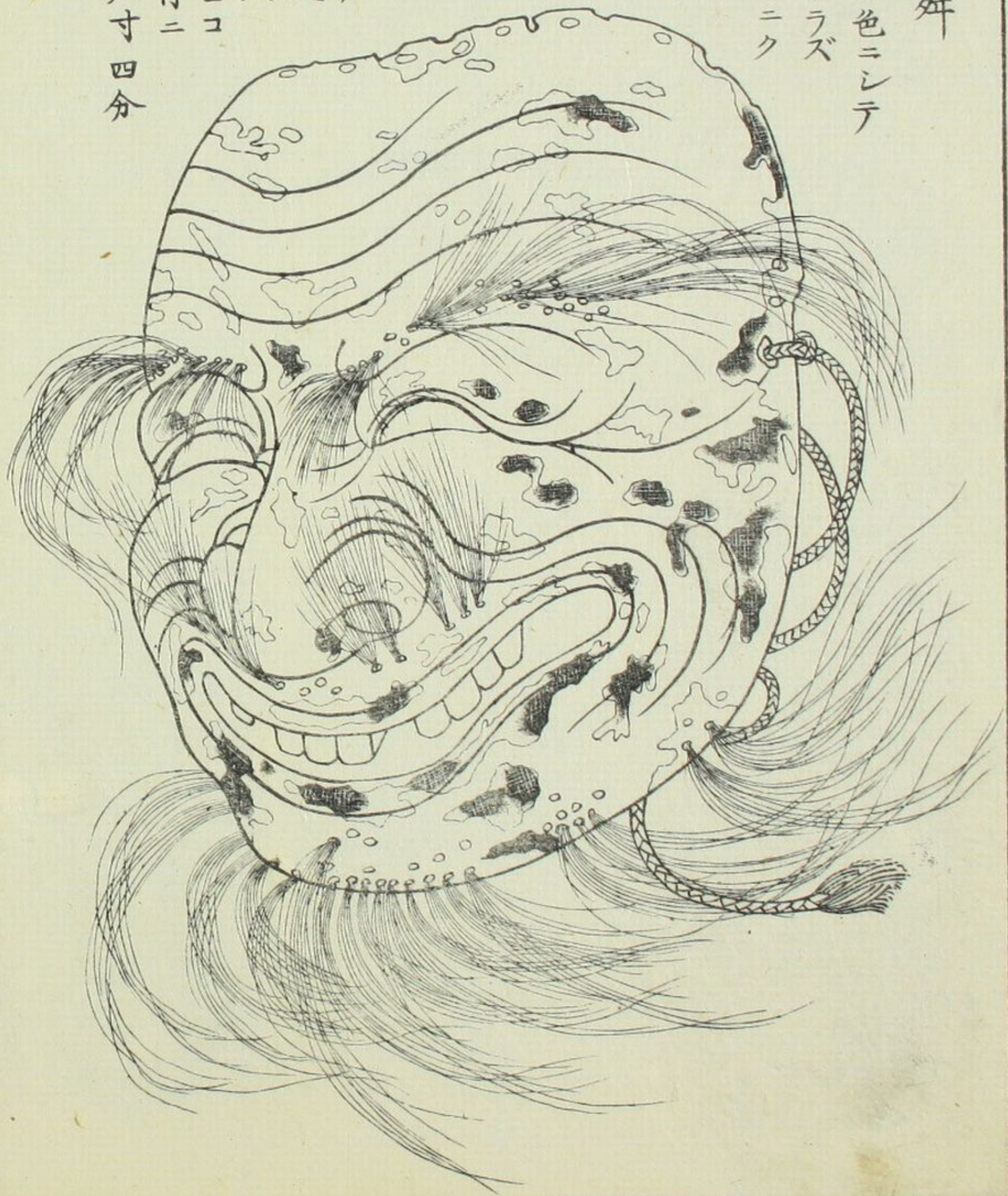
以テ以テ資
于時右近
森之



二ノ舞

面古色ニシテ
詳ナラズ
毛白ニク
ロヲ
フリ
ク

交セ
タリ
タリ
八
寸
六
分
ヨ
コ
細
付
ニ
テ
六
寸
四
分



巖鳥社ニ舞面承火三年八月日

ニノ舞ノ面裏タメ塗
赤漆ヲ以テウラ書アリ

威國朝日調進

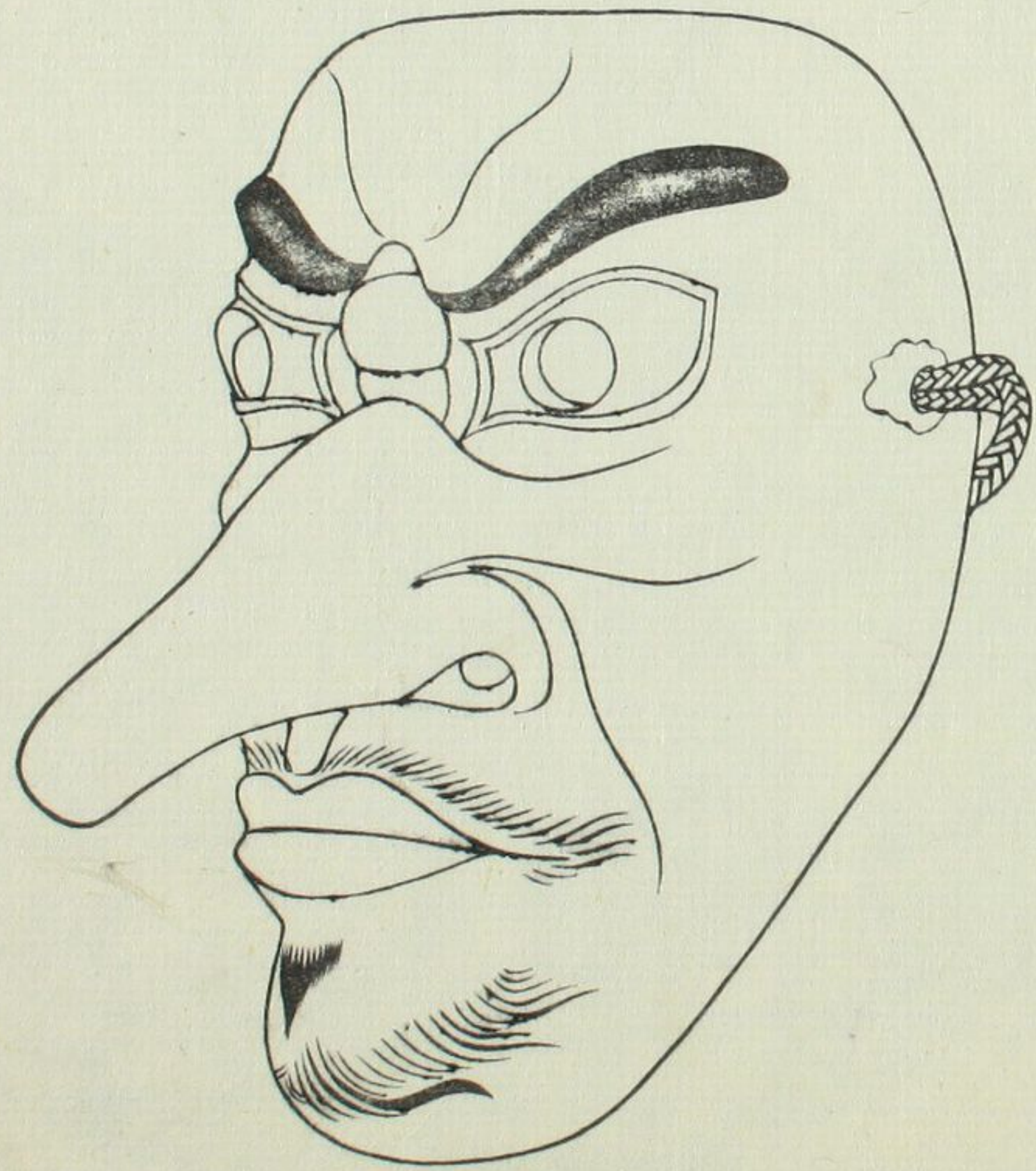
下ニ圖シタル面ノウラ書

巖鳥社ニ舞面承火三年八月日

威國朝日調進

面赤漆眼黒
漆ノゴトシ

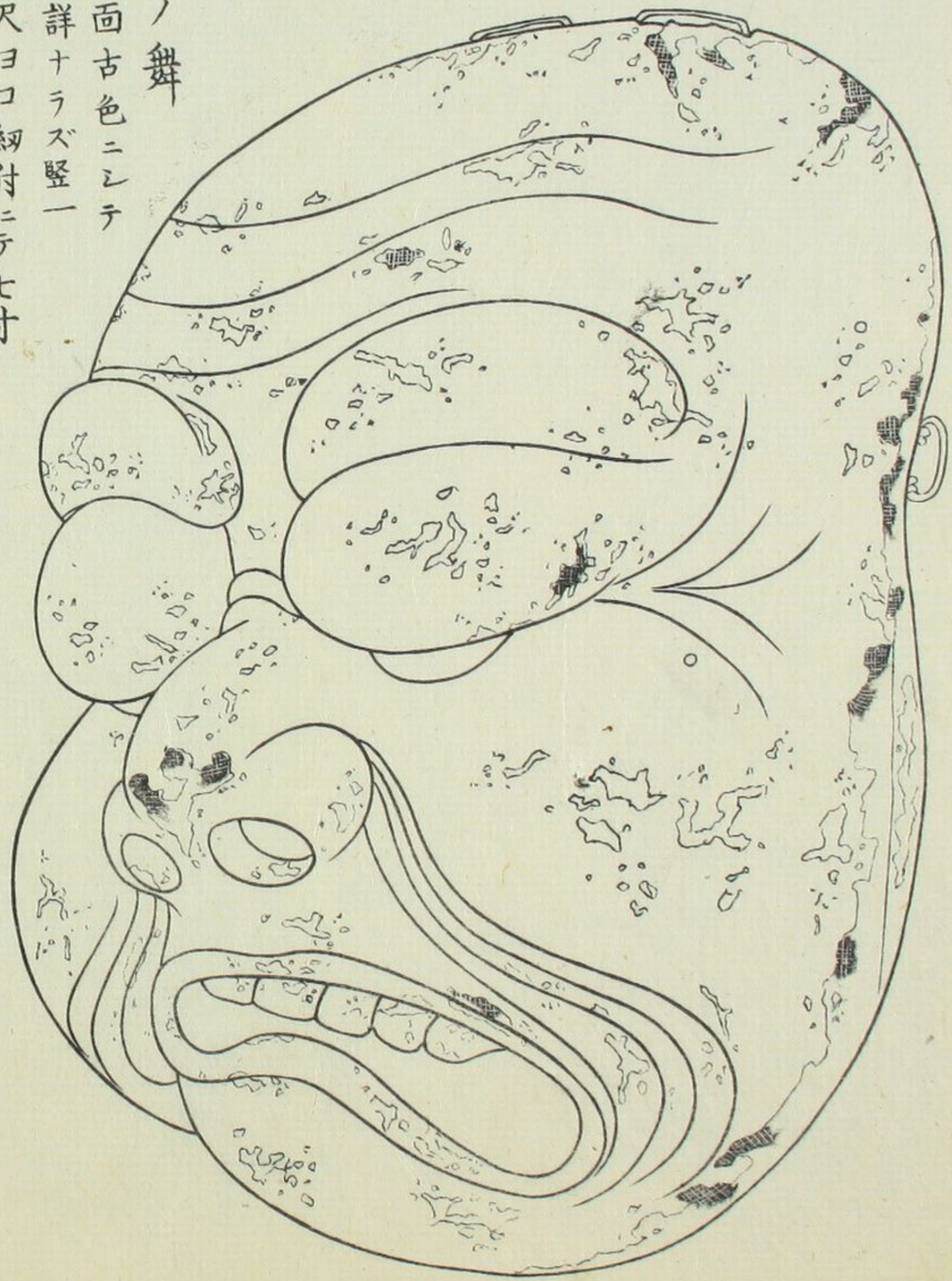
翌七寸ヨ
コ紐付ニ
テ五寸一
分
裏クロヌ
リ



此面四ツアリ當社ニテハ今胡徳樂ニ
用レテソノ實ハ未詳

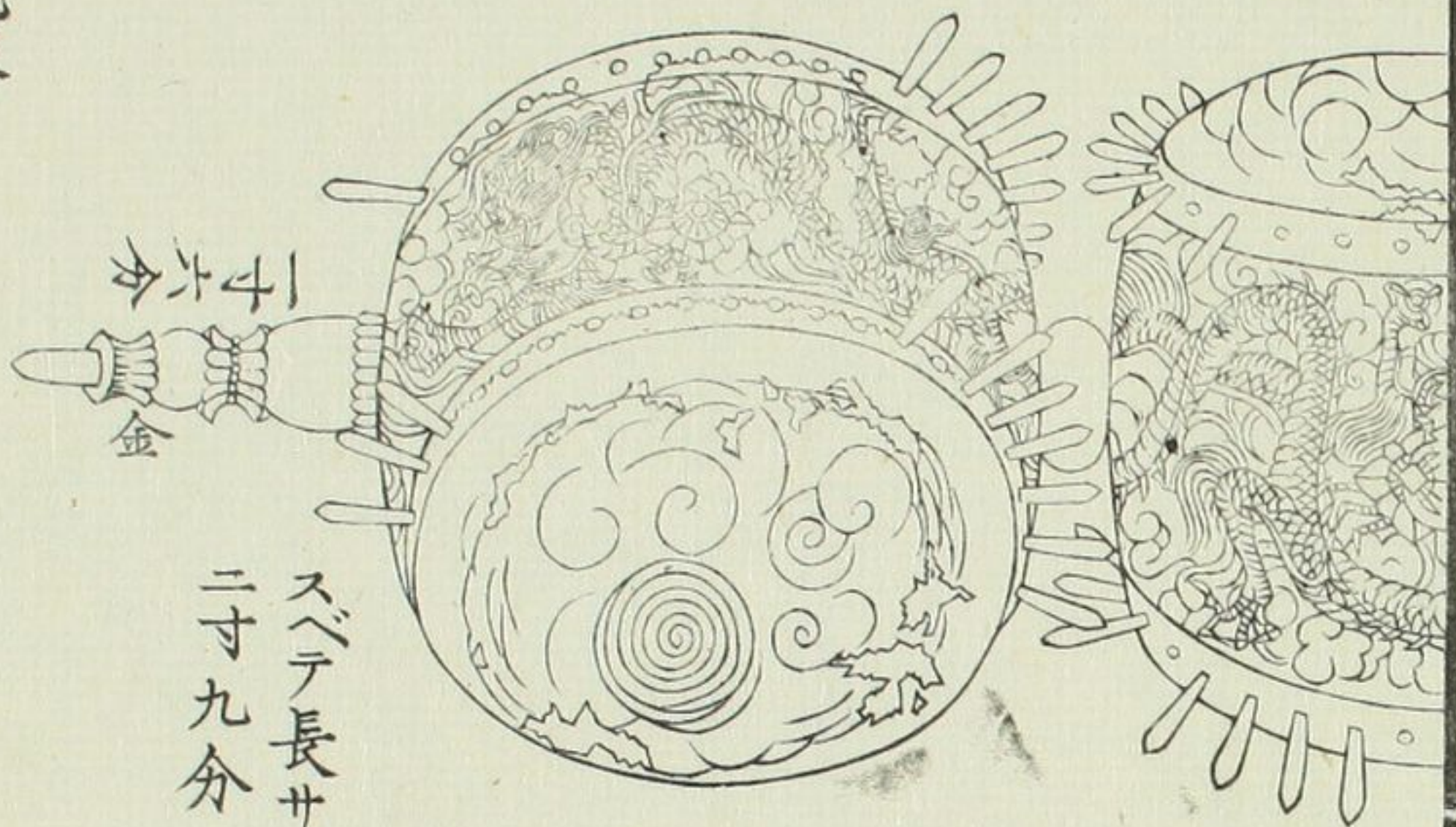
ニノ舞

面古色ニシテ
詳ナラズ堅一
尺ヨコ紐付ニテ七寸



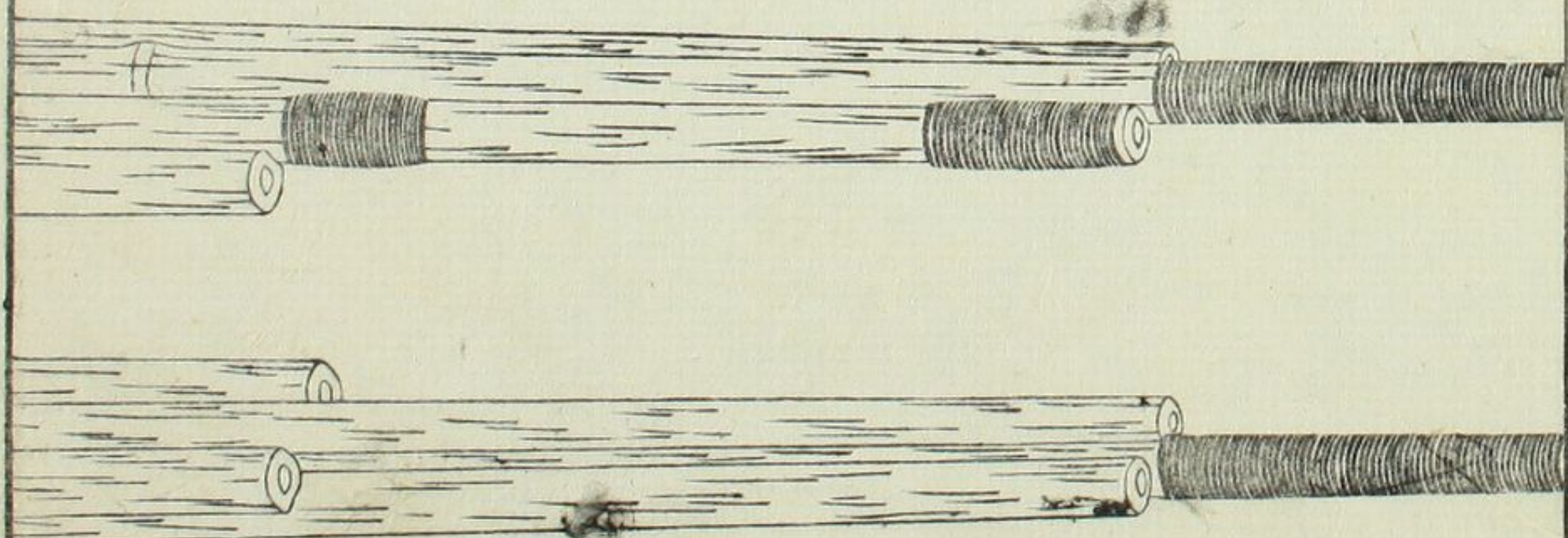
北鼓

胴金地極彩色
皮金地古色ニシテ詳ナラズ



41
金

スベテ長サ一尺
二寸九分



奚婁



柄ノアリ五分

柄上下三十行十一

胴中ノ廻リ二尺三寸九分
高廿六寸五分皮且リ
四寸五分強一方
ヤフレアリ
緒ムラサキ



高倉天皇御笙

笙大サ面ノ如シ

天皇ノ愛翫シタマヘリモノ

ニテ小櫻トイフ名物ナリ

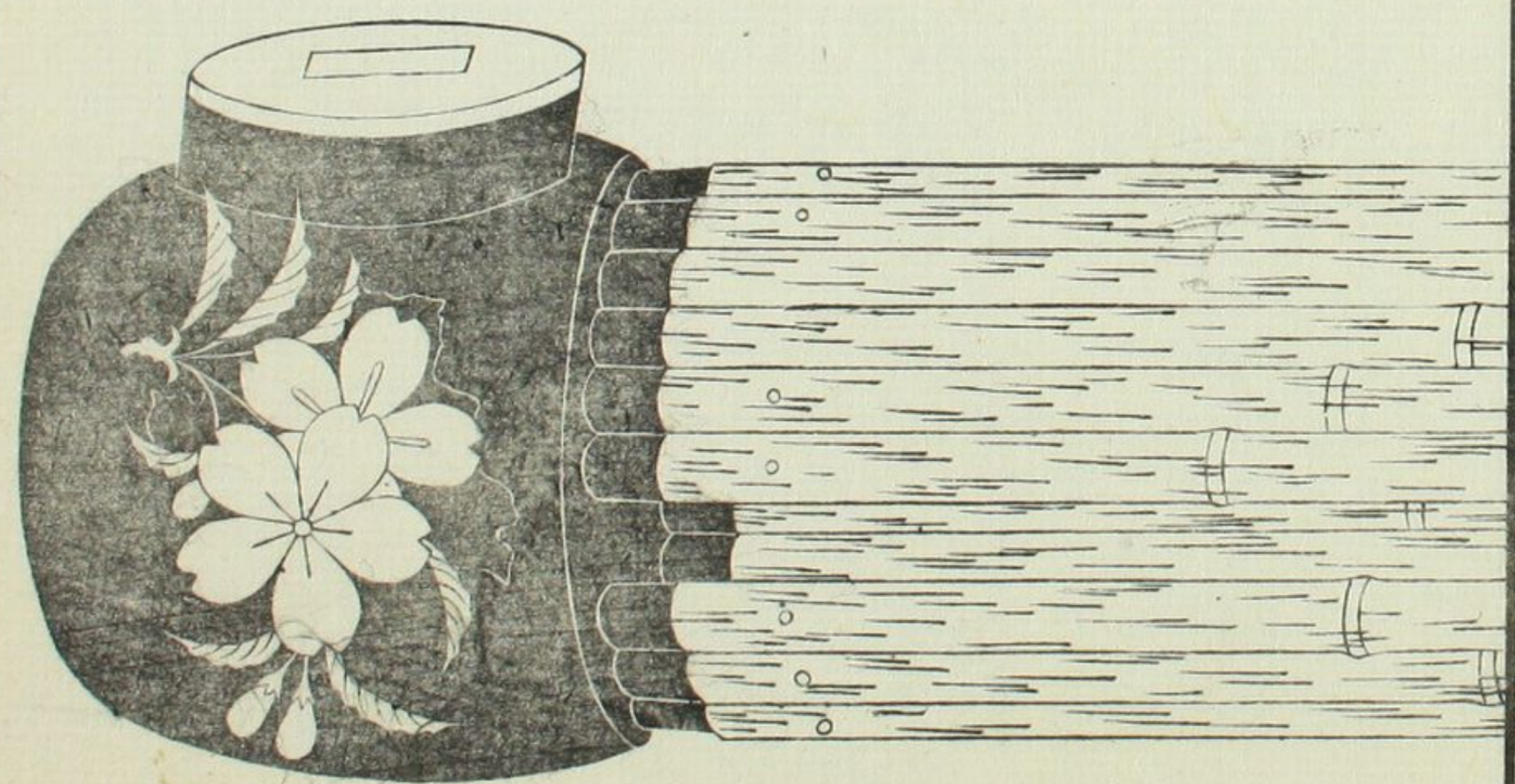
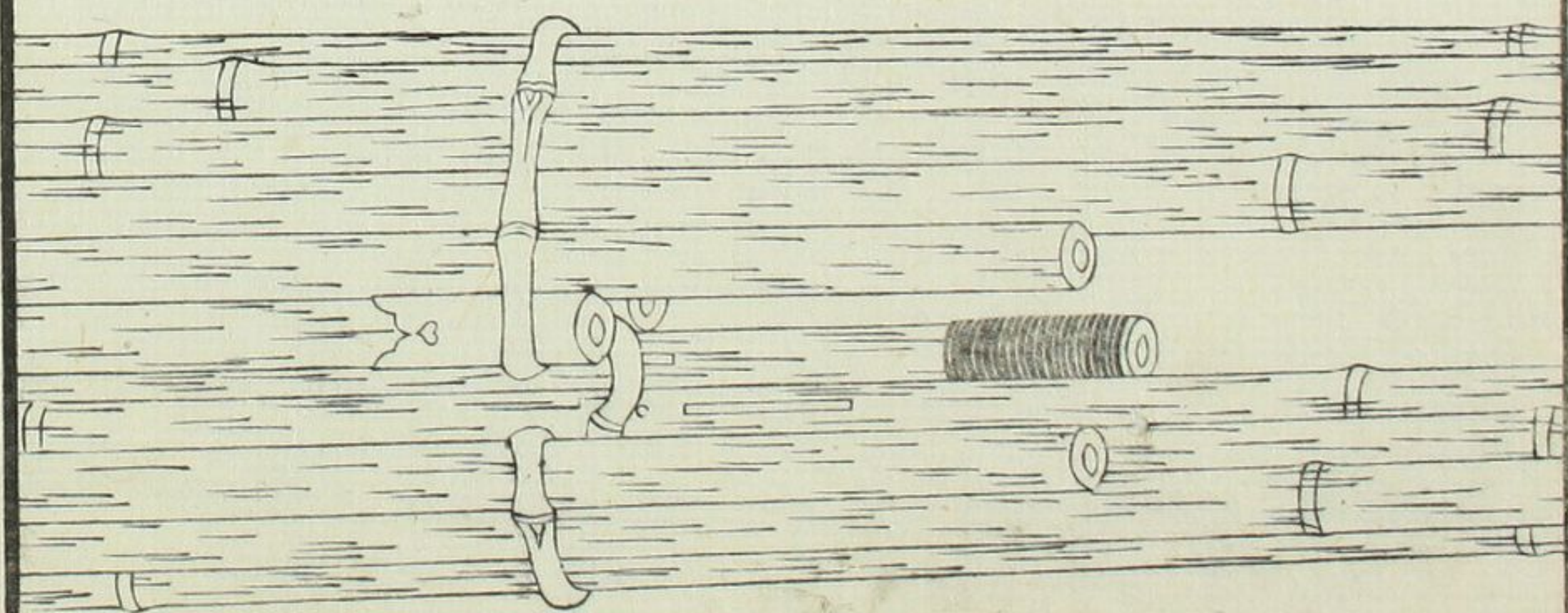
治承四年御幸ノ時神庫

ニ藏メタマヘリトゾ

艶黒漆サクラノ画兼

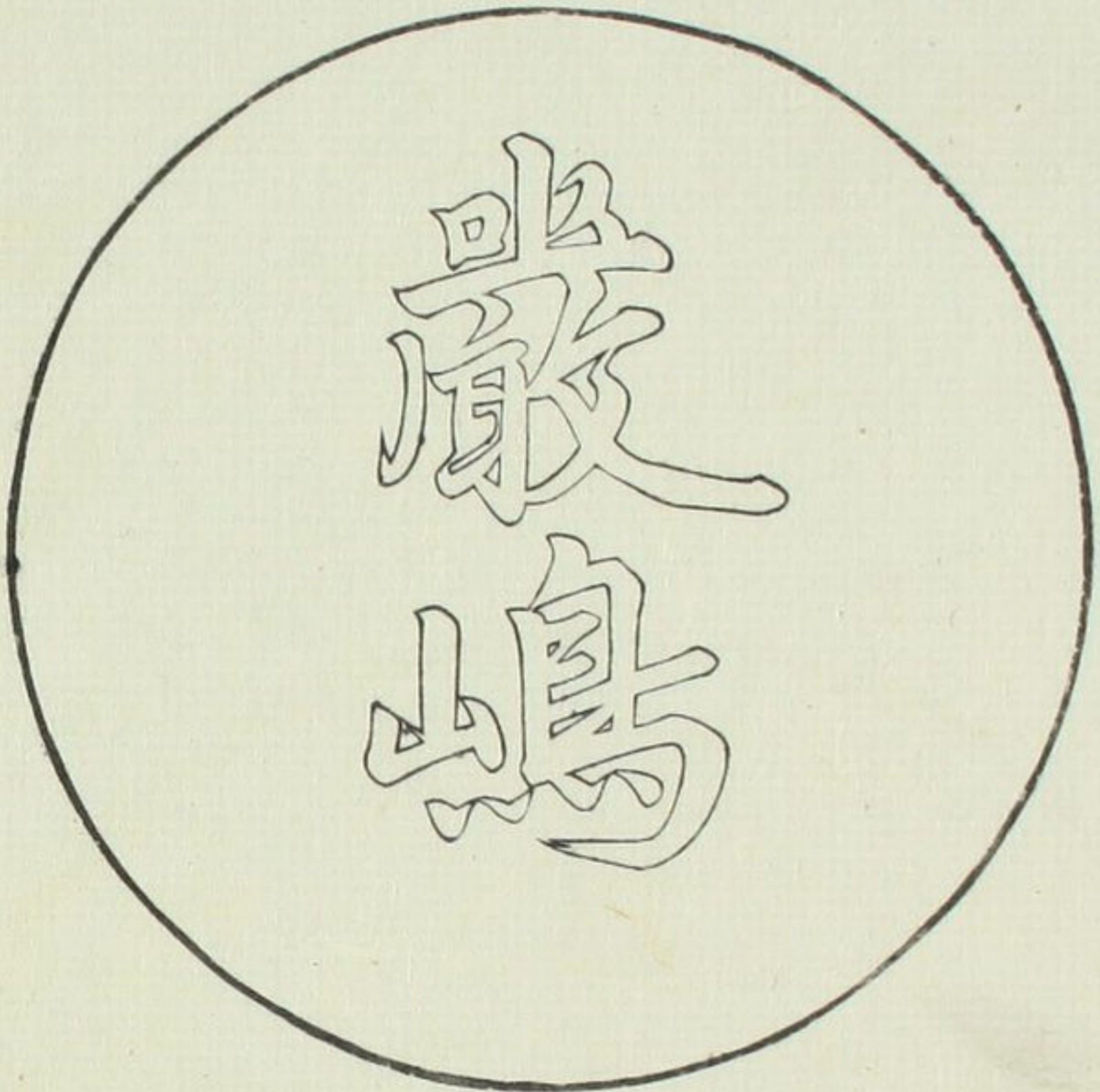
金粉花銀ノウスカ子

黄銀



佐世伊豆守正勝寄附圓鏡

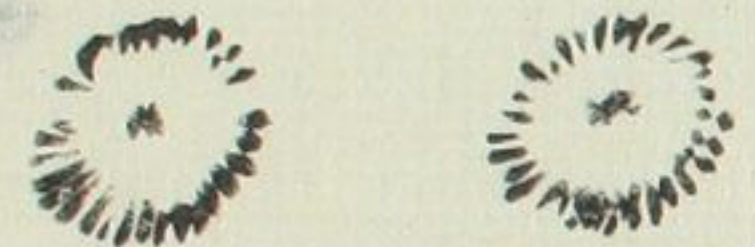
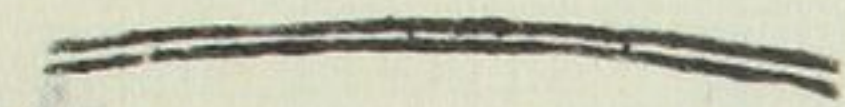
蓋ク口ヌリ文字金箔裏カキオナジ



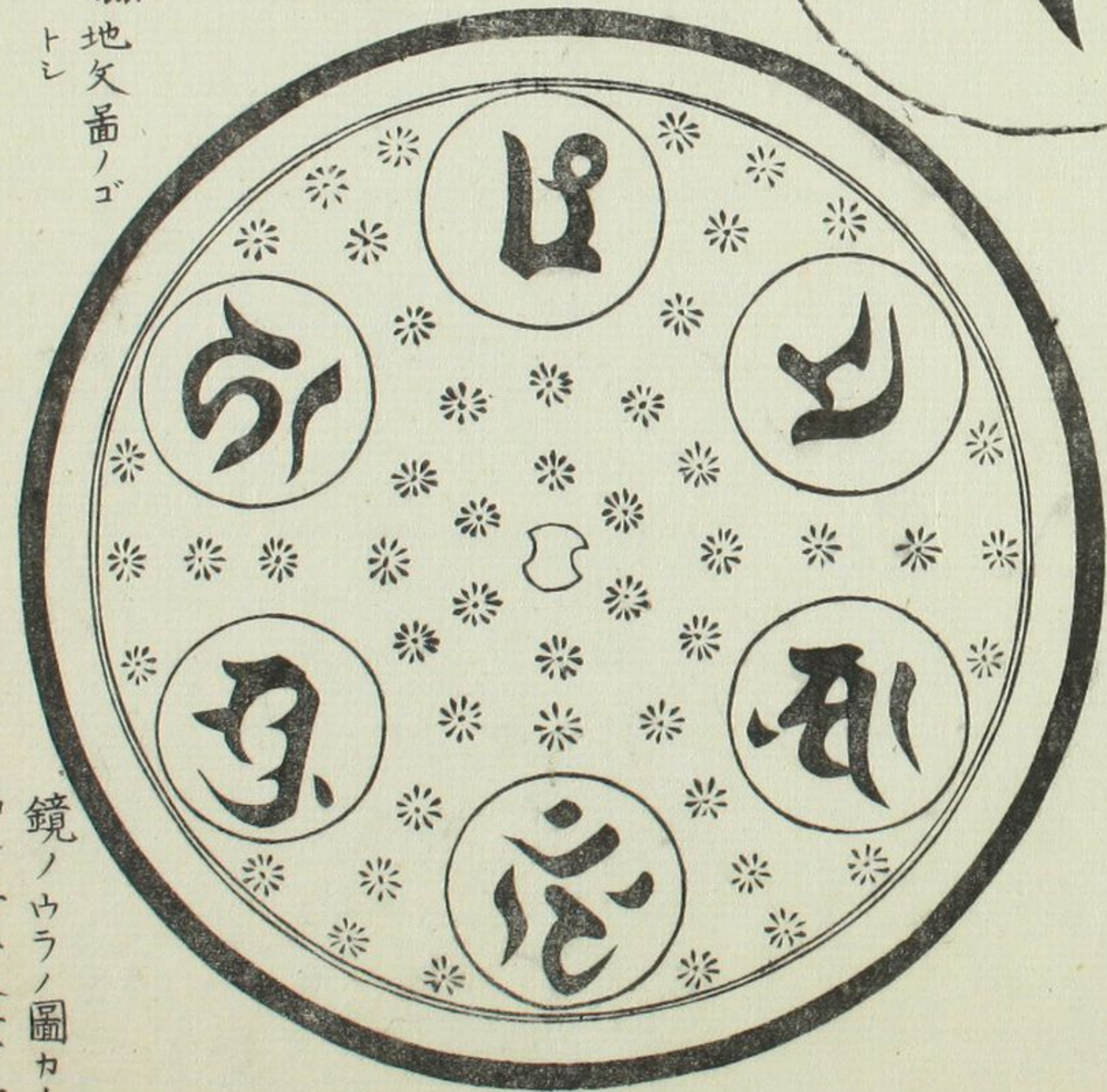
古鏡未磨時其光聚然奪目何況磨後明
 神明之明德一點也無涓埃未末面目露堂々
 此大圓鑑者於朝鮮國高城郡中求之獻之
 於 嚴島大明神醒後恍惚而真得之不亦奇哉
 其翌日與明女合戰遂折其衝夢之所感 神聆
 護也歸朝之後以奉掛之於 神前祝遠大云
 慶長第ニ歳々次丁酉春三月吉旦
 源朝臣佐世伊豆守正勝



梵字ノ大卍面ノ如シ



トシ
 地文面ノゴ



鏡ノウラノ圖カクノ
 如シ且リ一尺二寸三歩



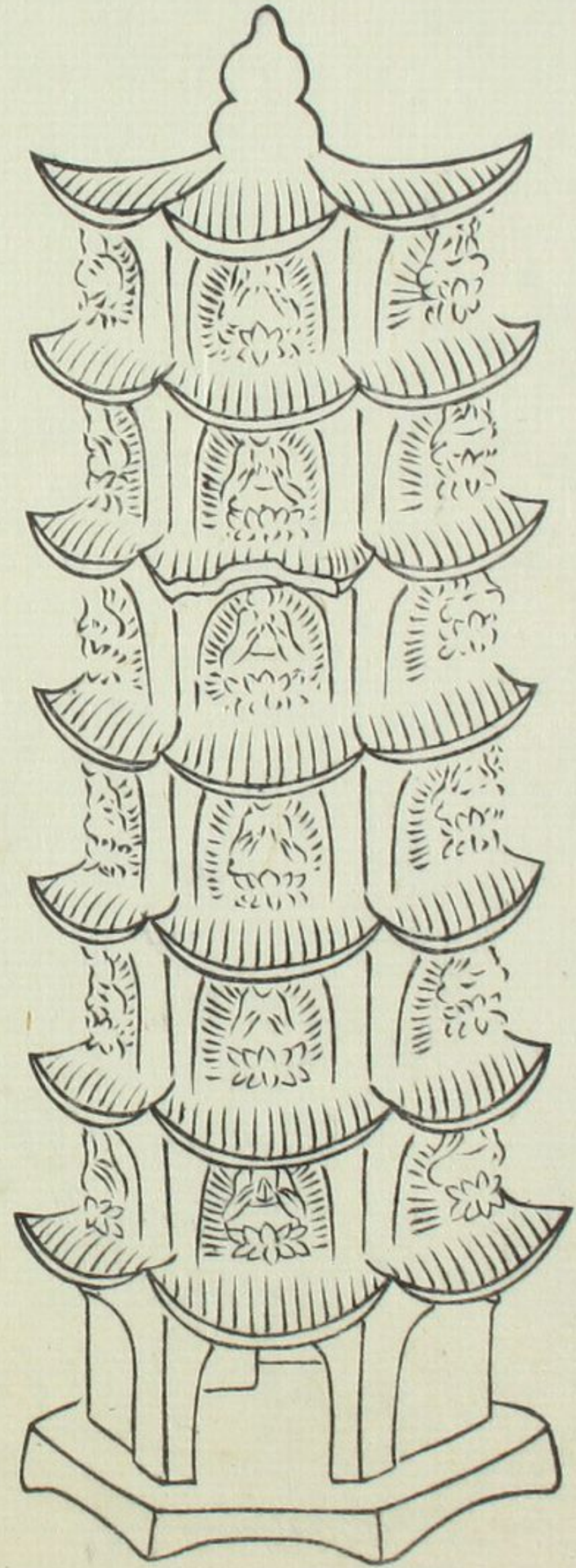
大願寺什物鐘

豎一尺二寸八歩且リ七寸
 三歩縁厚サ七歩五リ

元曉菴小鐘

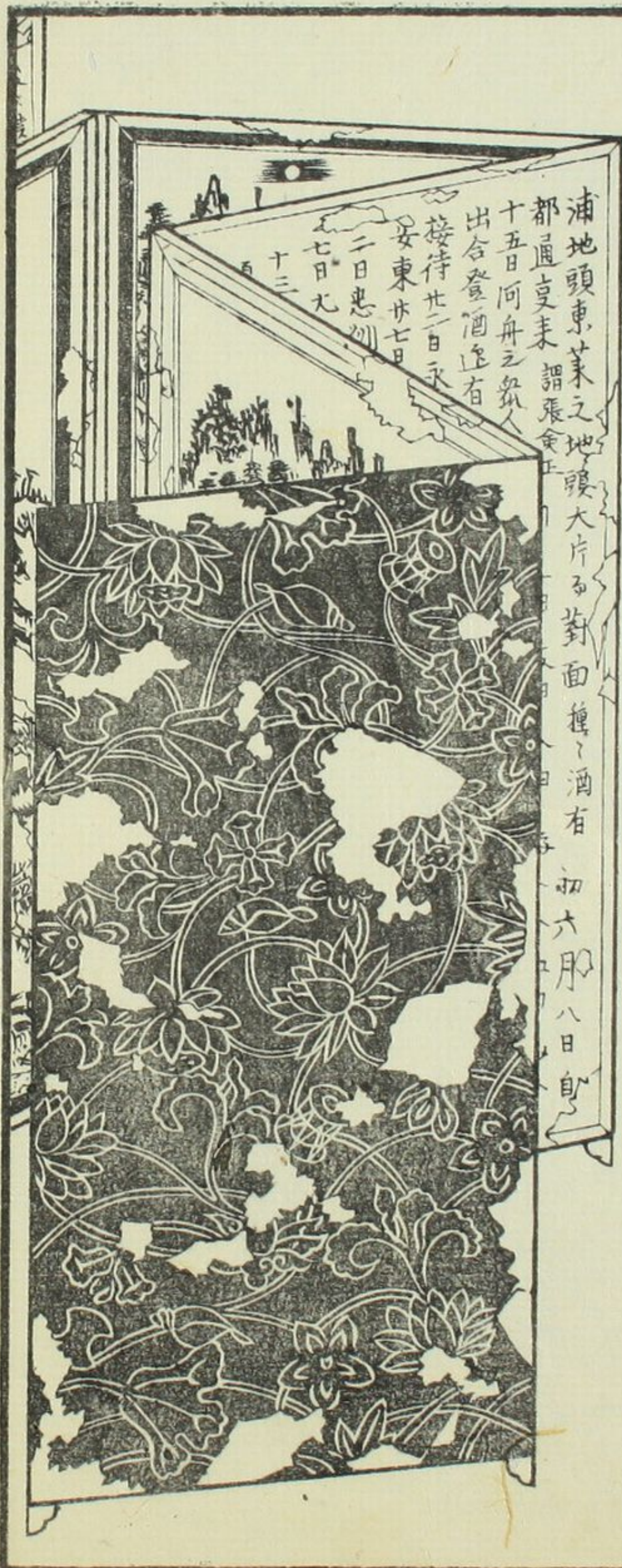
音礎之塔

夕カ廿一尺一寸上ノ且リ四寸一步下ノ且リ四寸五歩

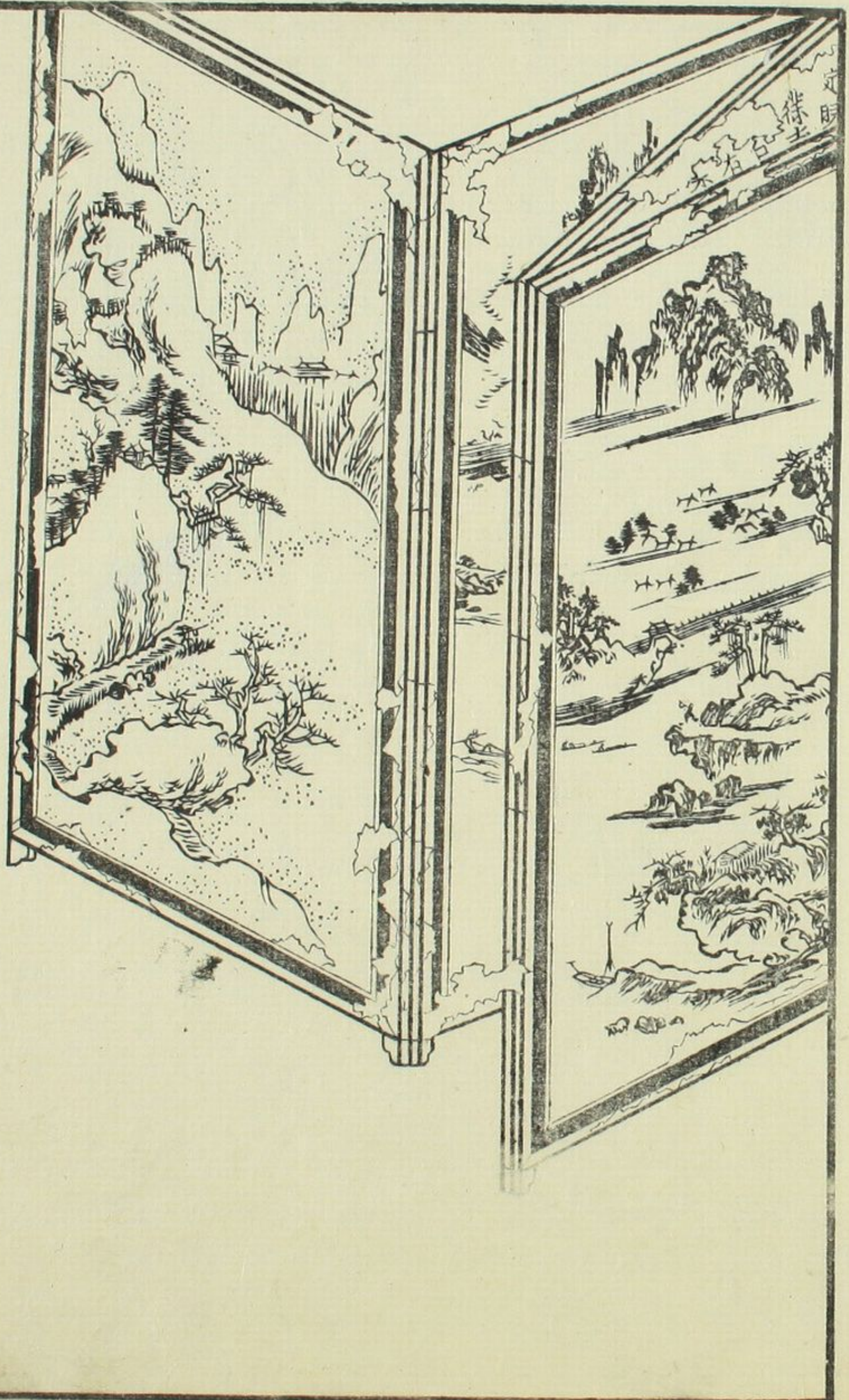


大願寺什物八景野立屏風

八枚折高サ三尺四寸六歩幅一尺八寸七歩厚サ四歩足七歩
 墨塗画ノ山水白高濺帛ニカケリ蝶番藍麻布ヲキセタリ木口モスベテ同ジ背兩
 端ノ折ハ藍漆ノ高ライ帛文蓮花カラ草置ノ如シスベテハ書一タ置ノ如シ表ヘリ
 小ヘリ赤大縁ア申漆トモニ高ライ帛但シ小ヘリ大ヘリノアハロ白帛細金



浦地頭東萊之地腰大折多對面種酒有初六月八日即
 都通夏末謂張金正
 十五日何舟之衆人
 出合登酒逢有
 接待廿二日永
 安東廿七日
 二日忠訓
 廿七日九
 十三



コハ大願寺尊海師大藏經ヲ得ニカタタ渡韓時請得テ携ヘ
 歸レシ所ニシテ同師彼地ニテ日記ヲ其裏ニルニタリ八景野立
 屏風トイフ名義詳ナラス

葦手考

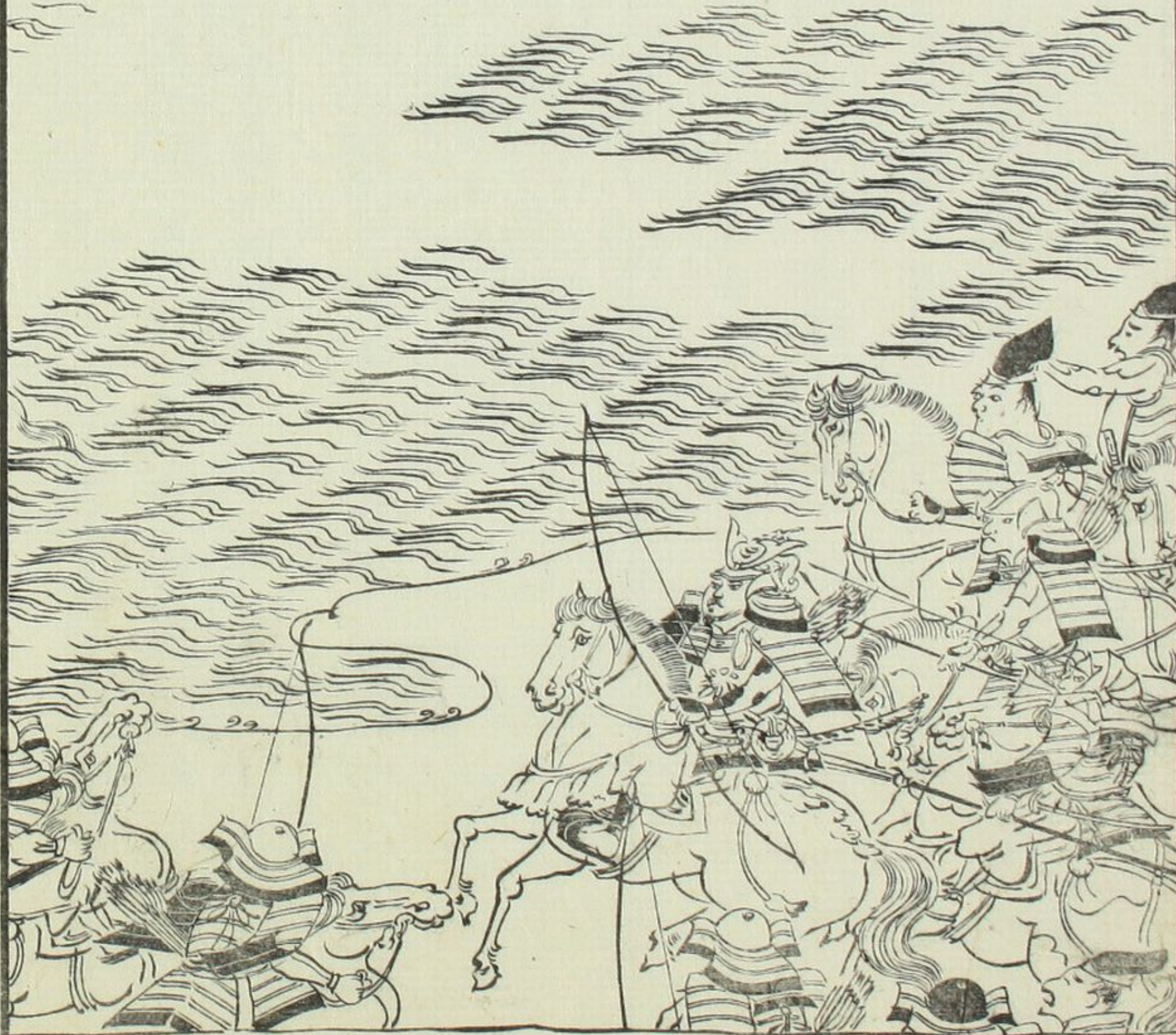
下ニ載スルトコロノ繪扇ノ画ヲ葦手書ト称ズ。コノ葦手トイ
フモノハ。花鳥餘情ニ。葦手のいろ葉のあゝの中よ文字紙
くちり。水石多きなどよもかきなはちり。ト見エタリ。コレニヨリテ
按^{オモ}フニ。ソノハジメハ。タバナホザリノ慰^{スサ}ビニ。葦ノ中ニ哥ノ文字十
ドカキケルバカリニテ。丹青ノエミヲツクスコトニアアラザリツラメト。
世ニ行ハル、ニ從ヒテ。サテノミハ握翫ニタラサルガユエニ。或ハ水石鳥ナ
ドノ體ニ字ヲツクリナシ。或ハ山林草木ナドヲモソヘテ。ヤウクマコトノ
画トモ見ユベクナセルハ。自然ノ勢ヒニテ。ソハ源氏物語梅ヶ元ノ卷ニ。
あゝどの草紙どもぞんくふをかちり紙うた。宰相、中将のい。水の
いきちひゆこふかきなり。そけたる葦のたひざまなど。難波の
浦よかよひこ。こちこかちり行まぶりていたうきみさる所あり。また

いとぬが免〜うひまかへて。文字^{モジ}やう石などのたをまひ。このまかき
たまへるひもあえり。免も於よむ。これいとまひりぬべきものや那
と奥一免でたまふ。トアルニテ知レタリ。水のいきちひゆこふ。マタ葦の
たをまひ。トアルヲ以テ。水石草ナドノ
かひさま。マタ文字やう石など乃
カタハラニ。字ヲカキクハタルヲ知ベシ。サハアレドモ。コレ更ニ六法ノ規ヲタ
ダシテカクワサニモアラズ。サレバコハナニガシノ公達。クレガシノ姫君
ナドノ。画ノ手習ニシタマフコトニテ。葦手トシモイフハ。コノ手習。葦
ヨリハシムルユエナリ。葦ヲハジメニナラヒシムルハ。文字ノ手習ヲ難
波津トイフニヨセテ。画ノカタヲバソノ難波ノ景物ナル葦ヲ取出
タルニソアルベキ。ソノ證ハ。塵添塩囊抄ニ。和泉式部。筆もちびゆ
がみてものかゆいこれやちよそのあゝでちり。續世継
物語ニ。大僧正行慶中畧。天王寺へまうでたまひるふ。ちよそ紙
もだたまふ。ゆふぐななよそまひり紙足波をむたう紙

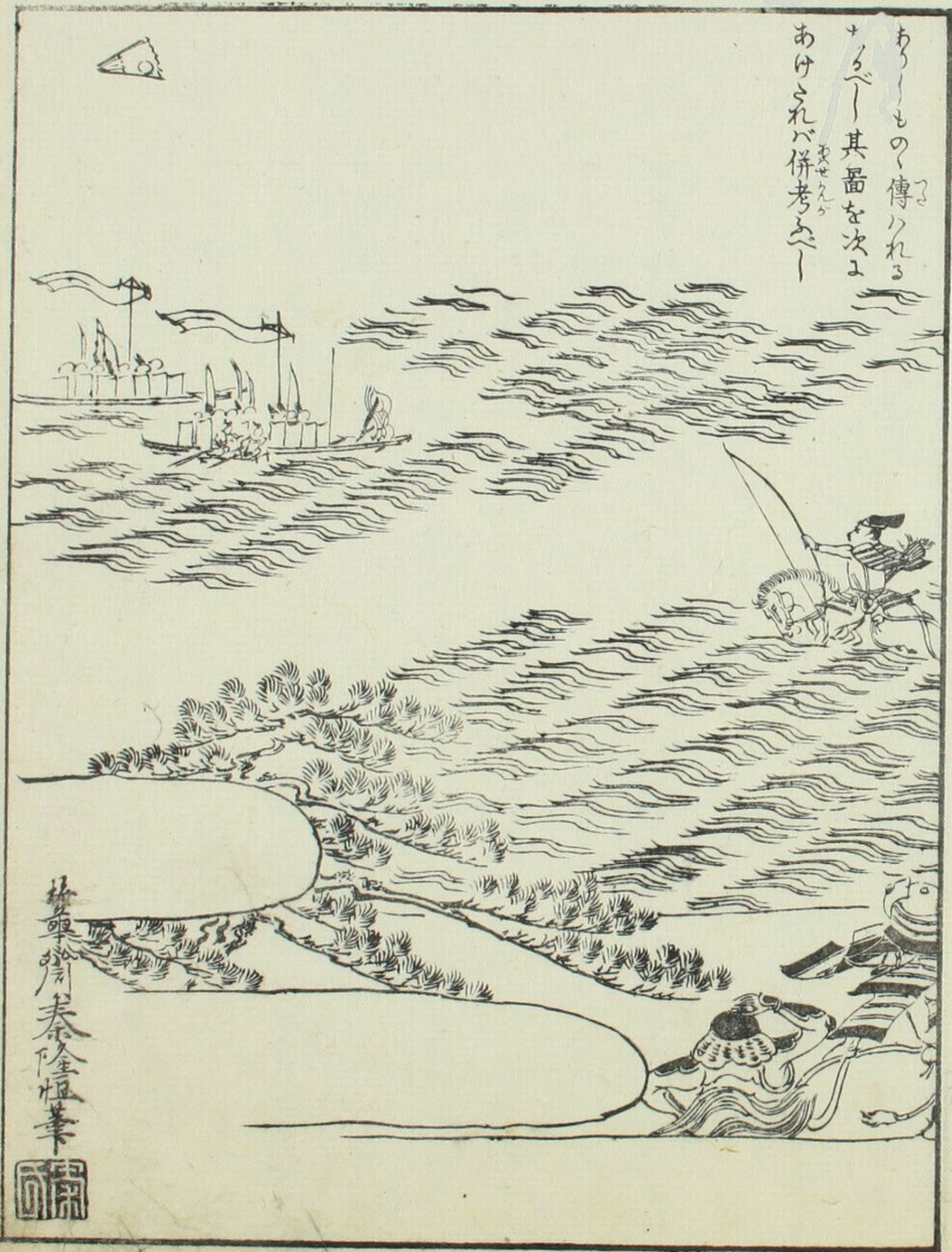
のあしとなりなりとちんたろえし。ことごとこのゆふべの望より
も。なよはのあしでと見えん。げよとゆえたり。うへる層のうは墨。
夕暮のあしでよなりたるもやさしくたろえたり。壬二集。淡
路しなまをたうけて見えしこと波のいろをのあしでちりけり。
拾玉集。ゆふまくれなよをさるるややくるやあしでのうへか
る玉つさナド見エタリ。イツコカ葦ノ生ヒサル浦アラム。然ルヨミ
ナカク。葦手ヲバ難波ニノミヨセタルニテモ。字ノ手習ニムカヘ
テ。画ノ手習ニセシモノナルヲ知ベシ。カクテ後ソノ手習ニセシ葦
手ノ風流ナル趣ノアルヲ以テ。種々ノモノ、文様ニモ十セリ。ソハ
逍遙院實隆公ノ五月雨の記ニ。香包ノ繪ニ葦手アリテ。愚得隨
筆ニコレハあしひきの山さくら戸城あちたきてこがまつ人をこれ
うとむる。トイフ哥ヲアシデニカキタルナリ。トイヘリ。マタ中右記ニ

御堂御劔安志天蒔繪ノ細劔。マタ飾抄ニ從殿賜葦手劔平緒ニ
筋ナドアルハ。劔ノ鞘ノ蒔繪ナリ。台記ニ。入道殿御劔中畧平緒同
葦手也。件平緒鷹司殿自身付手繪云々。マタ園大曆ニ。平緒文葦手。
ナドアルハ。平緒ノ文ナリ。衣服ニカケルハ中務集ニ。ひいなの裳あ
してみて。きつ波をひてぎ。煉のちぬりし。このあしも
そよといをなすトアルナド。ソノ外ニモ十ホイト多カルベケレドフ
トハオモヒイデズ。スナハチコノ繪扇ノ葦手ナドモ同ジタグヒナリ。
コノ葦手ノ画ハ。表ハ。ちる梅の色も白ひもそひつるふなとかとく人
はなくん。裏ハ子日を取中をそぢてみどりたるさが。野の小松
かきみきなびく。トイフニ首ナリ。サルゴノ画ノコトハ。棚守元貞翁が
考ヘテカケルモノアルヲ。今文ヲ省キ義ヲ摘テ。コニ註シテ好事
ノ士ノ願ヲ解クモノナリ。

平家物語奈須与市
 扇の的の糸子（おとこ）柳
 此扇とりのハ故
 高倉院嚴島御幸の
 時三十本きり立明神
 神納あり紅目丸の丸
 の扇平家都を落し
 時神主佐伯景弘此扇
 を取出しこれハ帝の御施
 入明神の御秘藏日ハ
 故院の御情帝業の御
 守たふし此扇を持せ大
 まひなら敵の矢のつて
 其身はあさりしとて祝
 言しまぬせむるまうくと
 見えたりたもふ今宝庫
 也
 高倉院の御扇といふもの
 あれとかの日の丸の扇と
 まらよいらしくことなむせの
 さればこの別は御神納



ありしもの傳りれる
 なるべし其畧を次よ
 あけされば併考ふべし



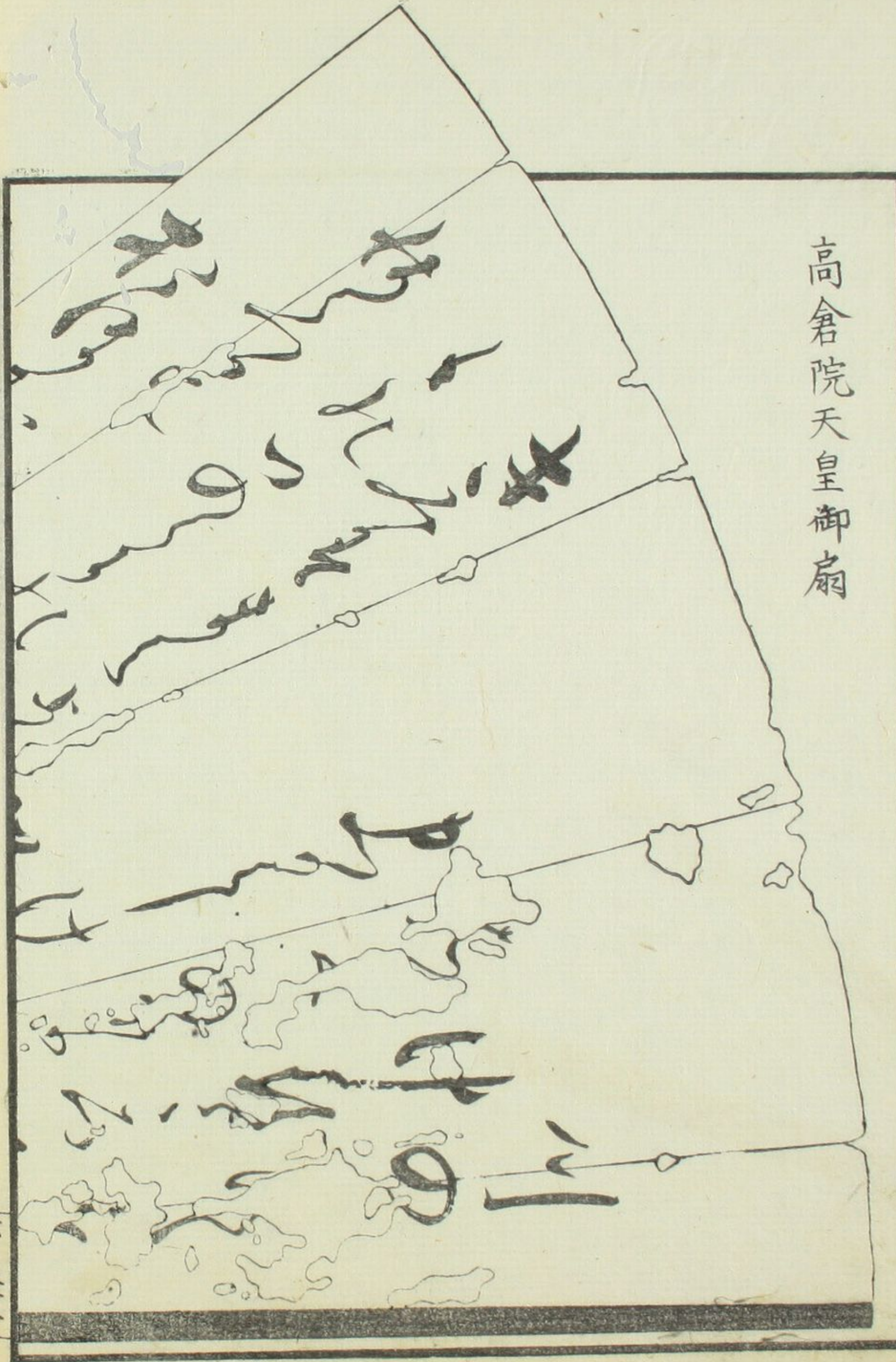
後醍醐天皇
 隆興元年
 春
 隆興元年
 春
 隆興元年
 春



表ノアシデノウタ。ちる梅のトハ。第一面ニ梅花ノ落タルヲカ
ケリ。色もふちひもトハ。花ノ紅ナルヲ色ニトリ。薫炉ニ煙ノ
タツカタヲ以テ。枝もひニアテタリ。思ひノひヲ火ニトリナ
スハ古例ナリ。そひつるまハ。第二面ニ今ヒトツ薫炉ノアル
コレ第一面ノ薫炉ニツヒタルユエ。そひノモジニアテ。つる小
ハ即ち鶴ニ羽タテリ。コレナリ。なとかとつるハ。なとかとノ
四言ハ。字ヲ以テ画セリ。第二面ニあトヤウニミユル即チな
ナリ。第三面車ノウヘニカケルガトノ字ナリ。はるハ車ヲ
以テ譬ヘタリ。以下車ヲ以テ車ノ輪半破レタルヲカケリ。コレ
あつたナリ。訪あつたのよ破るノおトハ假名タガヘレド。當
時ステニウルハシキ文字ツカヒニスラ假名タガヒヨリクミ
エタリ。マシテコレハ画ノ譬喩ナレバ。サバカリノコトハトガムベ

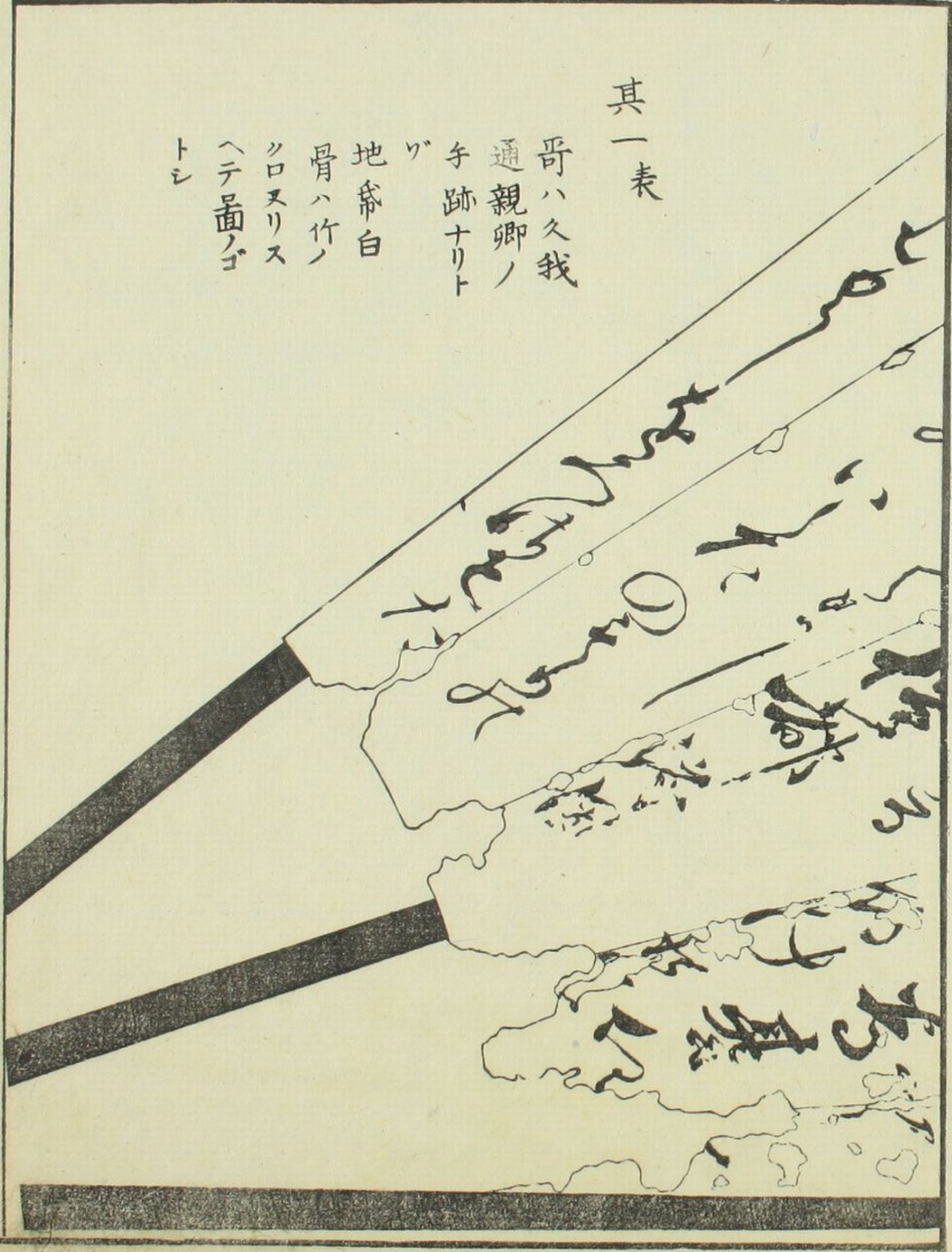
キカギリニアラズ。人ハなるとんハ。前件ノ破車一輪ヲ以テヒ
トハニカレリ。コレハタハトわノ假名タガヘルコト。前件ニイヘルガ
ゴトシ。なるとんハ。輪ノ半ナルヲなるとんニトレルナリ。マタ裏
ノアシデノウタハ。ふれ日まゝトハ。第一面ニ女ノ寐タルト男
ノ起タルヲカケリ。オキ起ト伸トハ意大ヤウ同ジケレバ。伸タルニシ
テ。寐伸スルヲふれ日まゝニカレルナリ。中ふそぢちてハ第二
面ニ稚児ノ男女ノ間ニ居ルヲ以テタトヘタリ。みとつるなる
ハ稚児ヲみとつ子ト訓メハ。再ビカリテみとつニタトヘなる
ノ二字ヲソヘタリ。さか野の小松ハ。第三面たつト云字ヲ
松ノ枝ニツクリナセリ。野のハ第二面ニ比シト字ニテカケ
リ。こまハ第三面ニこまトカケリ。つハ鶴ヲ以テアテタリ。ツル
ノ約ツナルユエナリ。うはこねなびくハ。第一面第二面ニワタ

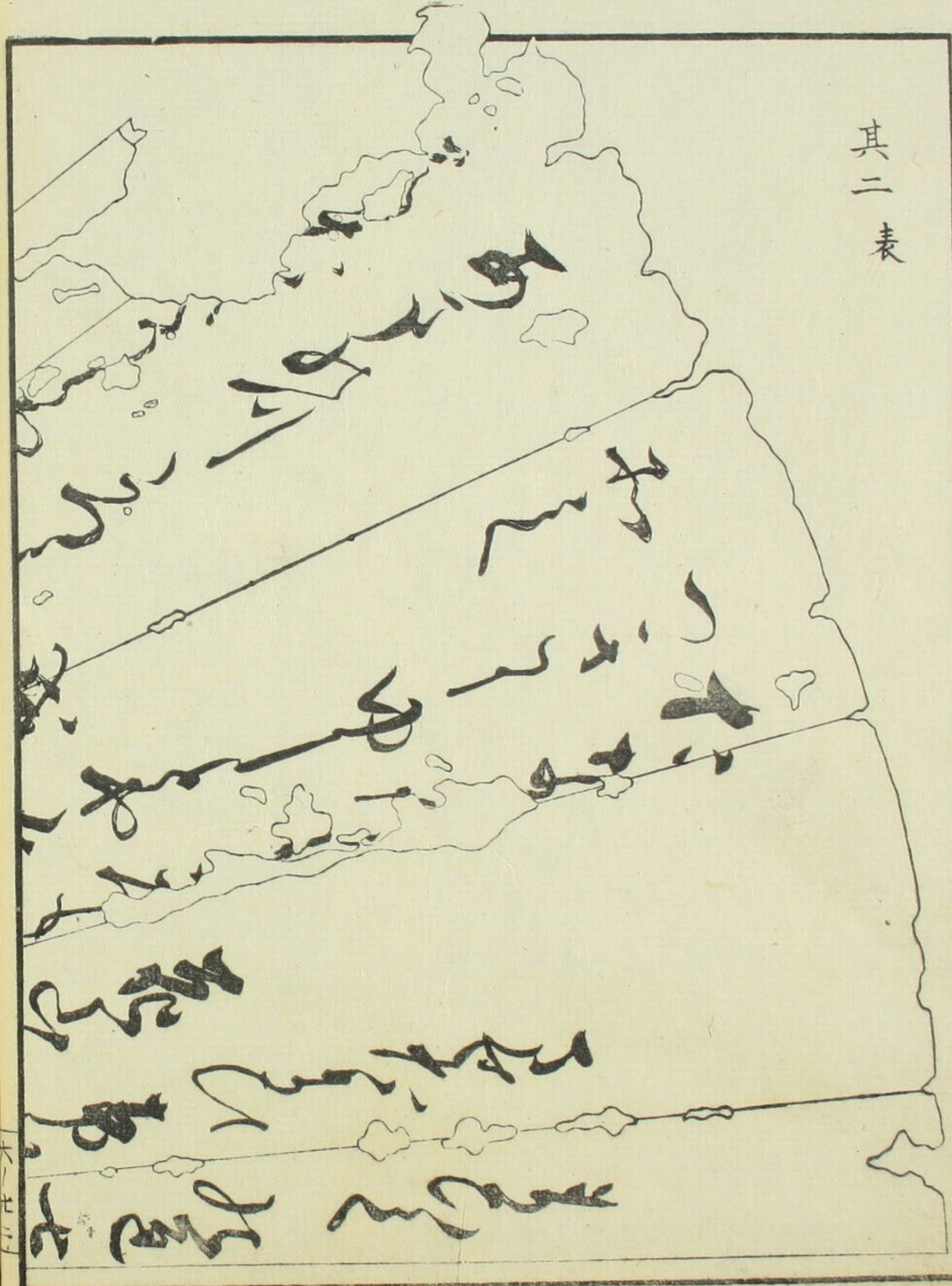
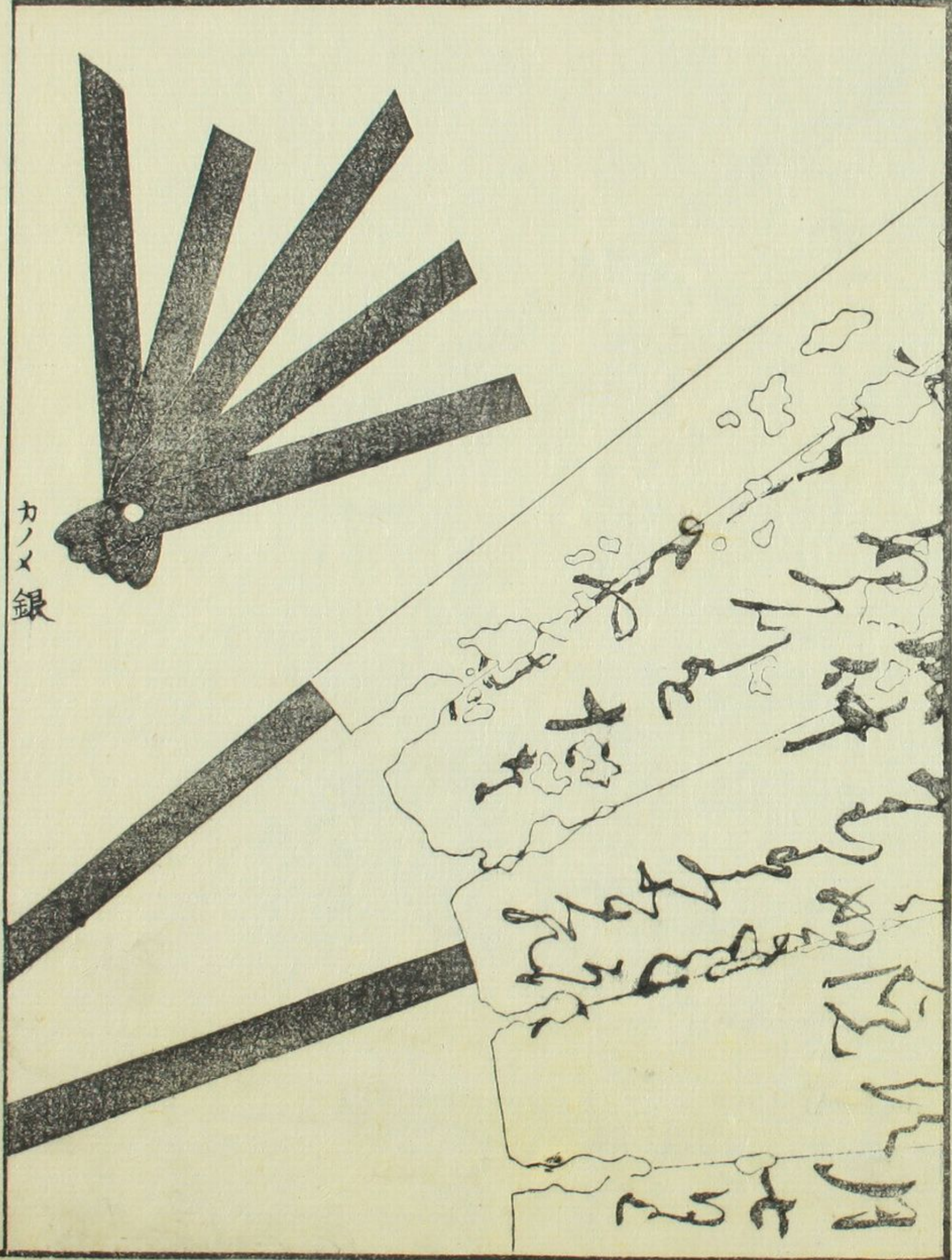
高倉院天皇御扇



其一表

哥ハ久我
通親卿ノ
手跡ナリト
ッ
地糸白
骨ハ竹ノ
クロヌリス
ヘテ面ノゴ
トシ





其三裏

其
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

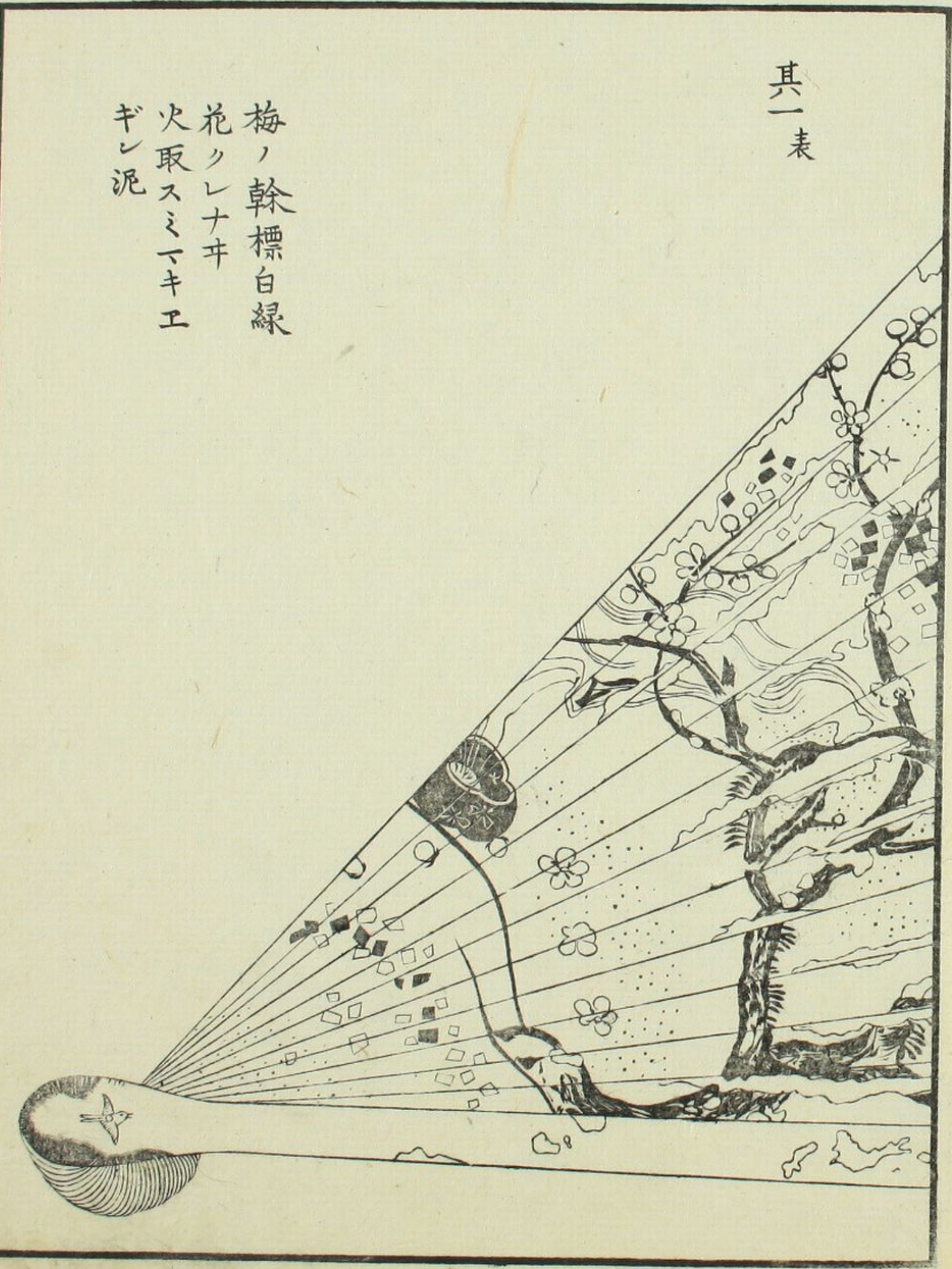
其
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

其四裏

此紙之裏
 亦有一紙
 其字亦與
 前紙無異
 其字亦與
 前紙無異

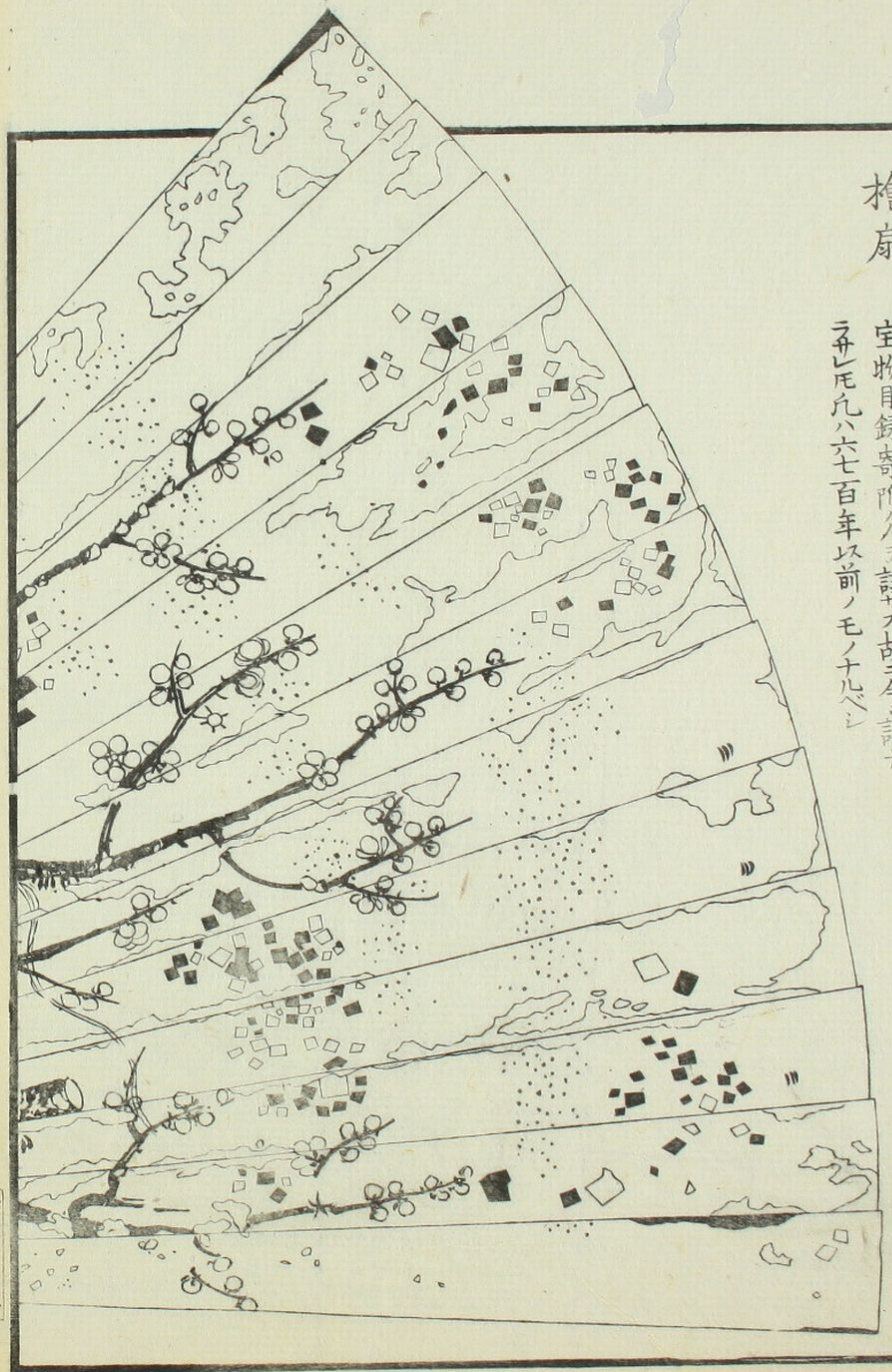
此紙之裏
 亦有一紙
 其字亦與
 前紙無異
 其字亦與
 前紙無異

其四裏



其一表

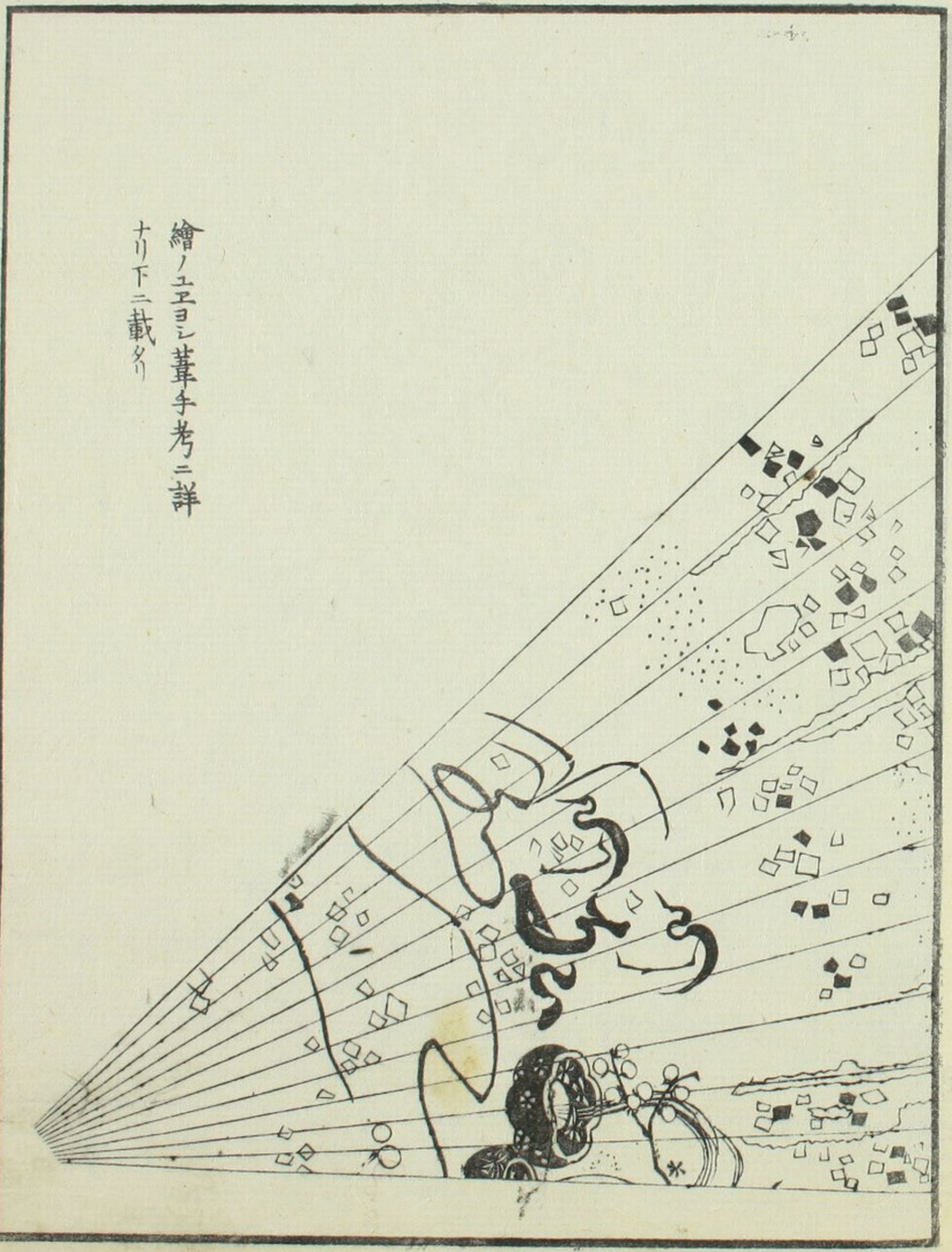
梅ノ幹標白緑
 花クレナキ
 火取スミマキエ
 ギン泥



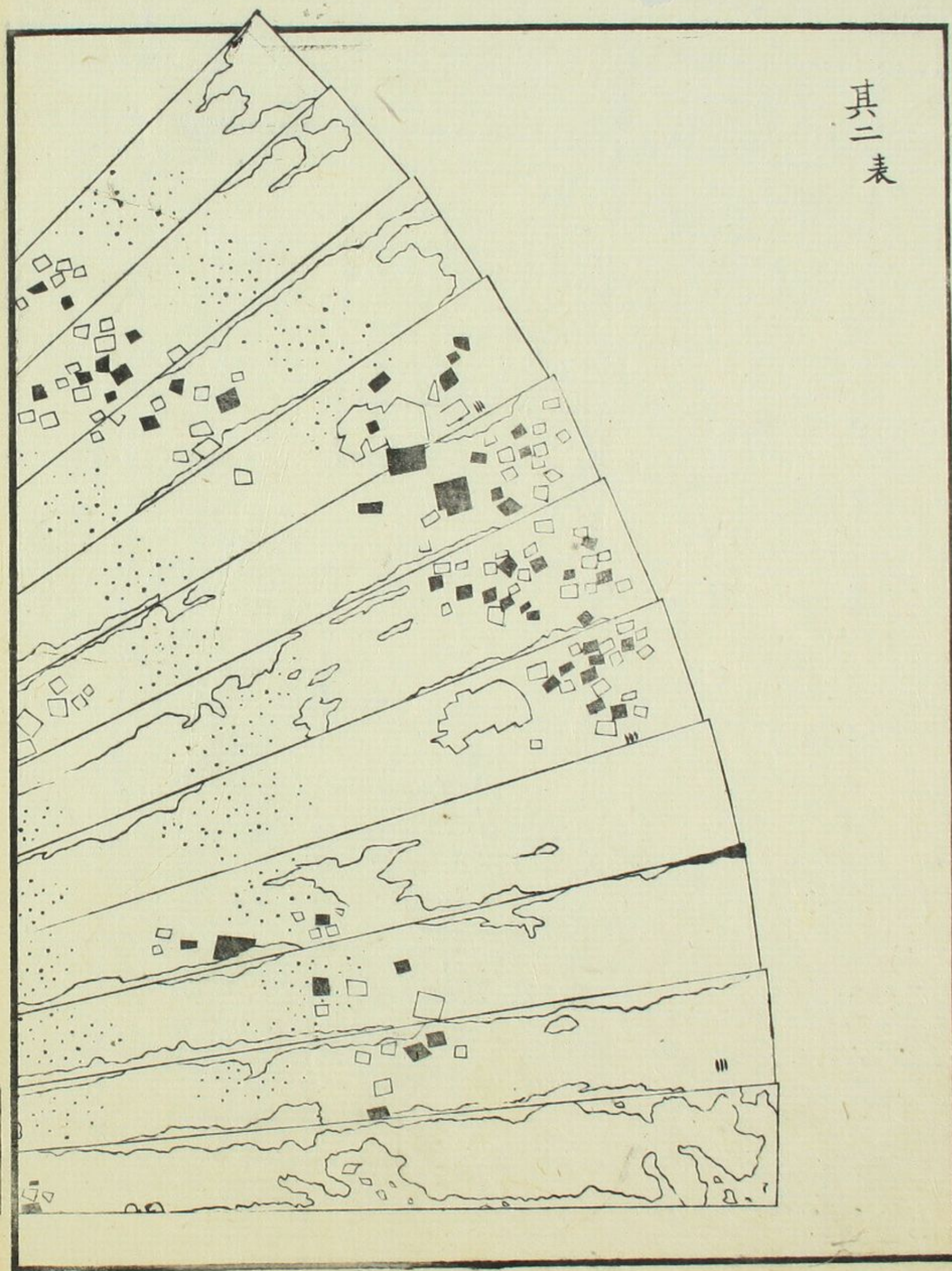
檜扇

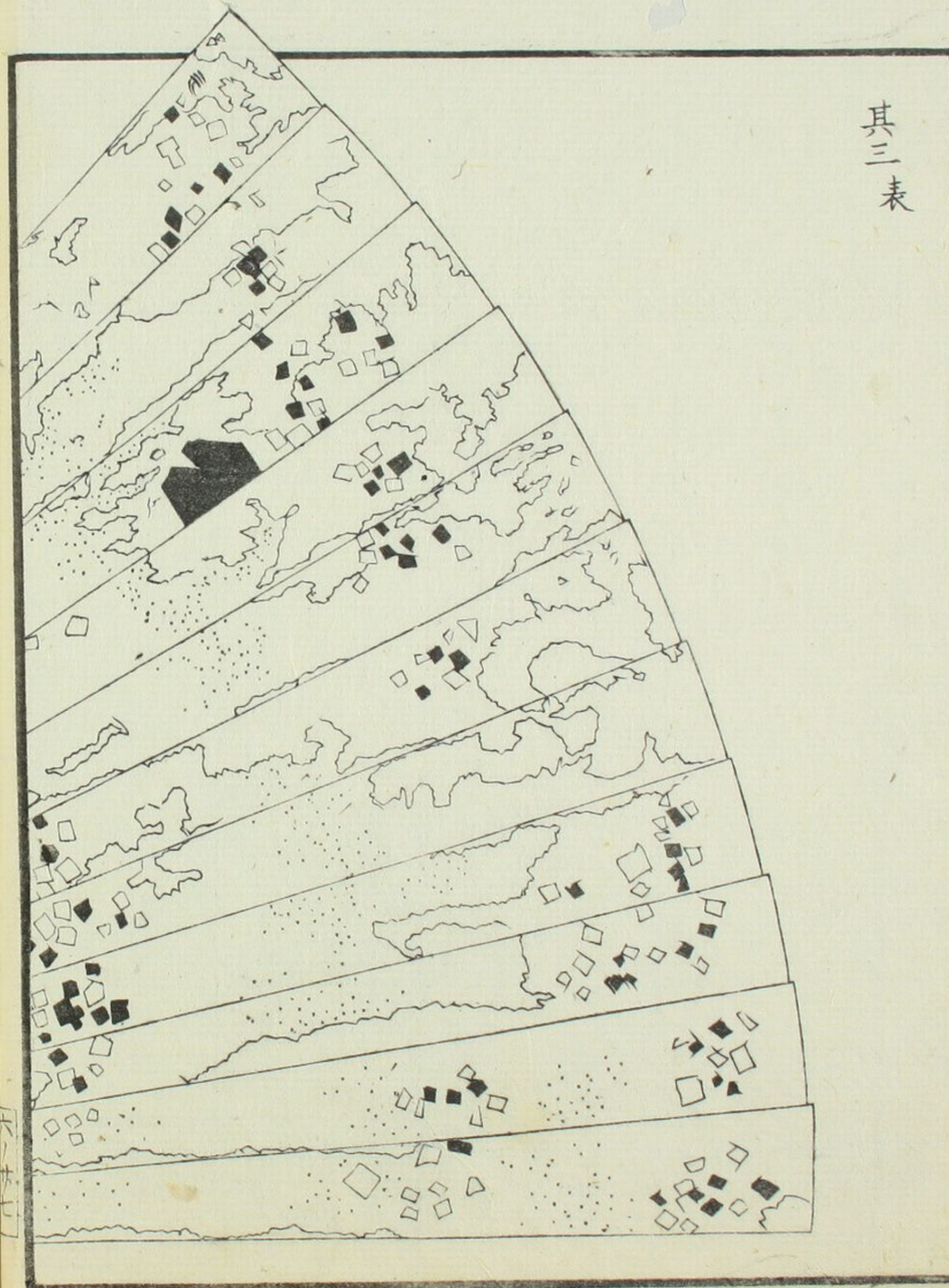
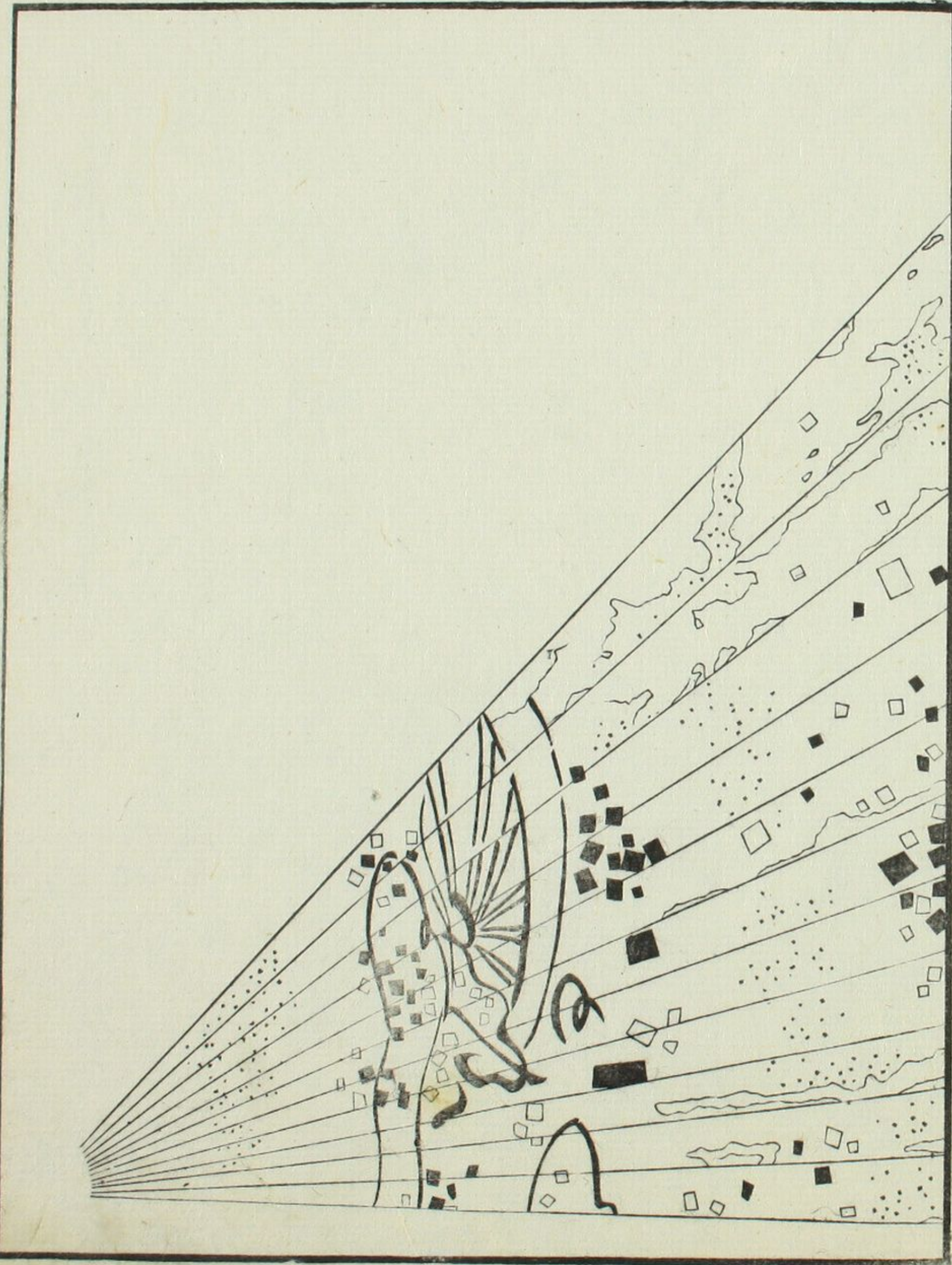
宝物目録寄附人ヲ註サズ故ニ今詳ナ
 二并レ凡ハ六七百年以前ノモノナルベシ

繪ノエヨシ葦子考ニ詳
ナリ下ニ載ル



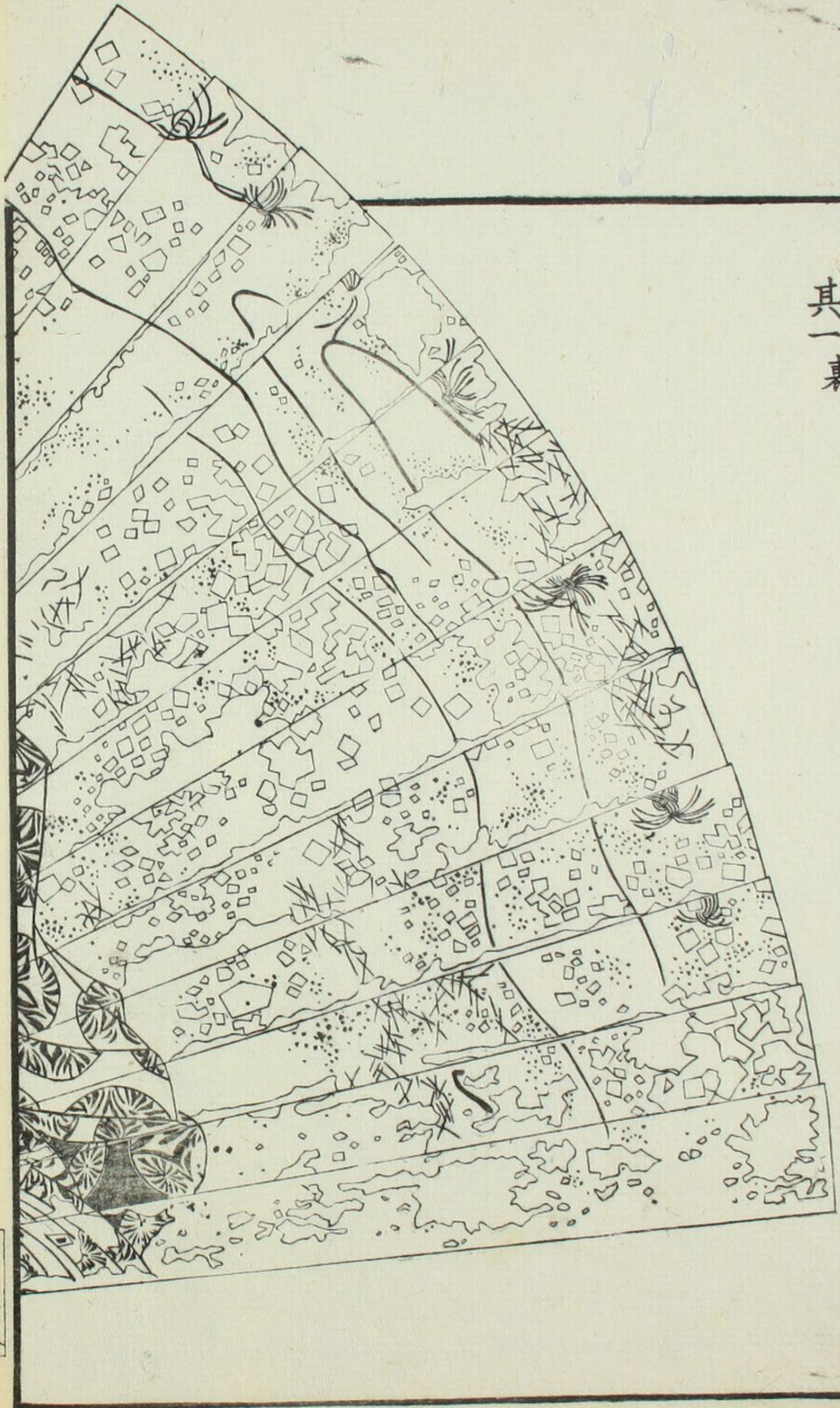
其二表





其三表

其一裏



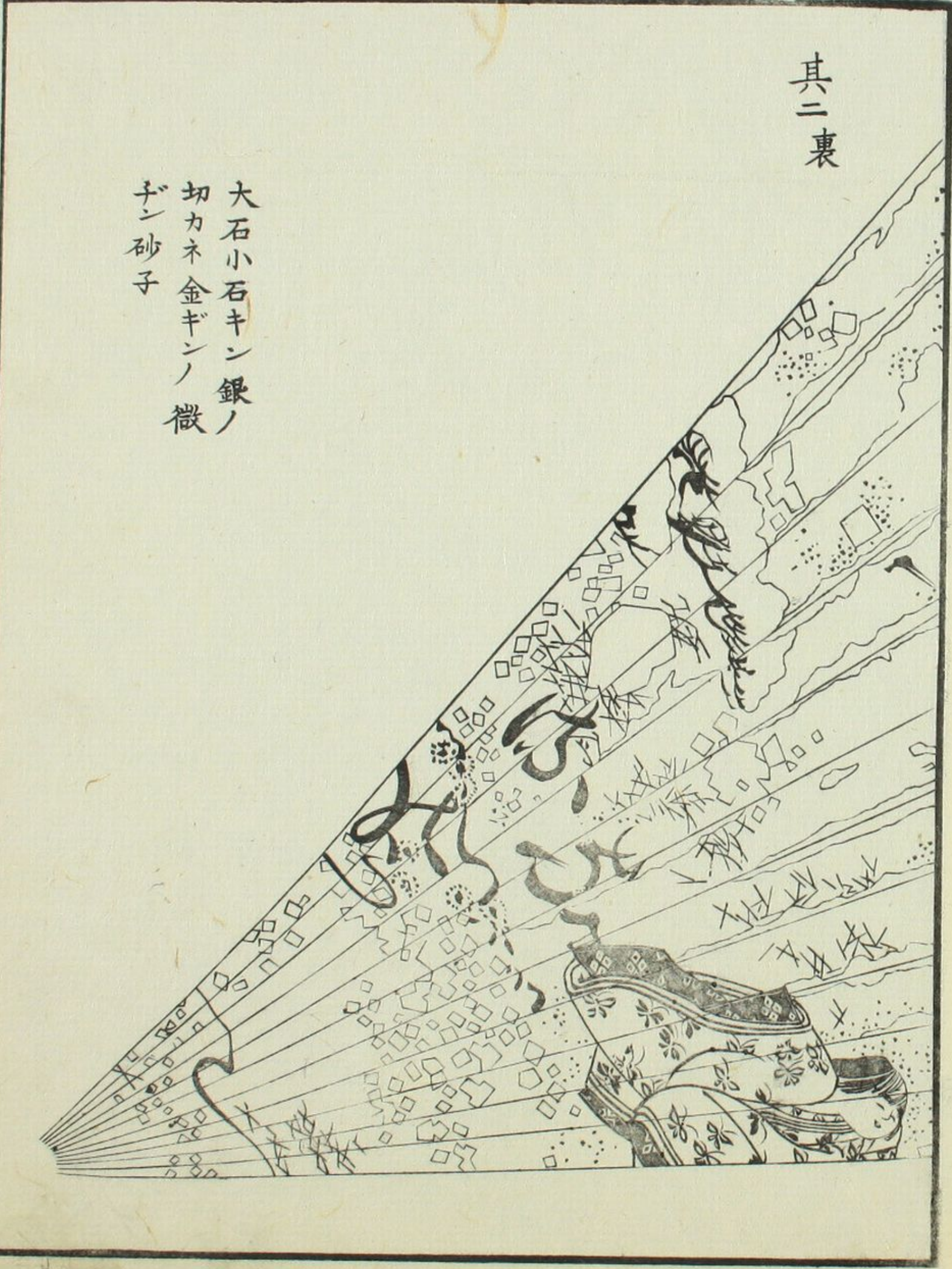
六ノ七八

公卿直衣クビガミ
ハダ袖白身薄縹
サシヌキ緋青モン
銀泥

今按ニクビガミハ
夕袖ノ白キハ直
衣ハ表ミナ白ナ
レドウラノ縹ヨ
リニホヒテ身ハイ
ロアリトミエ首ガ
ミ鱗袖ハオモテノ白ヲ
ヲリカヘシテ裏トシタルモノ故
ニウラヨリニホフ色ナシヨリテモハラ白キナリ
女房ウハギウスクレナ年女ギン泥張袴紅
ヒトへ胡粉五ツキヌ紅

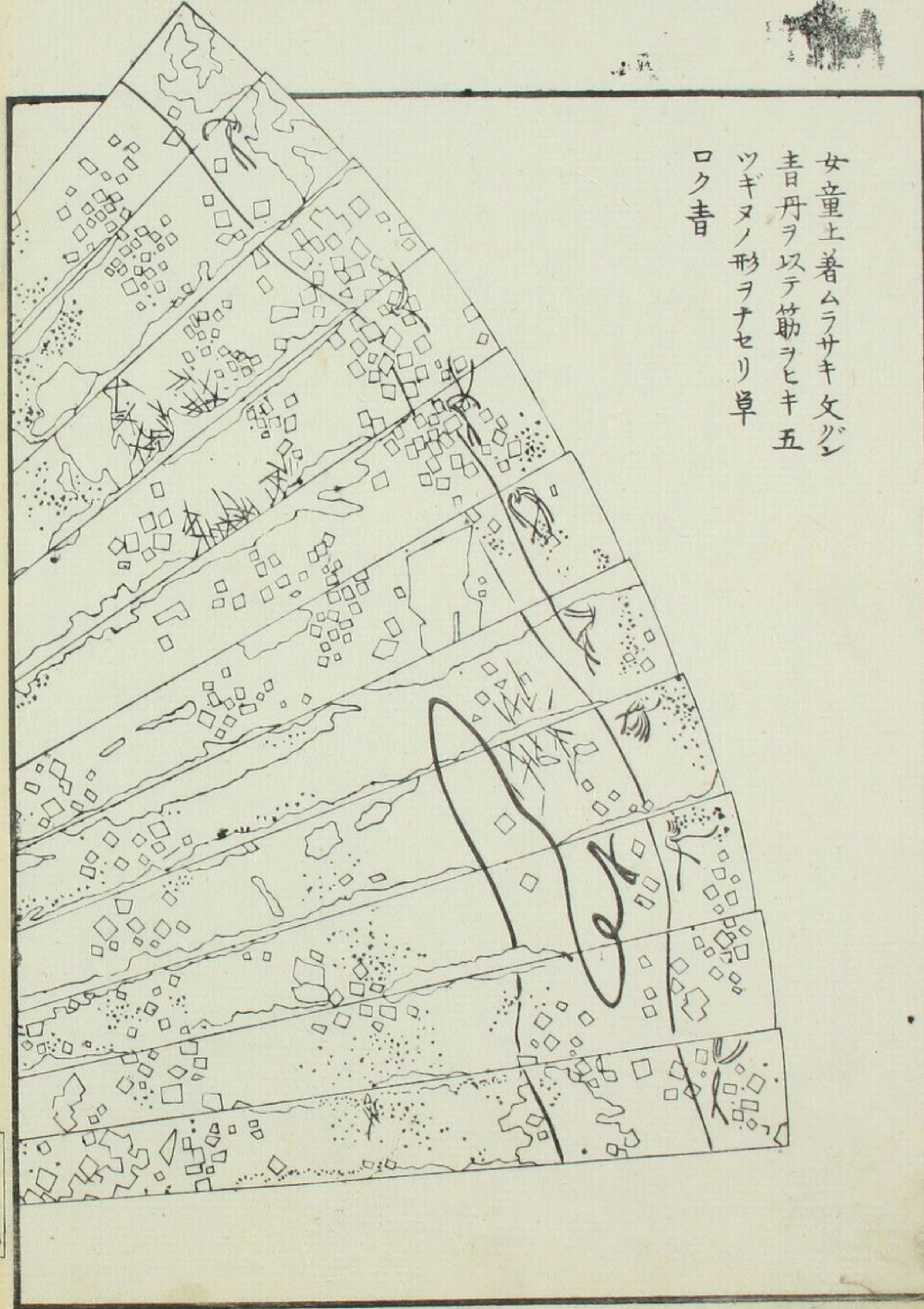


カナメ銀臺金メ
ツキノ鳥

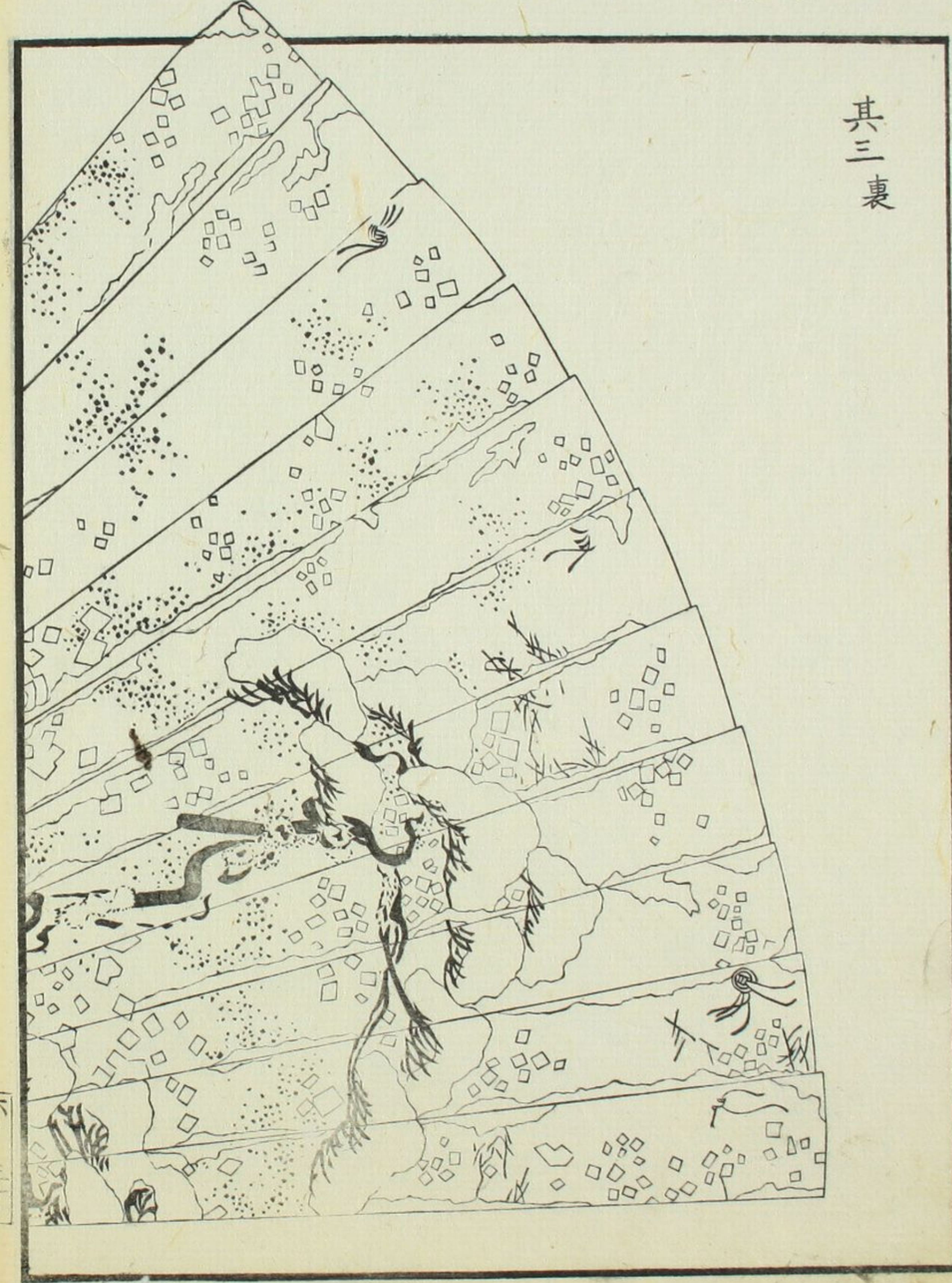
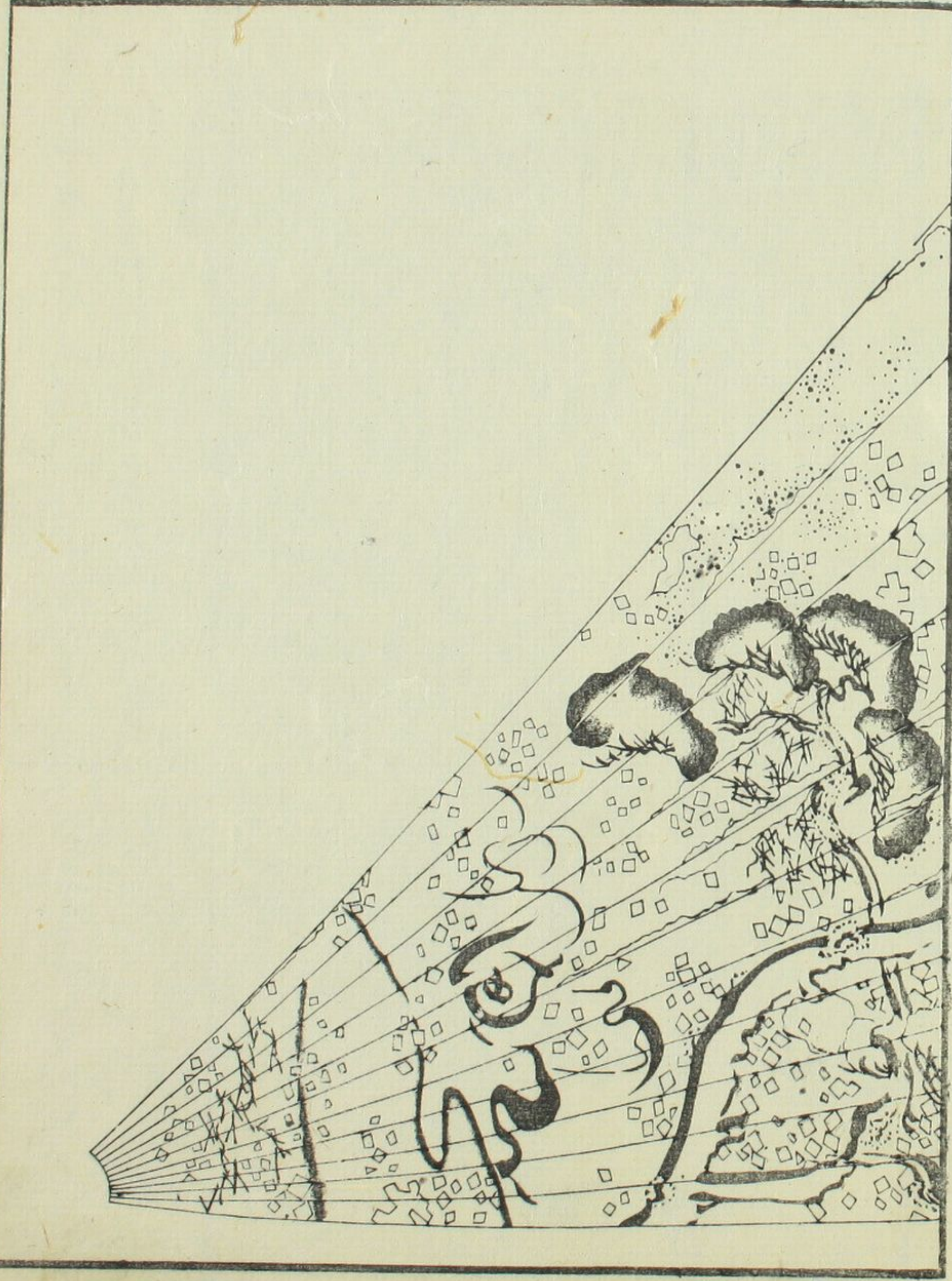


其二裏

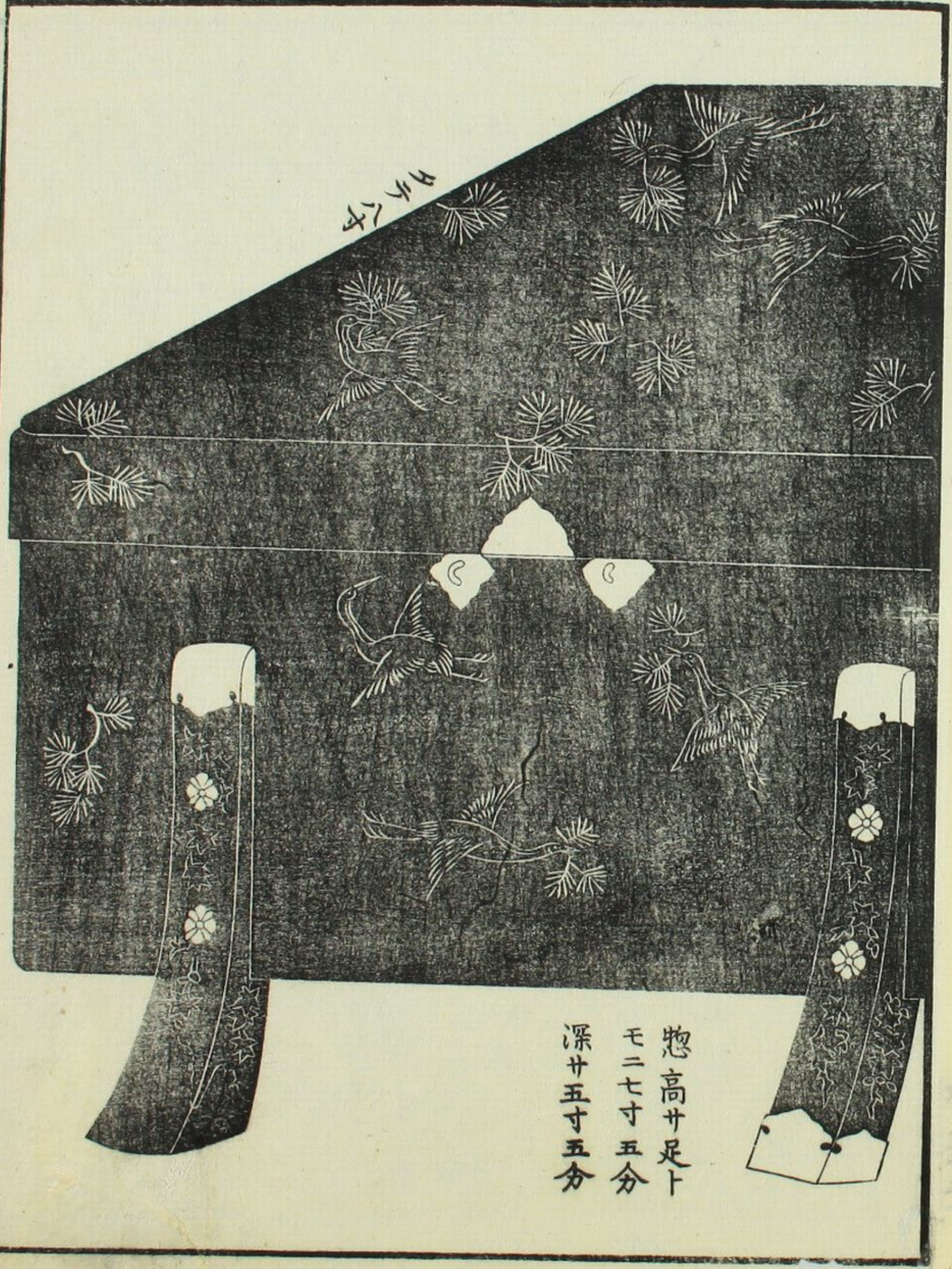
大石小石キン銀ノ
切カネ金ギンノ
微
子
砂子



女童上着ムラサキ文
青丹ヲ以テ筋ヲヒキ五
ツギヌノ形ヲナセリ
草
ロク青



其三裏



五寸五分

惣高廿足下
 毛二七寸五分
 深廿五寸五分



三二尺五分

安徳帝御産着唐櫃

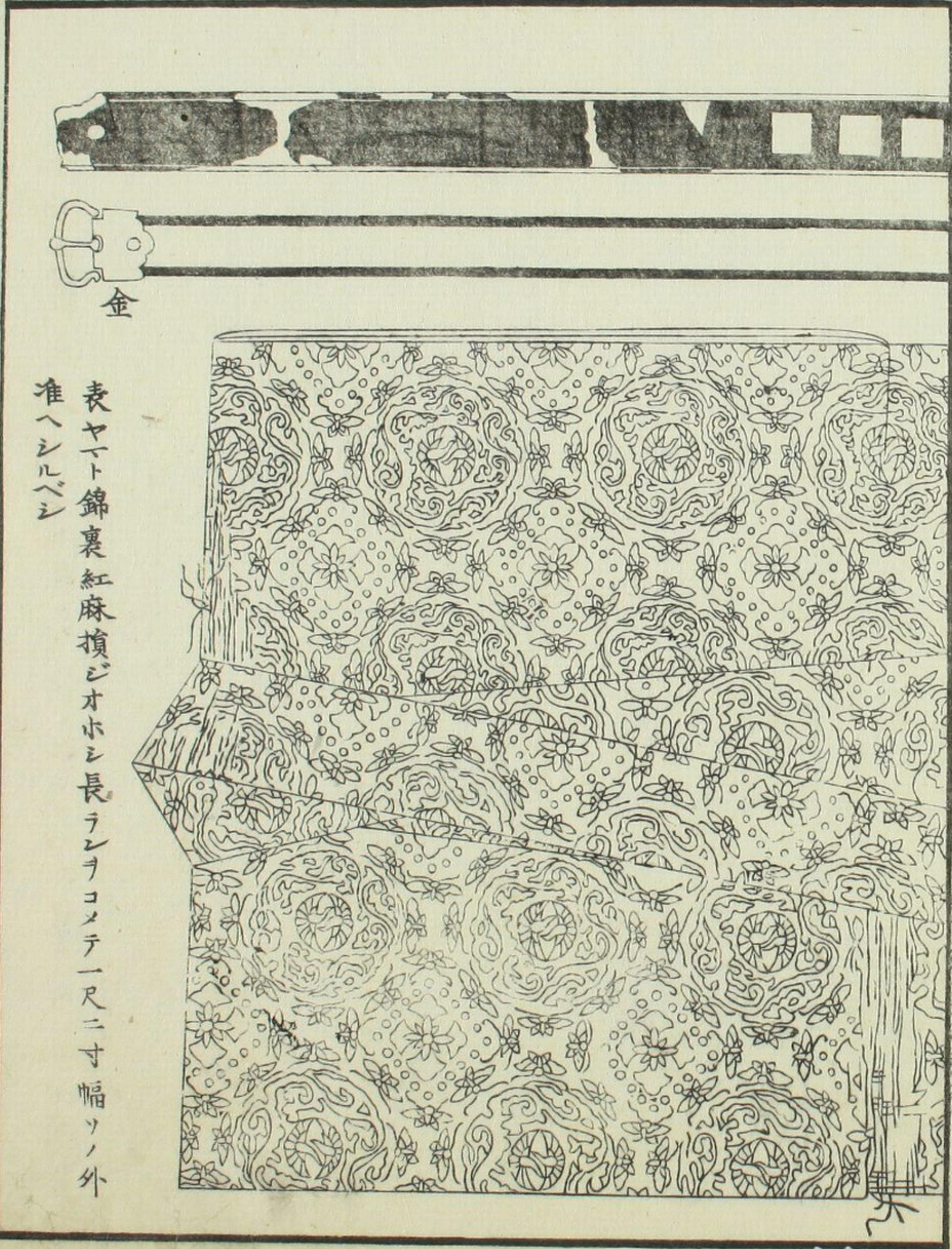
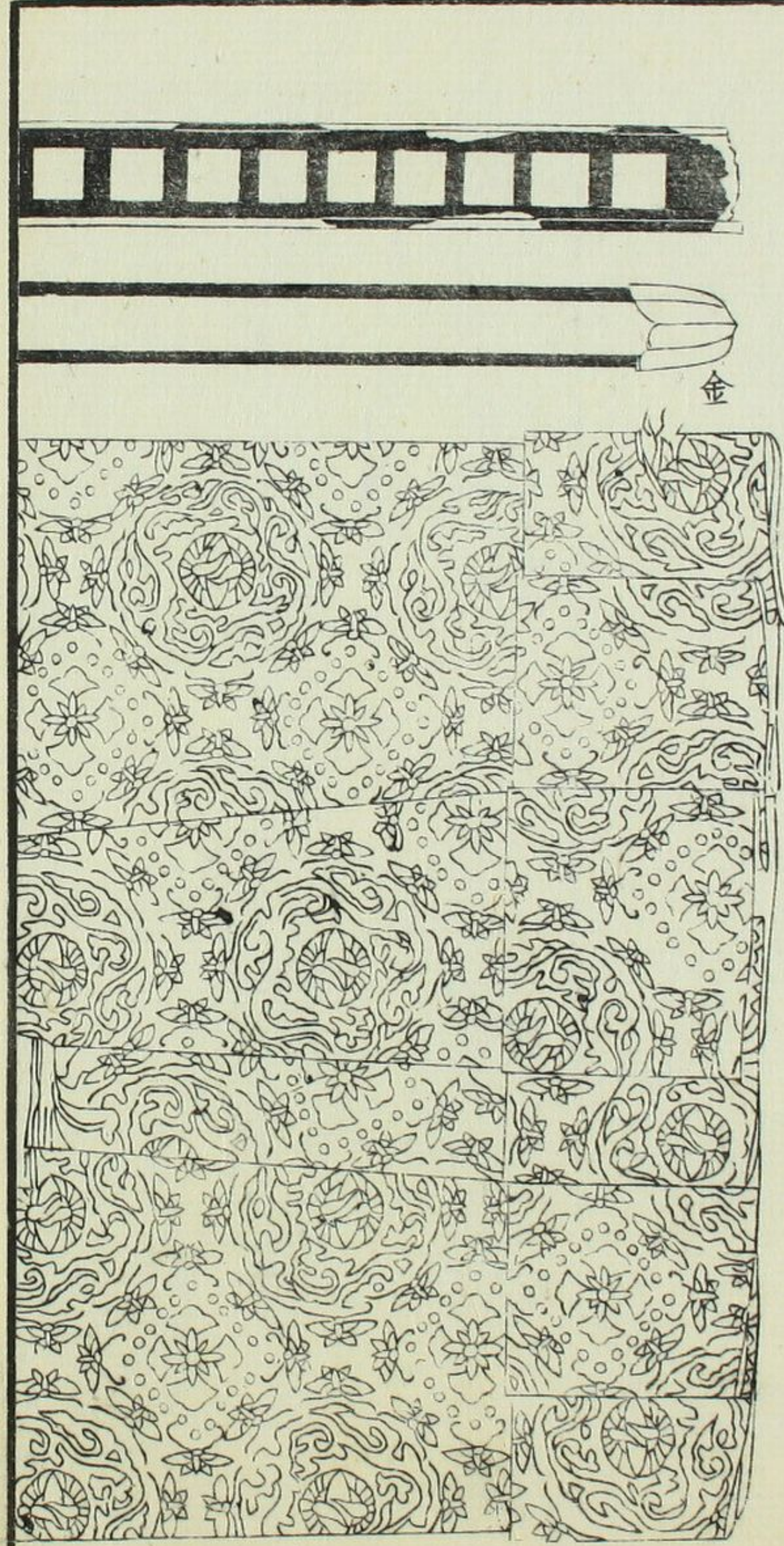
名塗下千繪鶴銀松金力十具金下千足螺鈿研出之

三二尺五分

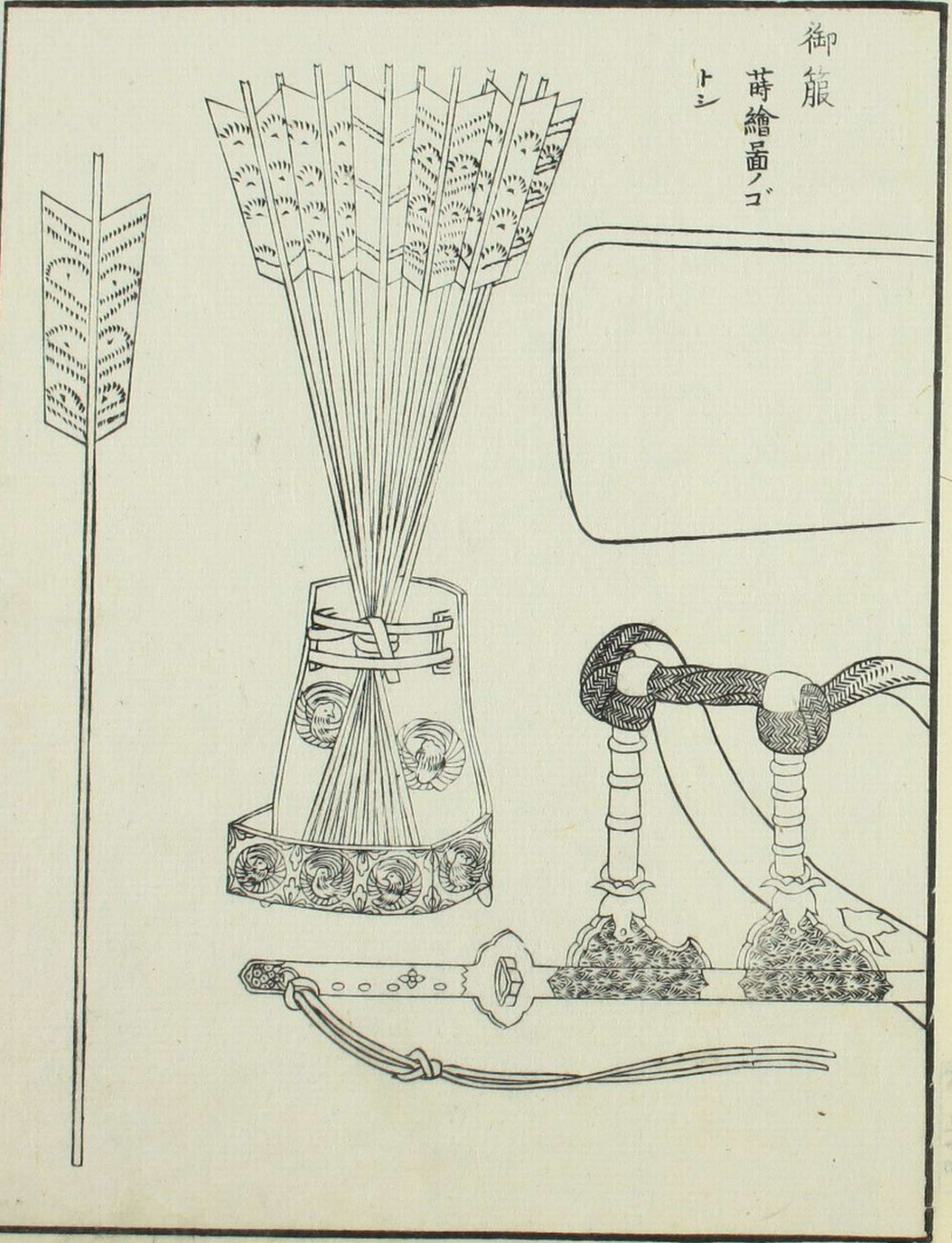
安徳帝御産衣

コノ御産衣ヲハジメ御太刀御石帯ソノ外ミナ御説ノ具
トミユ實ニ服御シタヘルニハアラサルベシマタコノ御産衣ト
イフモノ、状ヲ考ルニ御半臂ニヤトオボシ

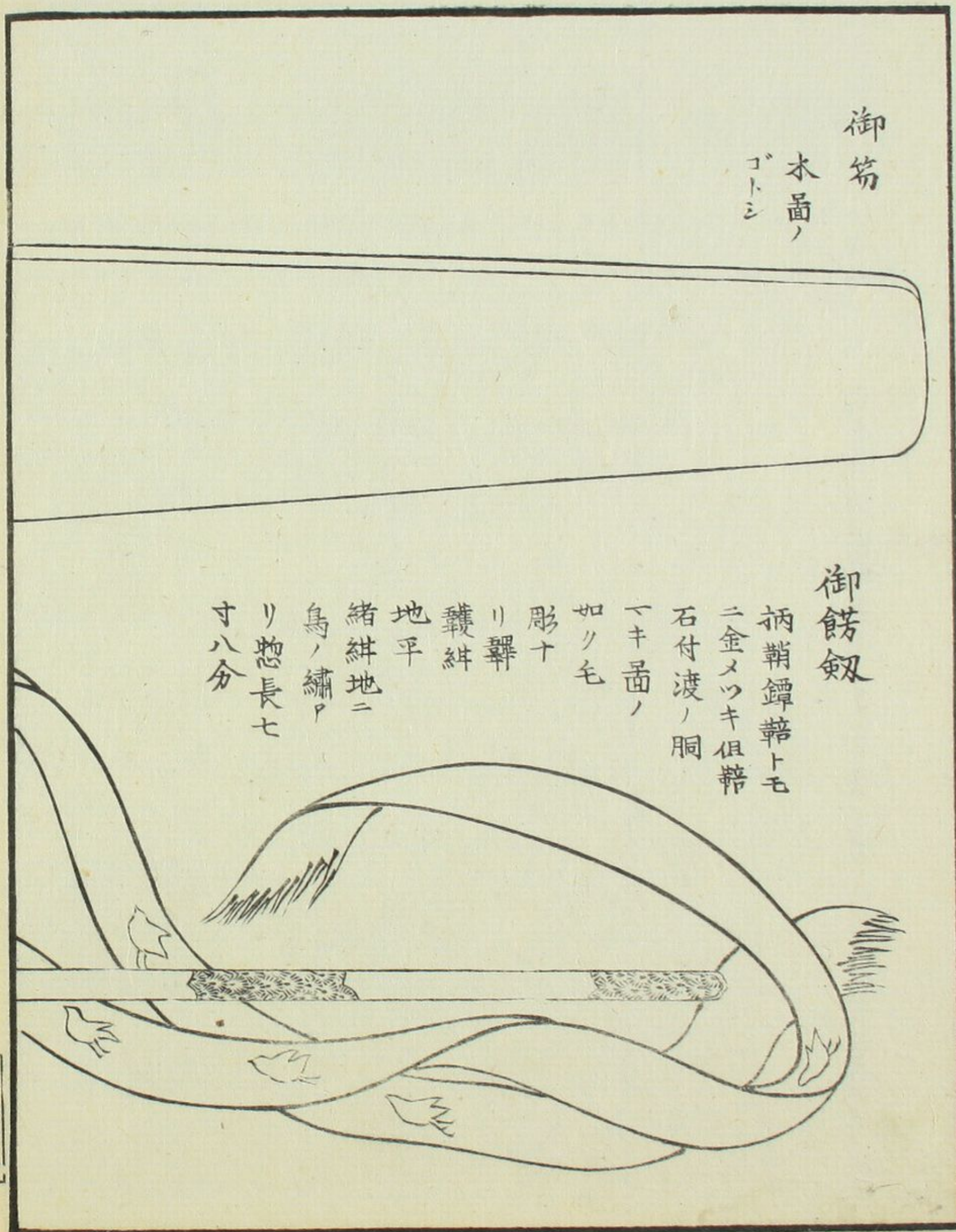
御石帯 無文巡方烏油皮ナリ



表ヤマト錦裏紅麻損シオホシ長ランヲコメテ一尺二寸幅ソノ外
准ヘシルベシ

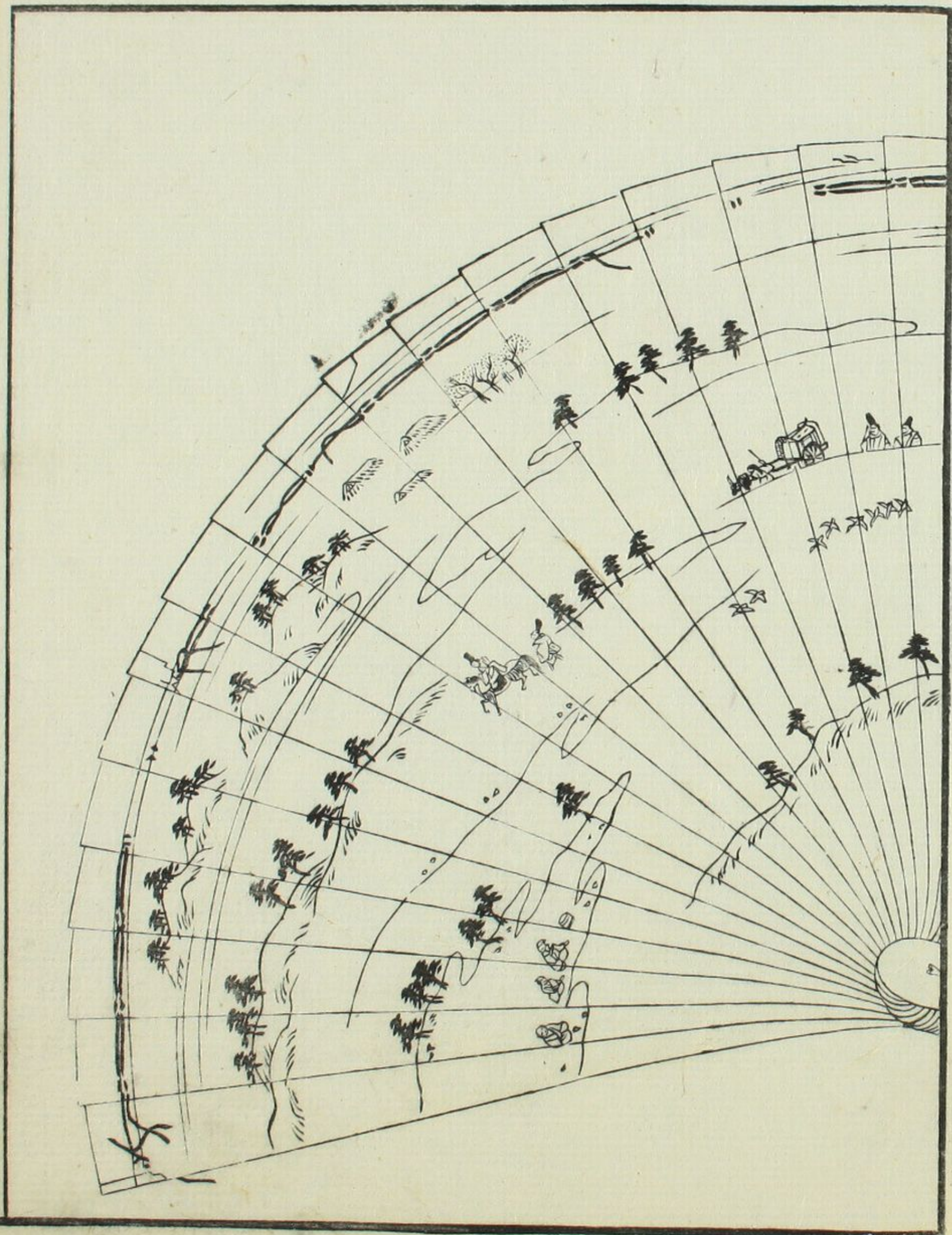


御籠
蒔繪面ノゴ
トシ



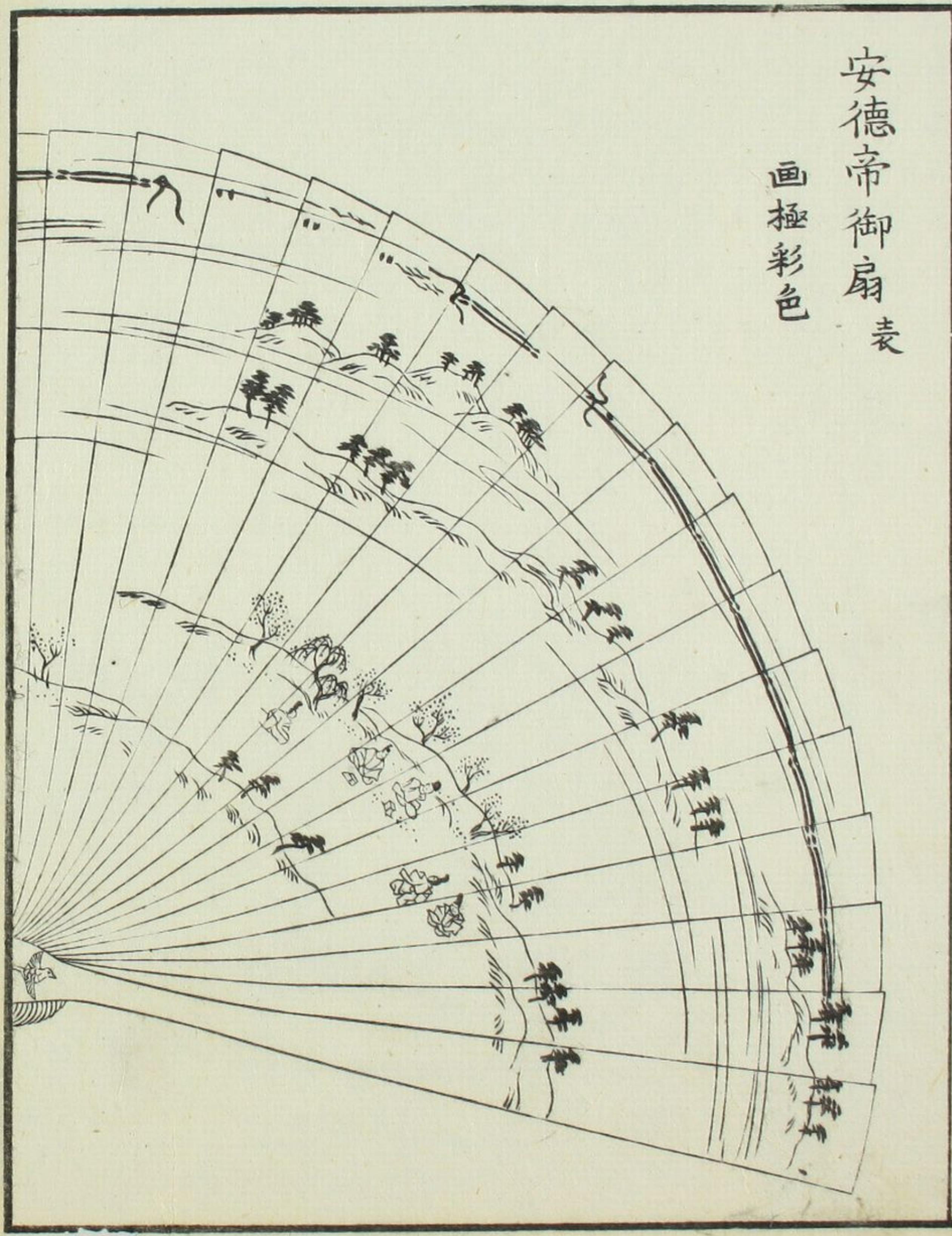
御傍
木面ノ
ゴトシ

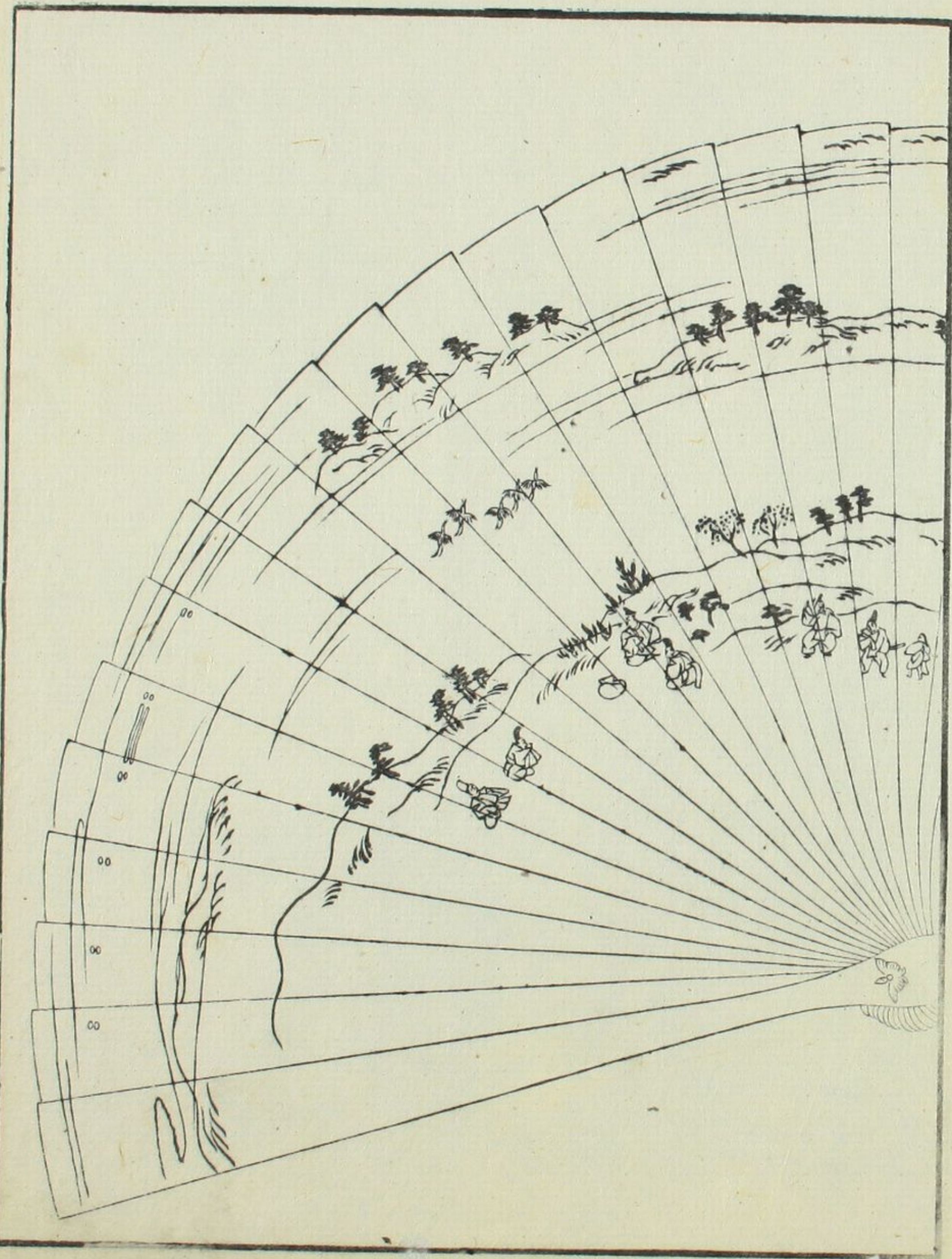
御傍劔
柄鞘鐔鞆トモ
ニ金メツキ但鞆
石付渡ノ胴
一キ面ノ
如ク毛
彫十
リ鞆
鞆絆
地平
緒絆地ニ
鳥ノ繡
リ惣長七
寸八分



三十一

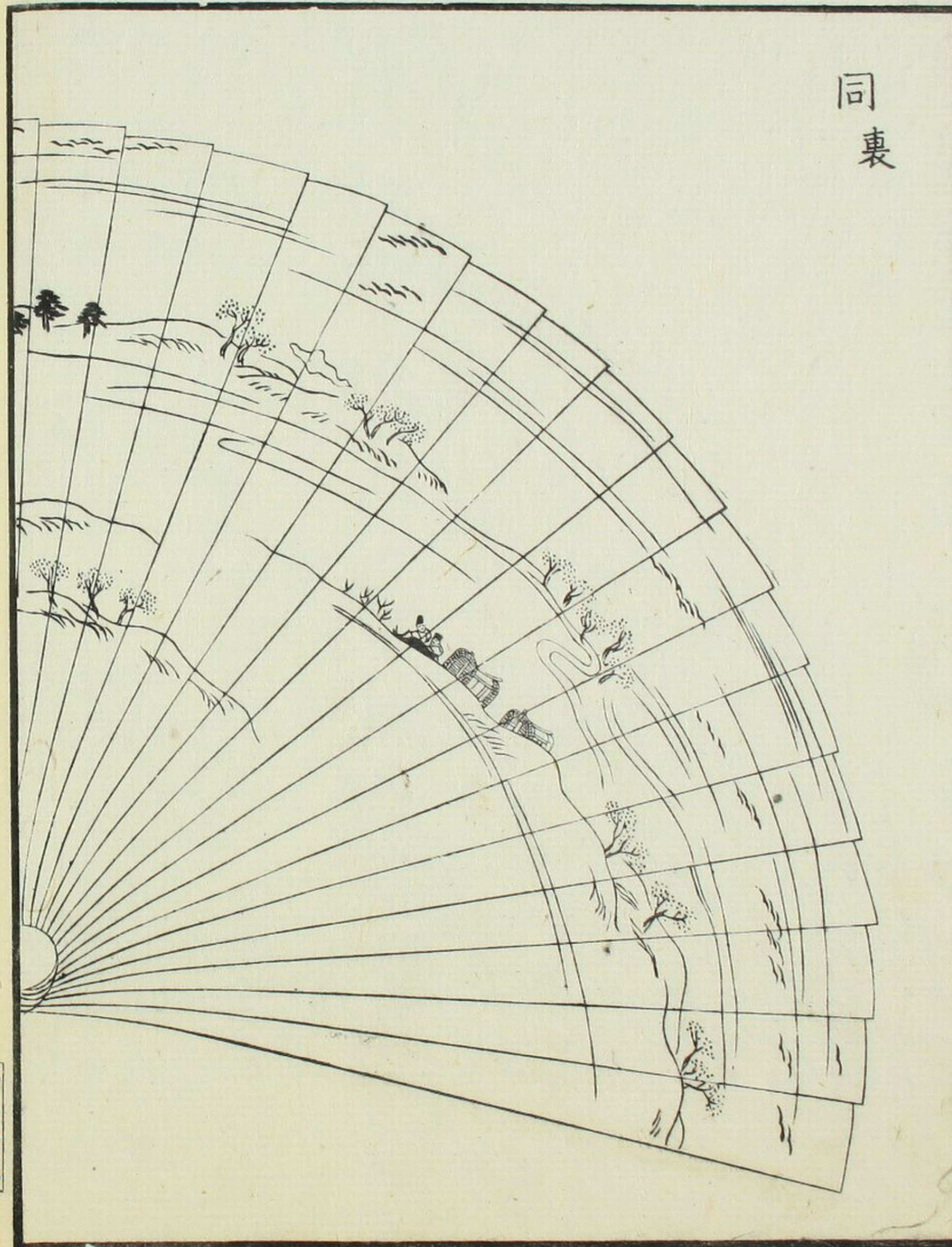
安德帝御扇
表
画極彩色





水三丁

同裏

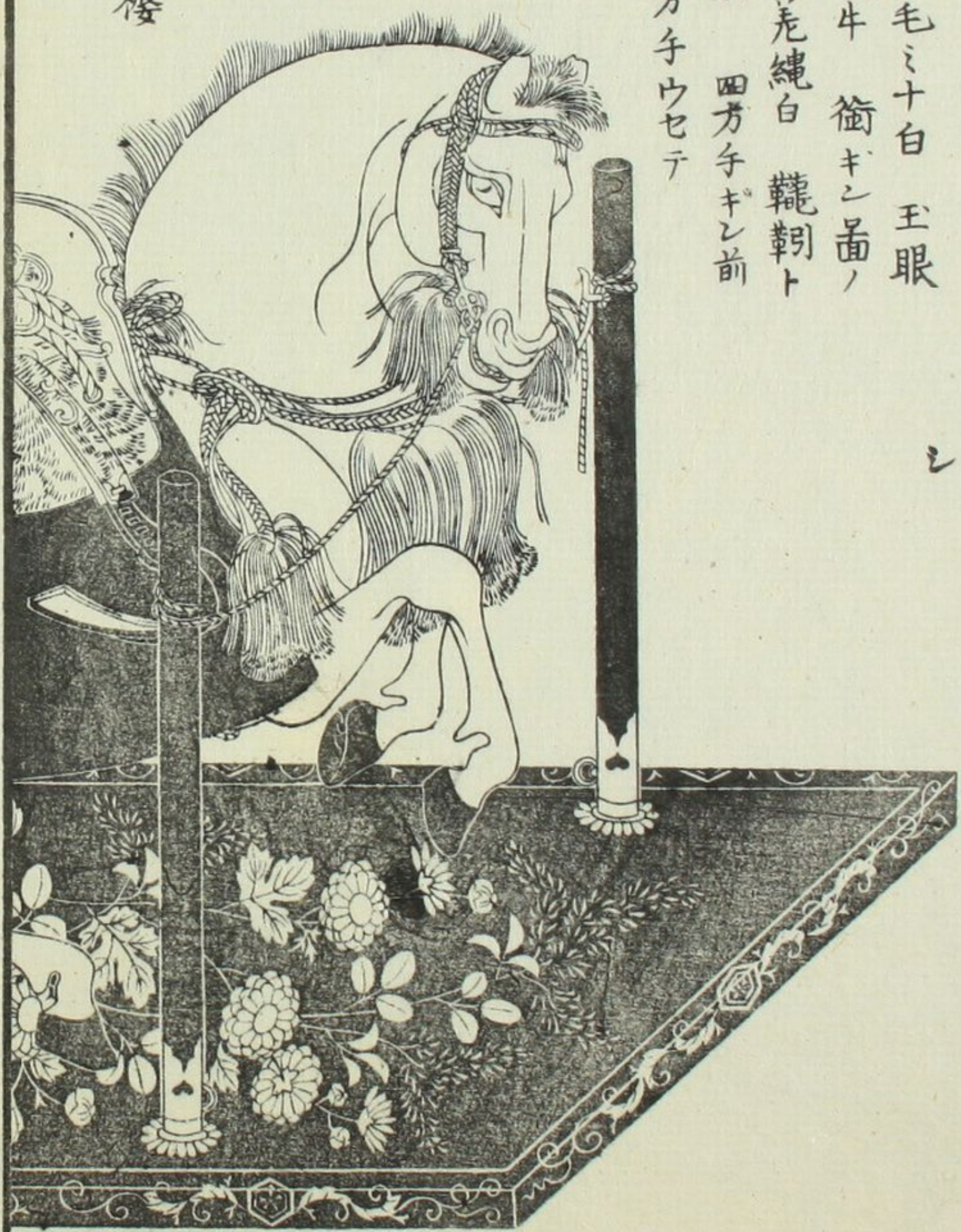


黄揚ノ駒

大サ如番

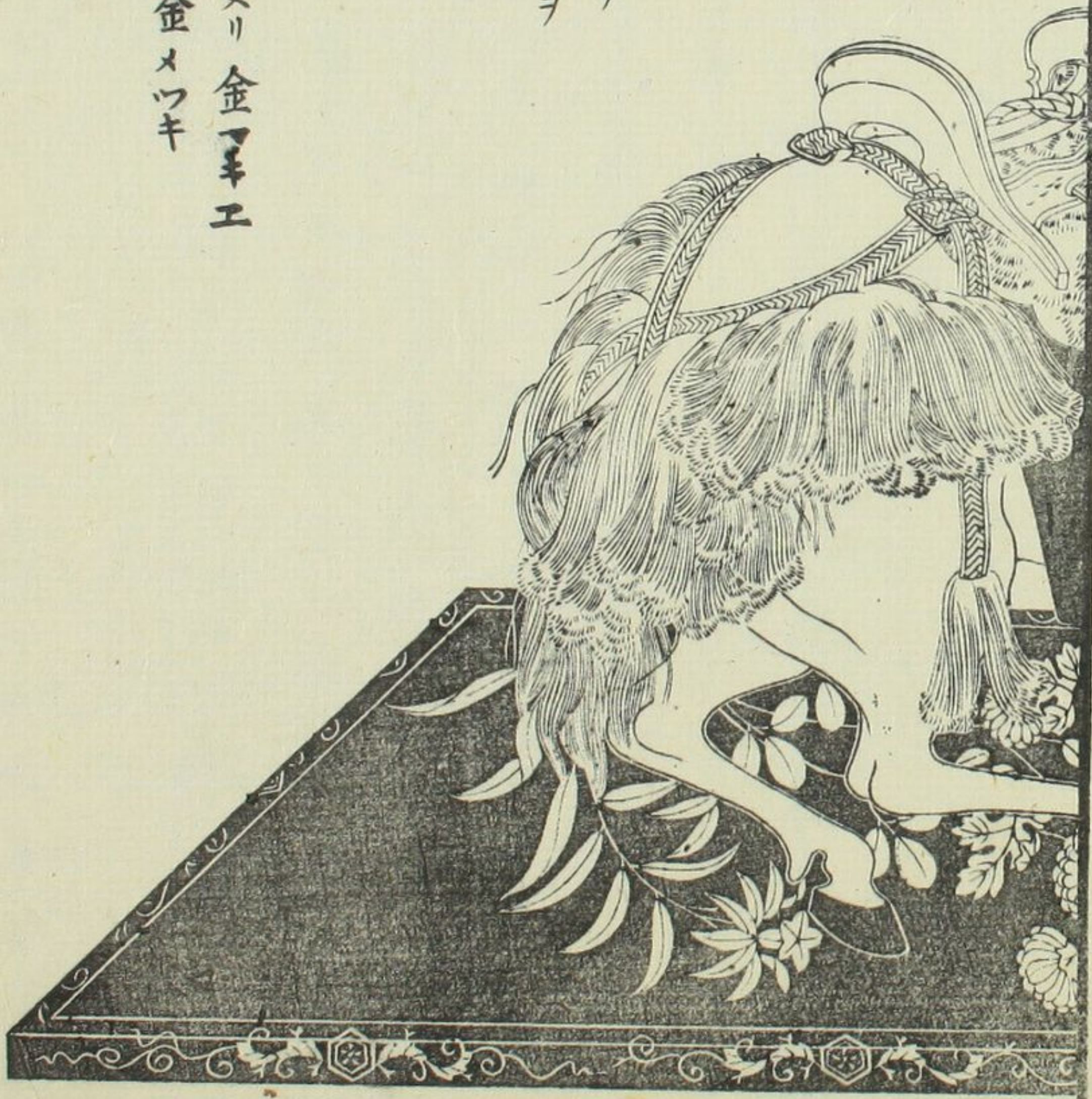
振毛立毛ミ十白 玉眼
 ヒツメ水牛 銜ギン番ノ
 バトシ 羌縄白 鞆鞆ト
 毛ニ赤糸 四方手ギン前
 輪ノ四方手ウセテ

ナシ
 切付番
 ノ如シ
 生質
 シレズ
 鞆前
 後トモ
 柿木
 ノ輪鞍襷



宝物目録ニ春日ノ作トスニカレ氏春日ハ上
 古ノ人ナリ製作ノサマヲ考ルニ後世ノモノ
 ナリ春日ノ作トイヘルハオソクハ誤ナルベ
 シ

アロ
 泥障柿色
 ノ皮カ革
 ヤマト錦
 アフミ鉄ノ
 カビ色
 腰帶ウセテナシ故ニ
 由木カラミナリシヤ今
 ハシレガタシ假ニヒモヲ
 ウケタリ



其臺クロヌリ 金マキエ
 カナ物金メツキ

リテ。上ノカタニ霞ヲカケリ。サテソノ霞とノ字ヲ二ノ如ク
第一番ニツクリ。なノ字ヲ第二番ニカキ。長クヒキテなひ
くニアテタリ。

ソモく葦手ハカク字ヲマジヘテカク一種ノ画ナリ。シカル
ニ源氏物語ノ梅々元ノ卷ニあゝでう巻繪を於もひくま
うけとのこまへバトアルニヨリテ。葦手ト歌繪トノケチメオホツ
カナクマギラハシキユエ。谷川士清ノ倭訓栞ニハ。歌繪ノコト
ヲあゝでとい少一異あるまやトイヒ。富士谷御杖ノ北邊隨筆
ニハ。葦手ノコトヲ。歌繪のごとくあゝでといと持於るゆ
る。トイヒテ。タドくシゲニ疑ヲ存セリ。畢竟。葦手ハ上件ニイへ
ルガ如シ。歌繪ハ一首ノ歌ノ意ヲ画ニアラハシカクナリ。物語画
トテ世
ニ伊勢源氏ナドノ卷ノ意ヲ画ガケルモノ
アリ。コレニ對シテオモフベシ。 別ノ子細ナシ。後撰集ニ

みちのともへまかりるる人ふ。あふねてしして。うき急かたて。そ
れまつけてつかりるる。トアルスナハチコレナリ。タトへバ山家ノウ
タナレバ山家ノサマヲカキ。海路ノウタナレバ海路ノケシキヲ
カキテ。江山ノ翠藹。雲煙ノ濃淡。河水ノ細波。大海ノ驚濤。
ソノ趣意ヲスコシモタガヘズ。畫エガカサレバ。無声ノ詩トイフコト
ワリエカナハズ。サレバ葦手トハ同日エイフヘカラヌムツカ
シキモノナレバ。繪所ノ上手ナラスハ畫カキ得ベキコトカタカル
ベシ。シカルニ尺素往來ニ。假山水。海様。河様。泉様。遺水様。
巖井様。細谷川様。枯山水様。山形。野形。洲濱形。葦手形等。
トハアレド。歌繪様トナキヲ。疑フ人モアルベケレド。前件ニイフ
ガゴトクナレバ。歌繪ハウタニヨリテ。山水ニモ海ニモ河ニモ
泉ニモ山ニモ野ニモ何ニモカクモノユエ。一種ノ名目アルベキ

モニアラズ。源氏ニうたゑあしでトアルハ。哥ノ意ヲモ画^エカ
ケ。葦手ヲモエガケ。トノタマヘルハカリニテ。うたゑトあしで
トフタツノ名目ノコトニハアラズ。先達コ、ニ心ノツカサリシ
ユエ。ミナ正義ヲ得ガリシナルベシ。

田中芳樹

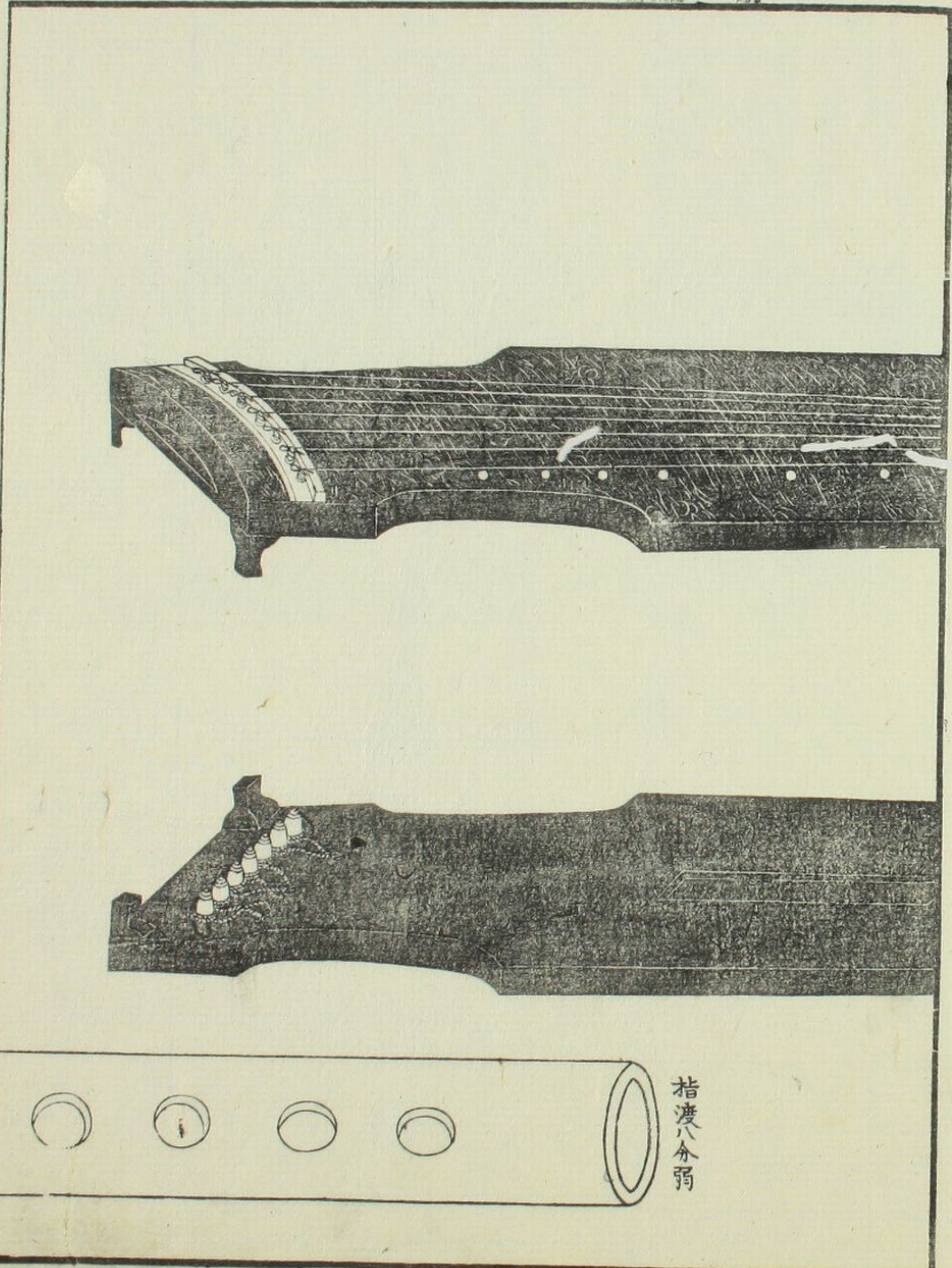
琴

社傳ニ平重衡ノ愛翫シタマヘル琴ナルヨシイヒツタフ。桐守房蹟記ニ法
花トイフ名物ノ琴ノコト見エタルハ。コレナルベシ。玉堂雜記ニ。嚴島
神庫ハ。重衡の琴藏まる。予。上卿市正といふ神家にて觀たり。六
七百年のもの。断紋ふりて。實ハ雷家などの製なるべし。平家の
時琴行々。トイヘリ。コノ雷家ハ。唐ノ世ノ琴近ニ雷氏ナルモノア
リテ。代々ソノ名ヲ擅マ、ニセシヨリ。雷氏ノ製ナラテモ。断紋ナドア
ラハレテ。フルキモノヲハ。トモスレバ。雷琴トイフユエ。玉堂モカクイヘル
ナリ。サレハ。當社ノ琴。雷氏ノ製ニヤアラザルニヤハ。今知ラルベキニア

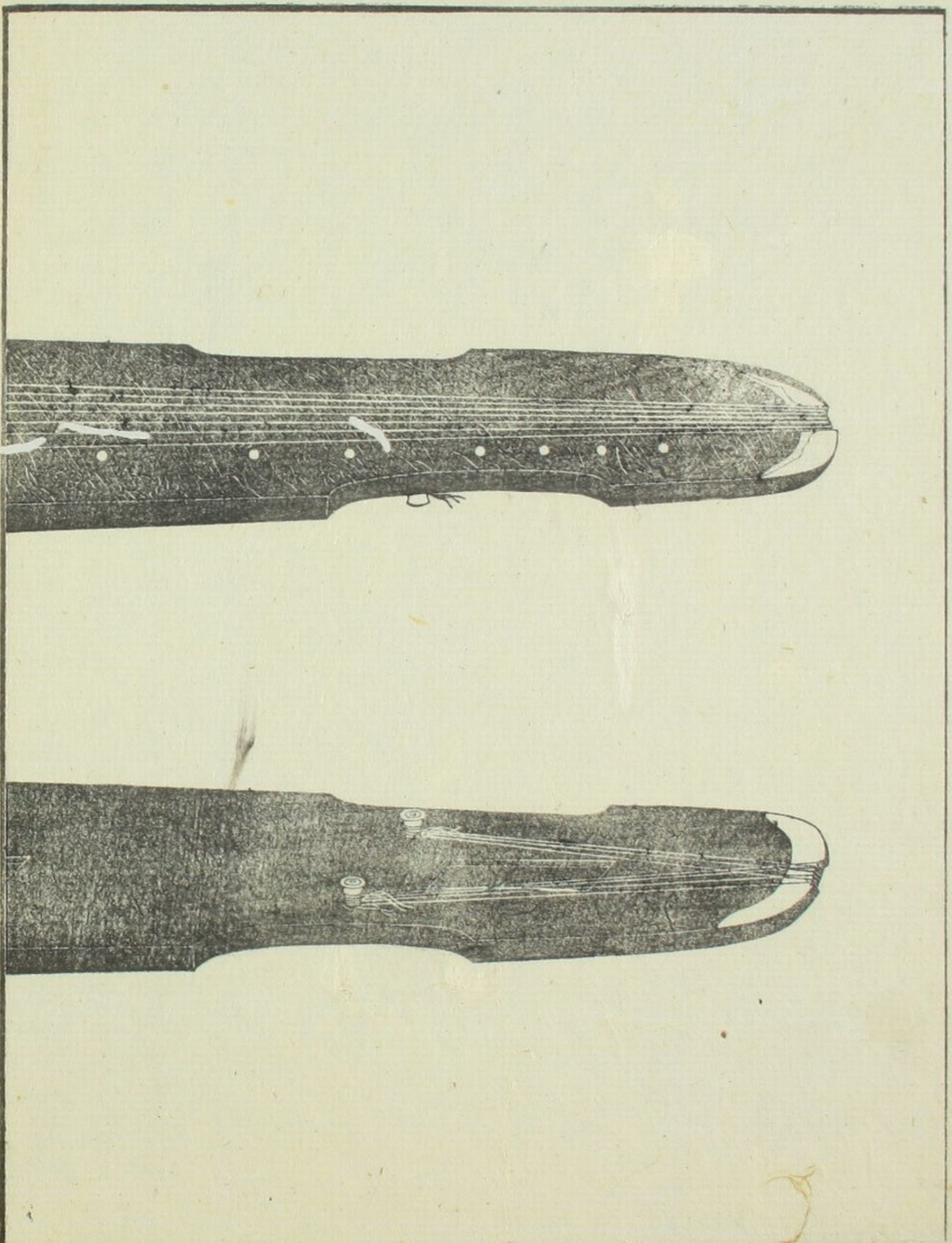
ラズ。サレドモ。断紋ニヨリテオモフニ。玉堂ガイヘルゴトク。六七百年ノ
物ナルコトハ疑ヒナシ。蛇腹牛毛ハ更ニモイハズ。所々ニ梅花断モ
ミユレバ。千年以上ノ物トイハンモ。オソラクハタガフベカラズ。マコトニ
殊勝ノ古物ナリ。サテ琴ノ製作ニ定式アルコトハ。琴經ソノ外古
書ニ詳カナレドモ。マタモテアソブ人ノ好ミニヨリ。長短サマクニテ。一
概ニハイヒガタシトカ。コノ琴ナドハ。普通ヨリハ少シ大ナルヤウナリ。
仲尼様トイフゾコレナルベキ。

額ノ長一吋二分 岳廣三分 高四分 五重 兼露廣五分 高一分 五重 岳ノ内ヨ
リ 焦尾ニ至テ三尺七寸二分 龍觀七分 合テ長三尺九寸九分 幅岳ノ下
ニテ四寸九分 肩ニテ六寸一分 腰ニテ五寸一分 焦尾ニテ四寸一分 ナリ 但面ハ
圓ナルユエニ底ノ方ナルカタヲ以テハカレリ 厚サ頤ニテ九分 鳳翅ニテ五
分 五重冠角ニテ五分 縁ノ度ナリ 額ノ端ヨリ三寸下リテ鳳喙ノ
リ長六寸五分 彎ノ深一寸 肩ヨリ腰マデノ鳳翅ノ長一尺四寸九分 龍腰長

七寸一分 彎ノ深六分 ヲレヨリ 焦尾マテ七寸六分 絃眼 唐真鍮ノ鴨目 徽銀
裏額ノハシヨリ一尺二寸四分 サガリテ竜池アリ 豎六寸八分 横八分 龍觀ヨリ五寸五分 上
リテ鳳沼アリ 豎三寸八分 横八分 龍觀ヨリ一尺九分 分リテ鳳足アリ 軫池 豎五分 横四
寸 護軫 高九分

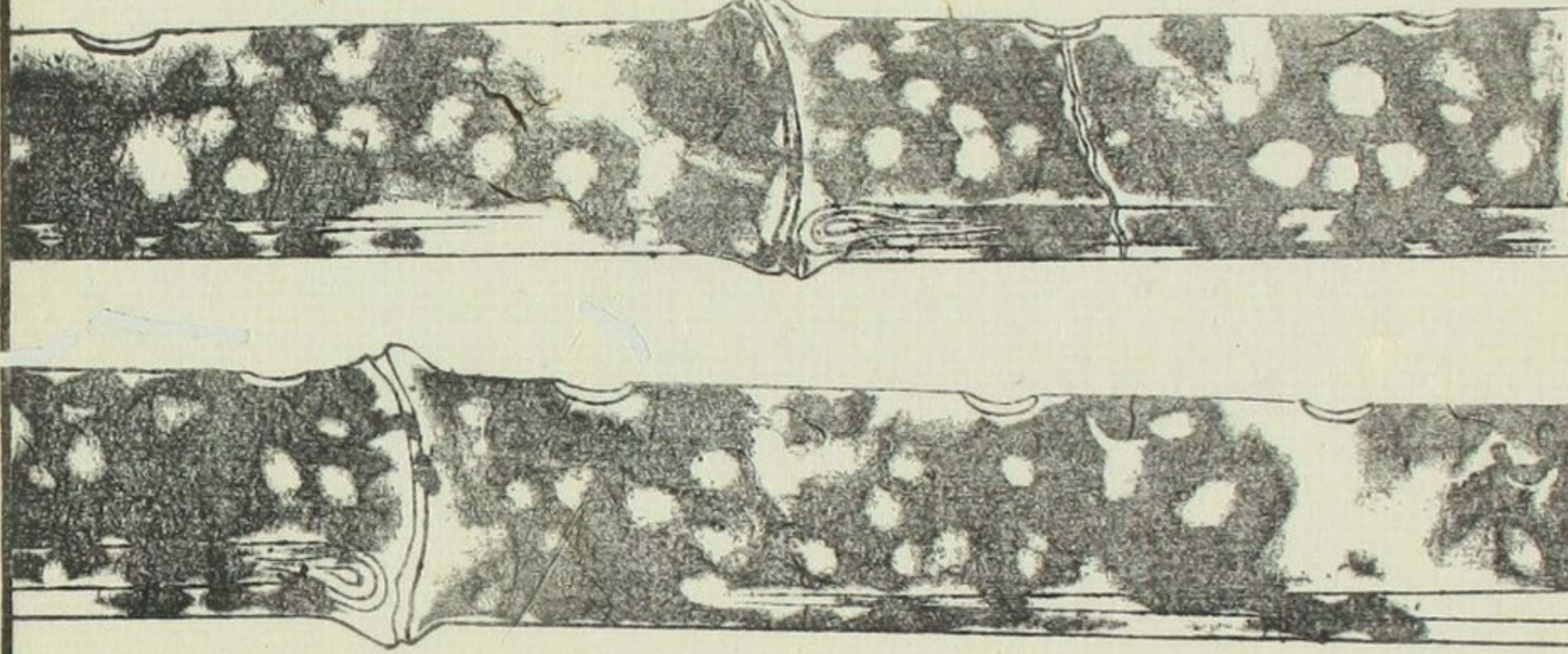


指渡八分弱



駐腦笛

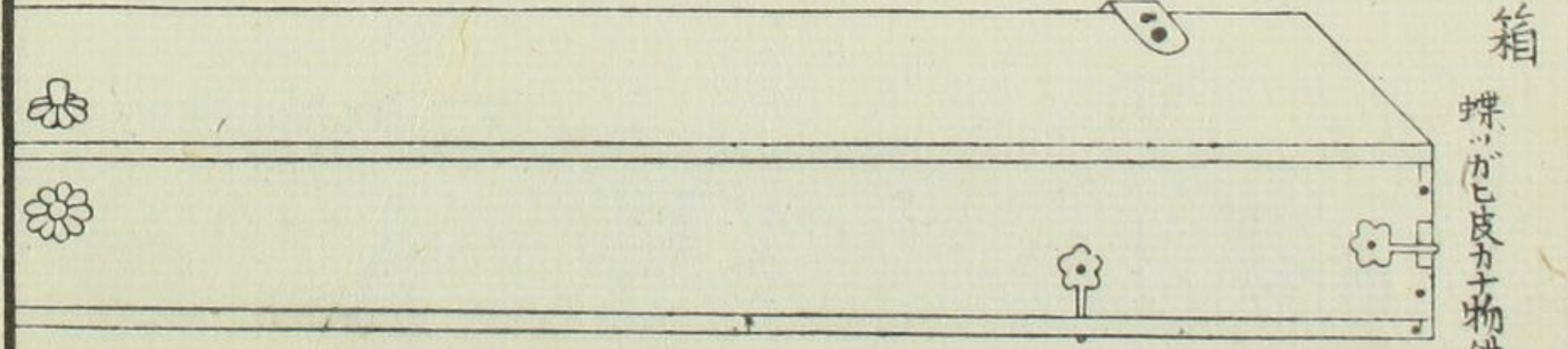
典臣大閣征韓時
 カノ國ヨリ献セシ物ナ
 リトゾ。
 秋長夜話云。嚴島ニ
 駐腦ノ笛アリ。奇物ナ
 リ。駐腦ハ西域ニ出シ漢
 土ニ來ルヘクナ器ナリ。日
 本ニモ入ルトイヘリ。王子
 牟拾遺記曰。丹兵之國
 有夜叉駒跋之鬼。能
 以赤馬腦為瓶。孟及
 樂器下ニユコノ説ノゴ
 トクナラバ。最奇物ト
 フベシ。小窓別記ニイフ
 駐腦。蓋ハ魏后ノ器
 ナリ。容三升。至ヲ以テ
 縫。人稱西域之鬼作
 コレヲミルニ拾遺記ノ説
 誣ベカス。



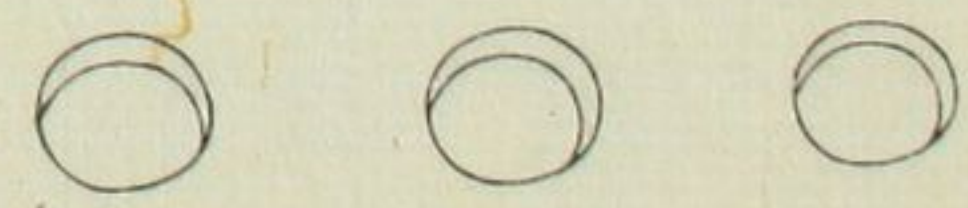
笛上箱

蝶ガヒ皮カノ物鉄

堅長一尺八寸三分幅一尺八寸高二寸六分

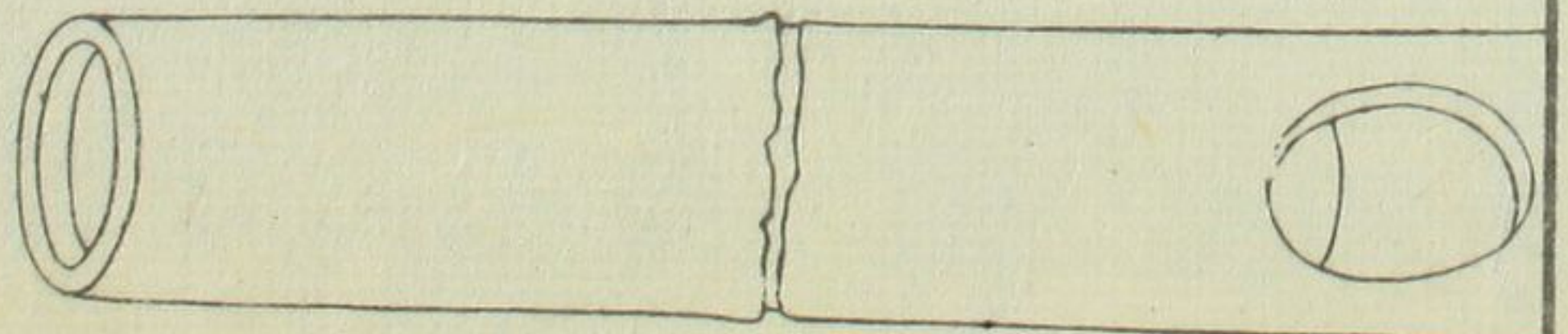
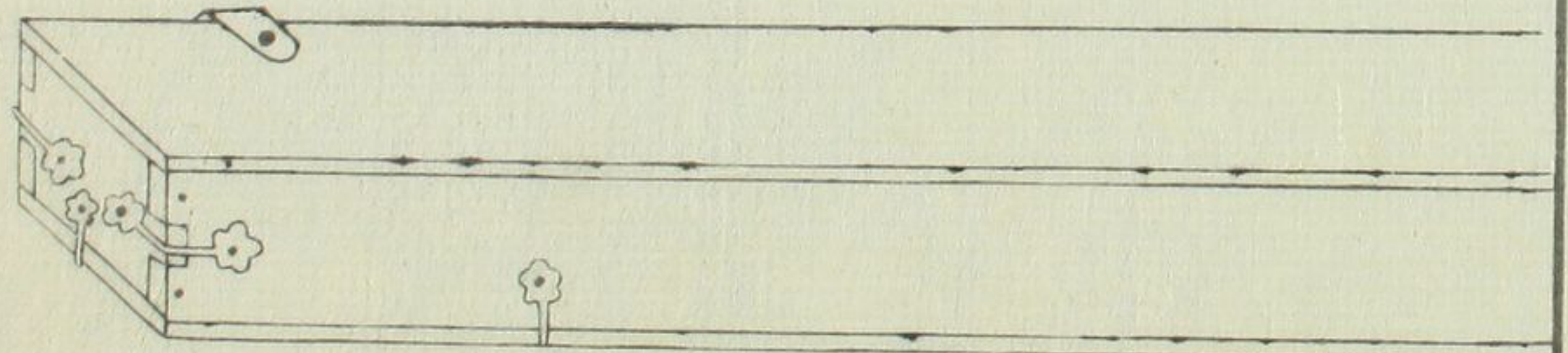
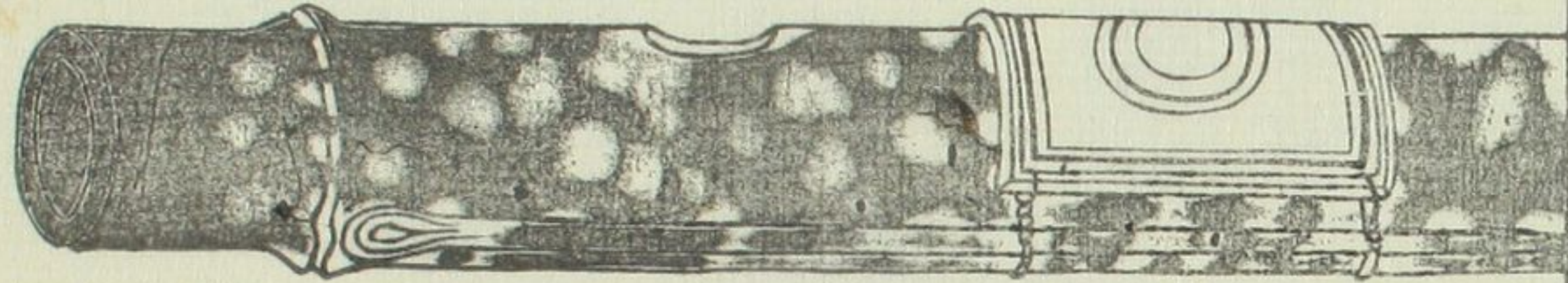


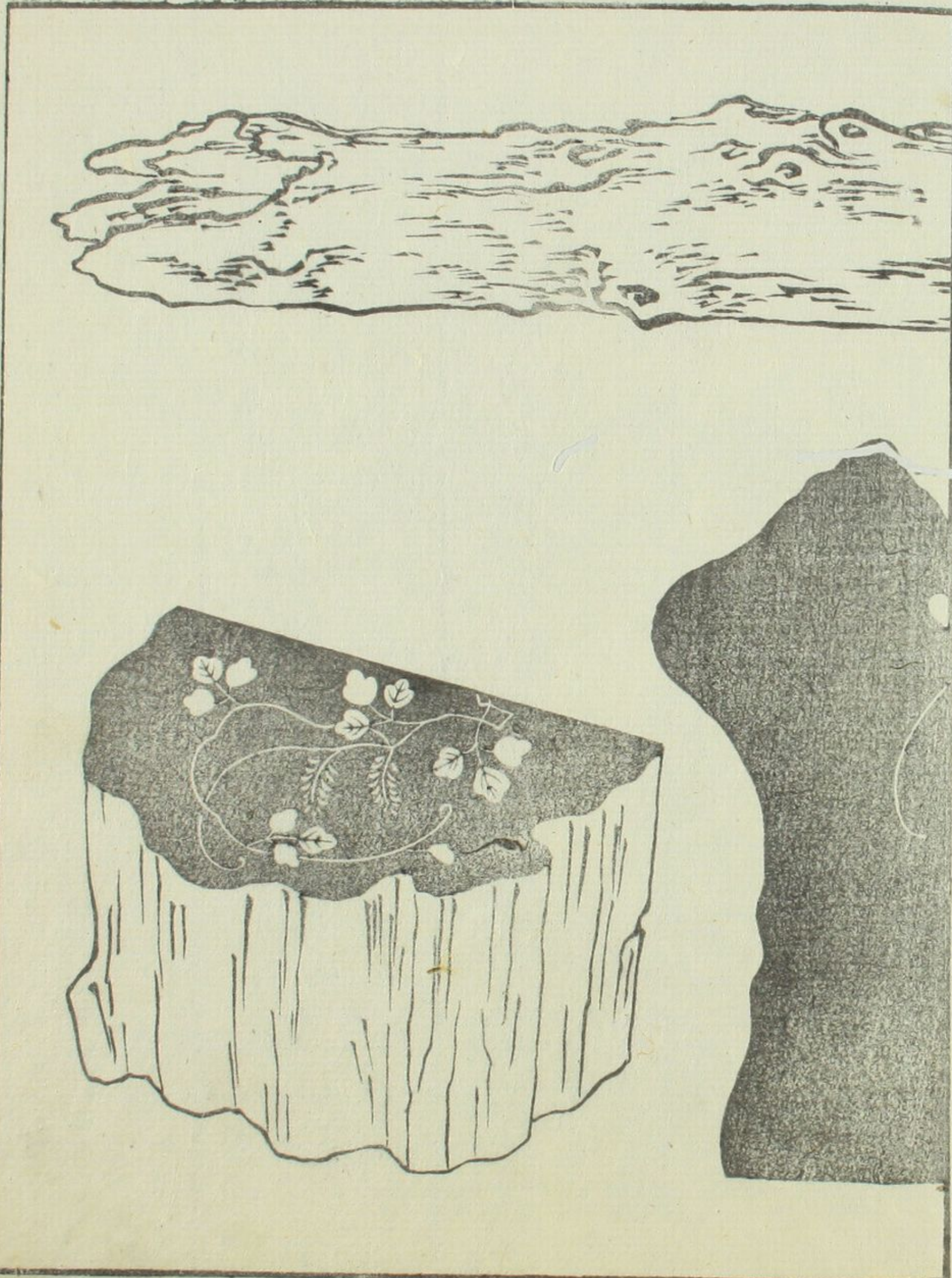
廻リ二
 寸八分



長一尺三寸

呂面ノ如キモノヲ
 以テ哥ロヲヲ多
 ギタリソノ質羊
 角ノ如シ

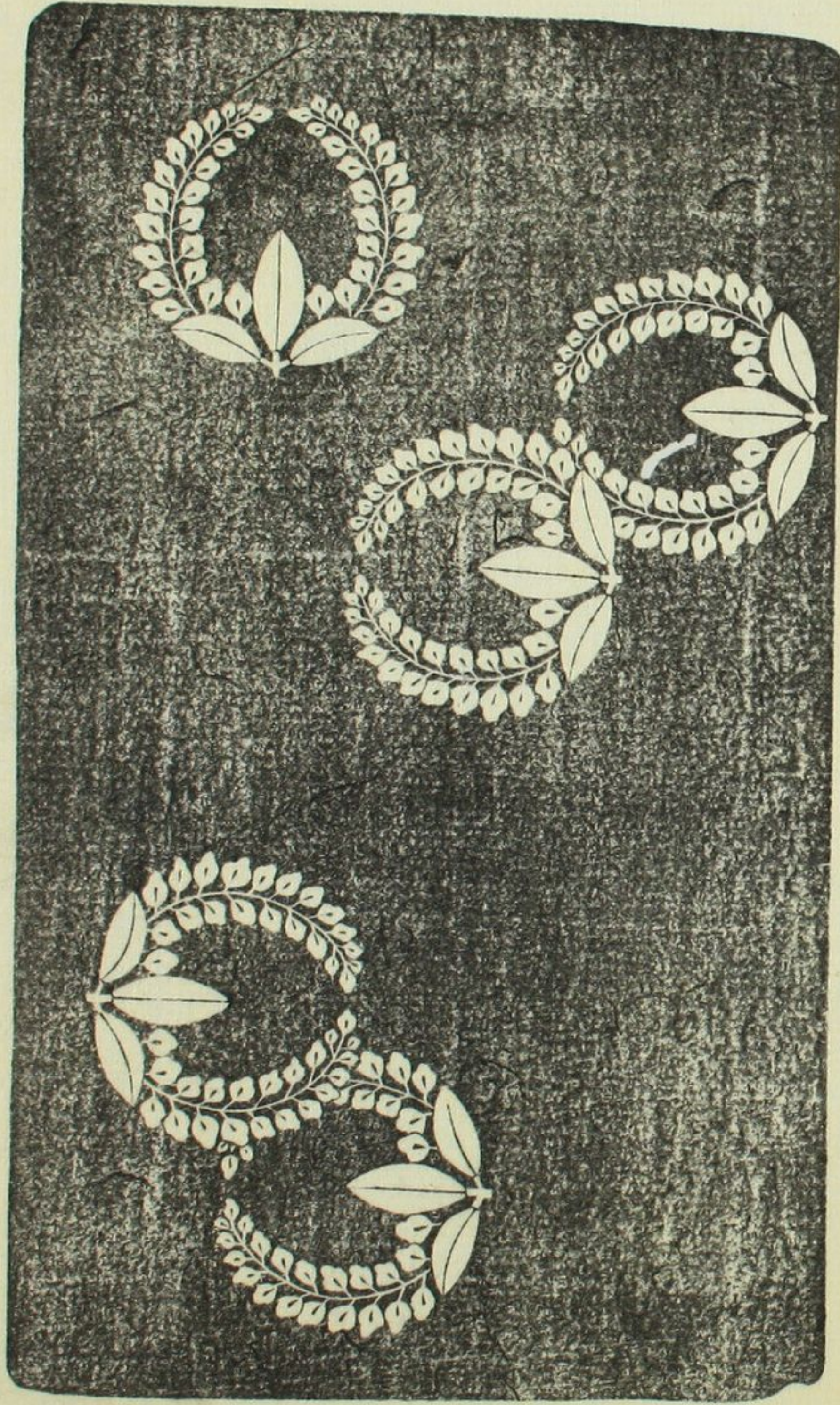




奉納
 寛文拾三年
 廣嶋御寶藏
 五月吉
 長五尺三寸余
 科目三貫九百目
 廣嶋中寫任
 兩替屋祐詮

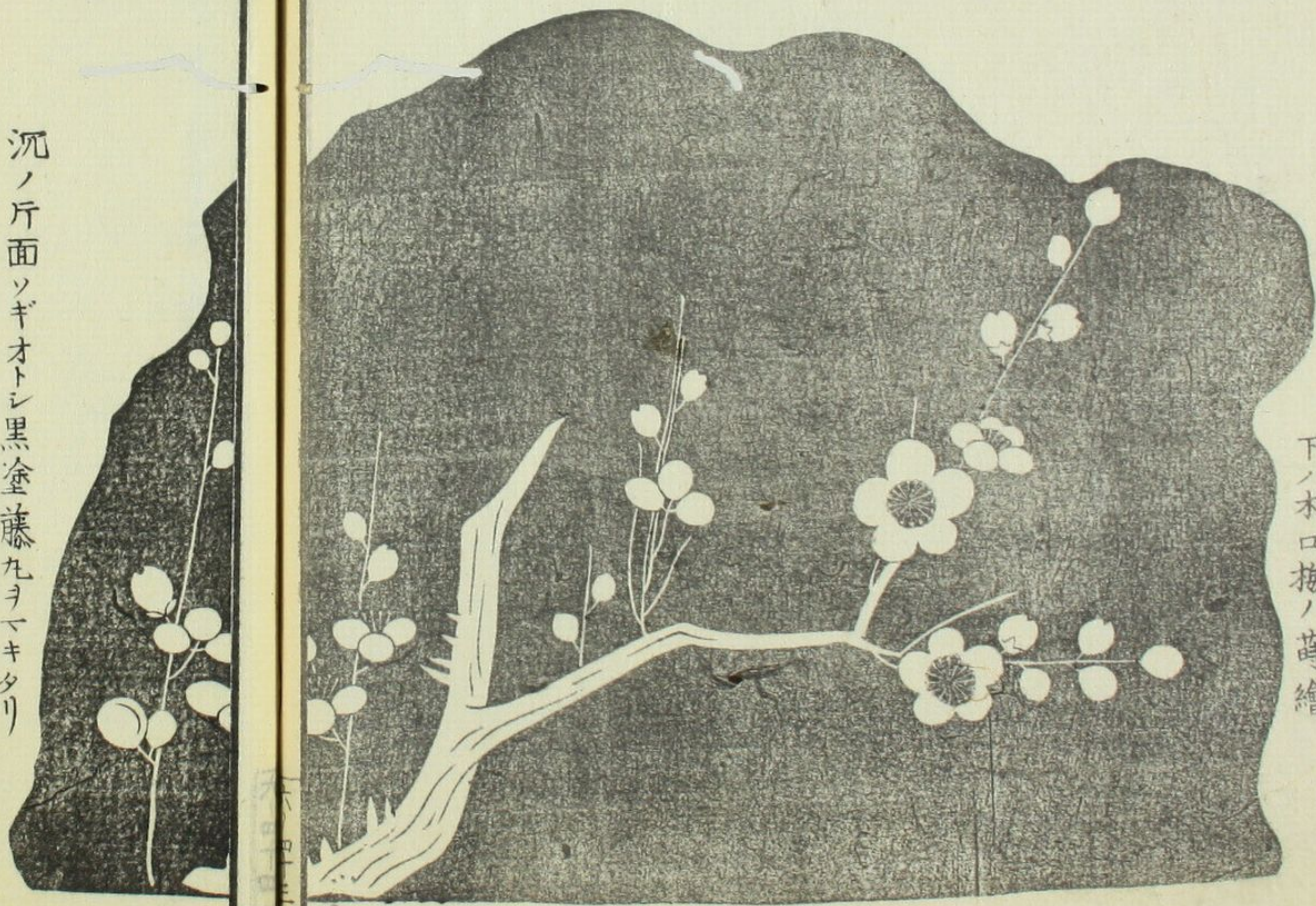
沉枕
 木口上ノ方
 金一十工

一八四一

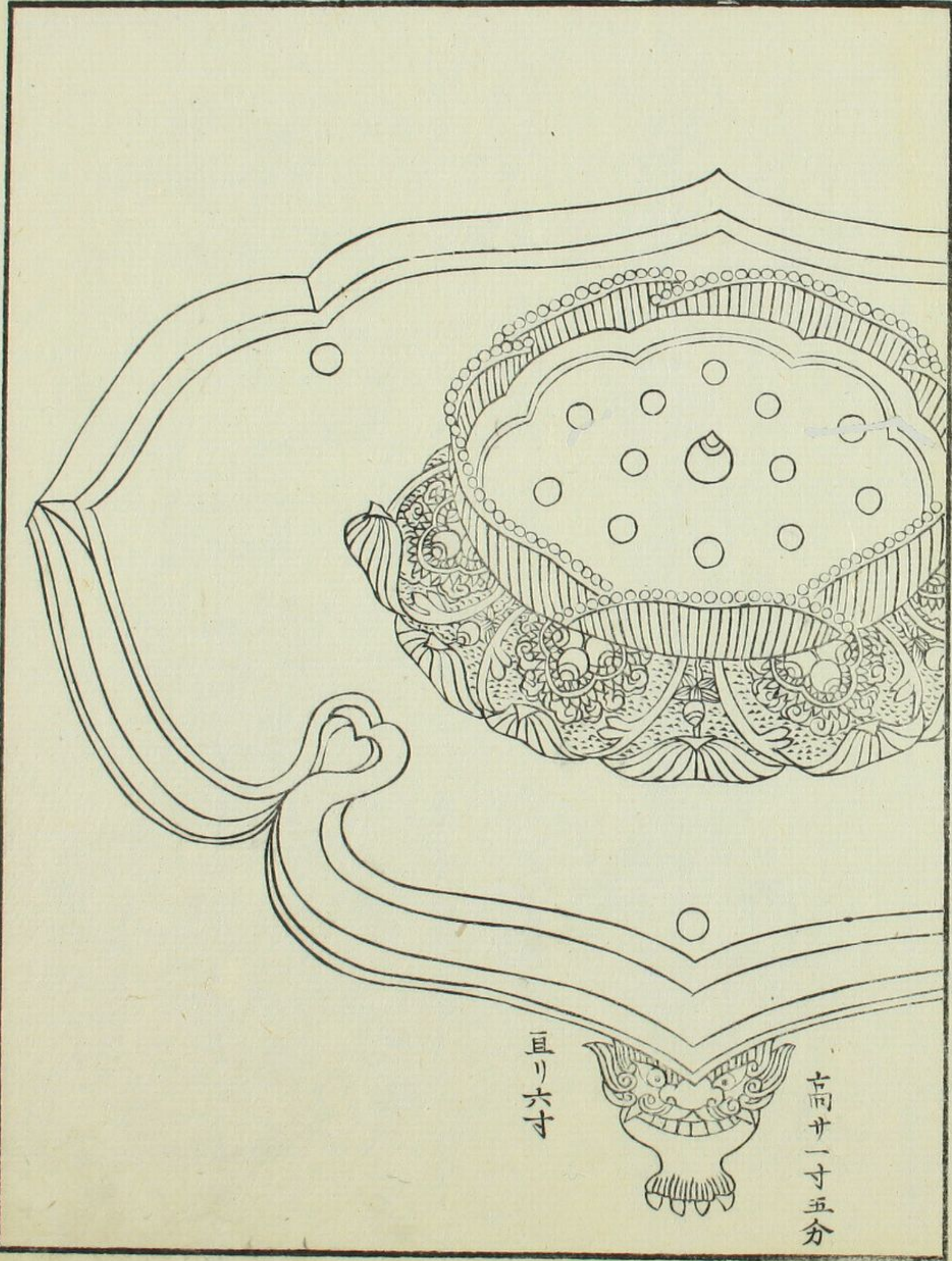


沉ノ斤面ソギオトシ黒塗藤丸ヲマキタリ

上箱クロヌリ赤
漆ヲ以テ淺野
但馬守内宮
内卿トカキ付
アリ

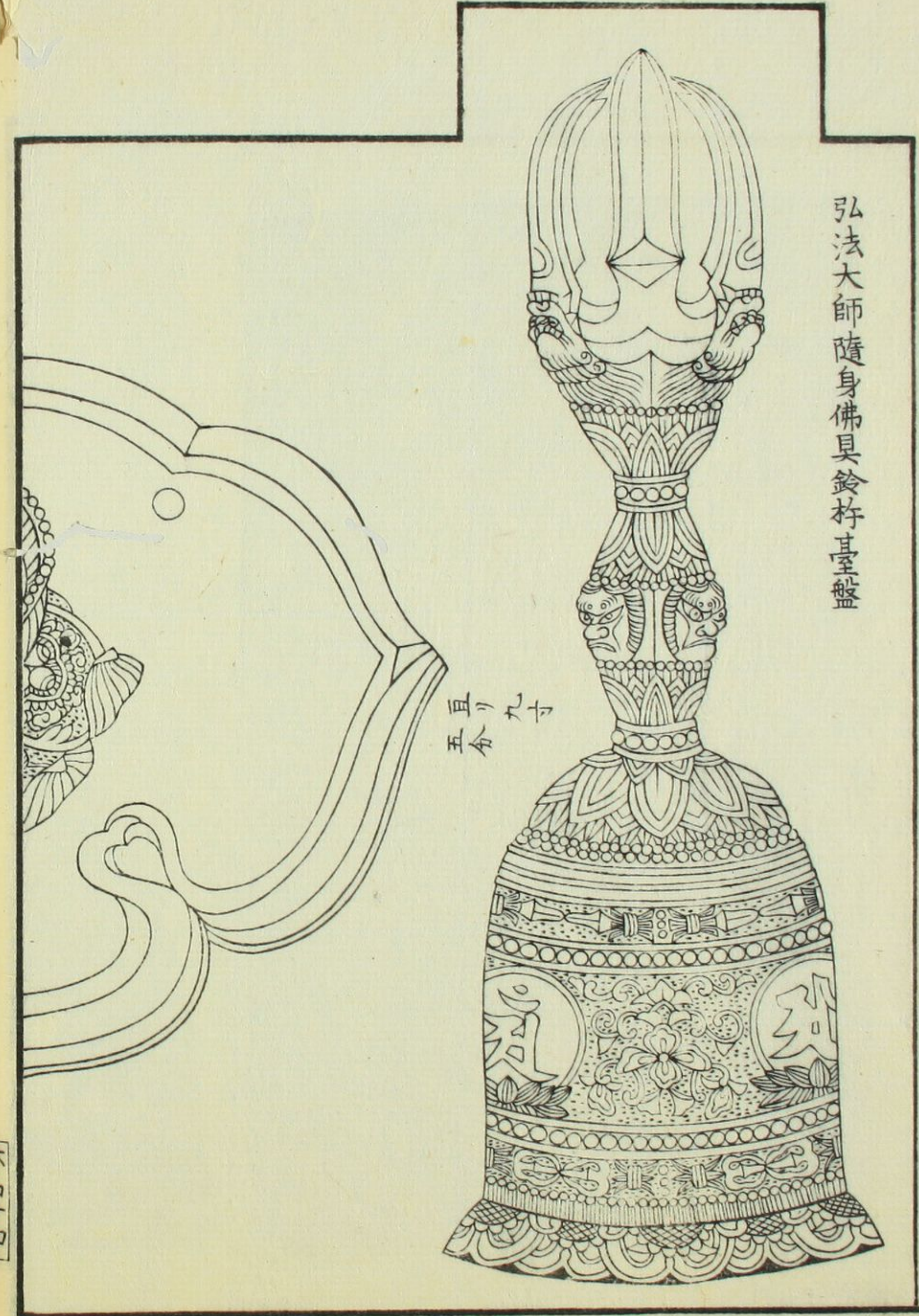


下ノ木口梅ノ蒔繪



且リ六寸

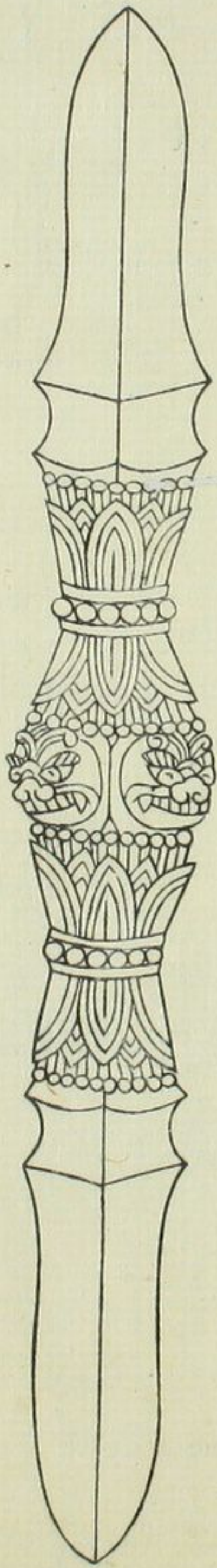
高サ一寸五分



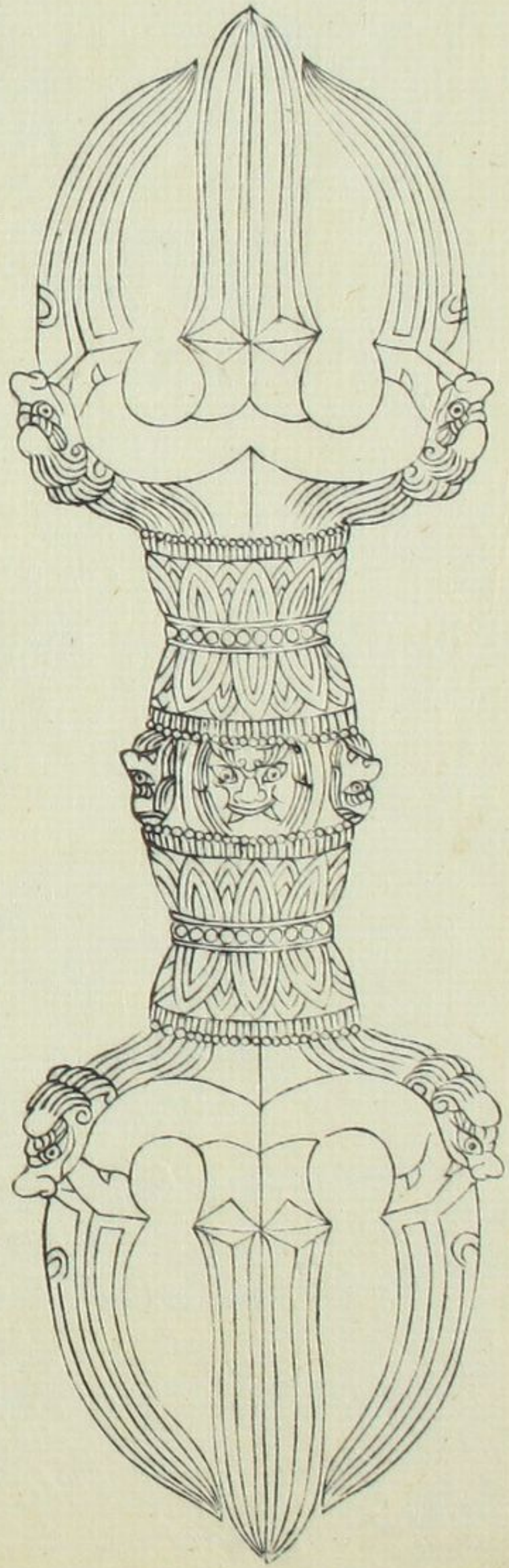
弘法大師隨身佛具鈴杵臺盤

且リ九寸五分

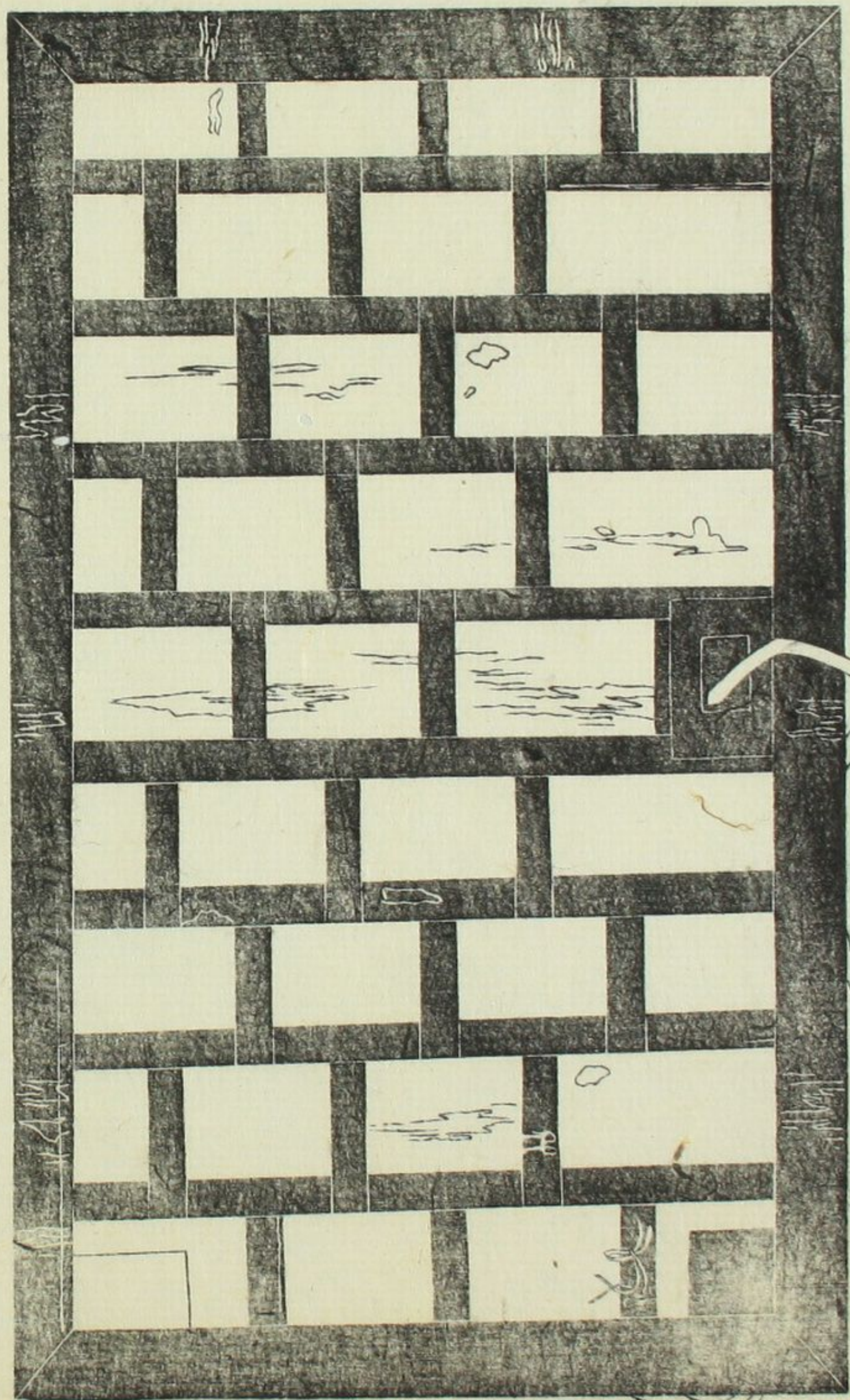
尺四寸



コノ佛具ハ。弘法大師。弥山開闢ノソノムカシ。隨身シタマヘリシトコロ
ノモノナリ。大師ノ遺物オホシトイヘドモ。袈裟經卷ノタグヒ
ハ。年ヲ經ルニシタガヒテ。破損セシカバ。ソノ全キヲ見ルコト
能ハズ。然ルニタバコレノミ。カクイサ、カモソコナハレズ。傳ハリキ
ヌルハ。實ニ千載ノ至寶ニアラズヤ。大師ヲ信仰セン人。緇素
トモニ。タレカ并觀センコトヲ願ハガルベキ。



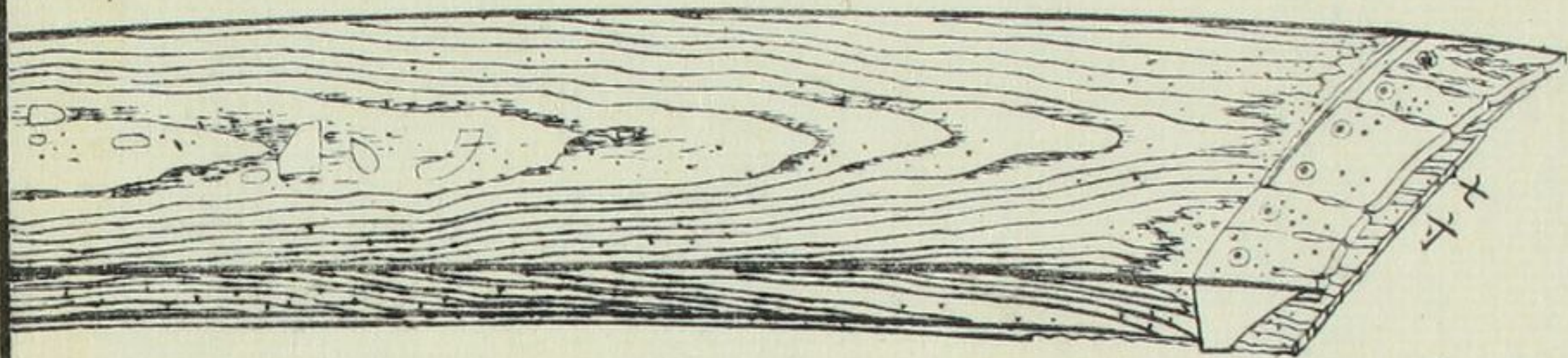
弘法大師袈裟



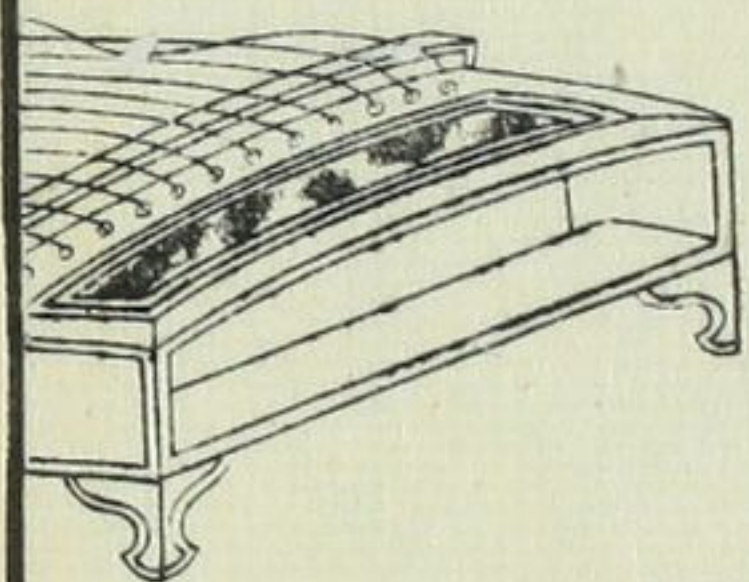
コノ袈裟ハ。弘法大師。弥山ニオイテ。永聞持修法ノトキ着タマヘリ
シモノナリトイフ。平絹ニテ製シタリ。色ハ年ヲヘテウセタレバ。サダ
カニ知ラレズ。イハユル僧伽梨ナリ。何ノ事モナキモノナレド。大師シタ
シク身ニナラシタマヘルモノナレハ。コ、ニ畷シテ。崇敬スル人ノ信心ヲ
深カラシム。

和琴 箏

頭ヨリ尾ニテ六尺厚廿一寸三分



足ウセテ
十二



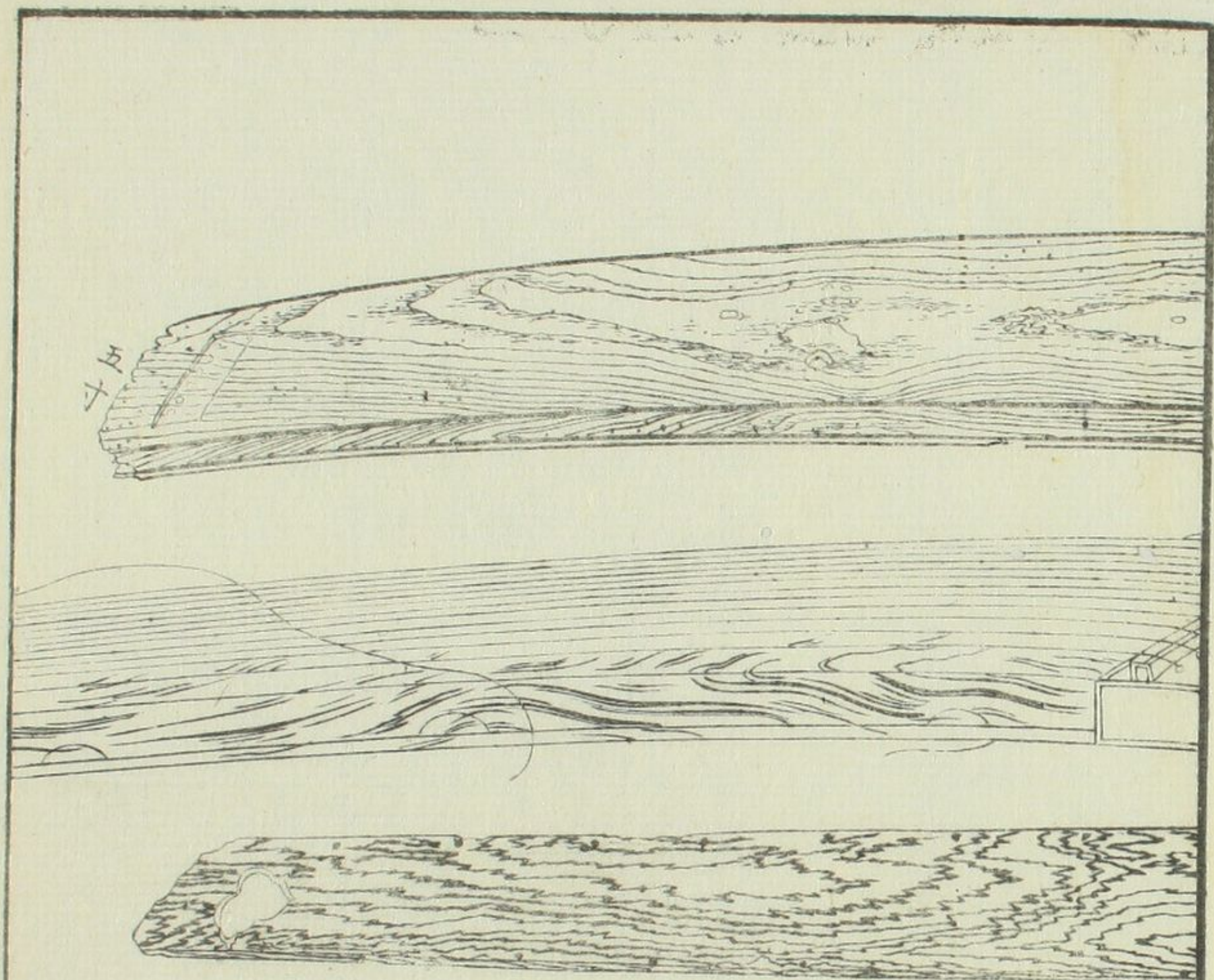
ウラ板杉厚二分



和琴ノ裏書
面ノ如シ

大正十一年九月廿九日
執行高

六ノ四十七



箏ノ惣長五尺九寸
幅頭ニテ七寸六分
尾ニテ六寸三分

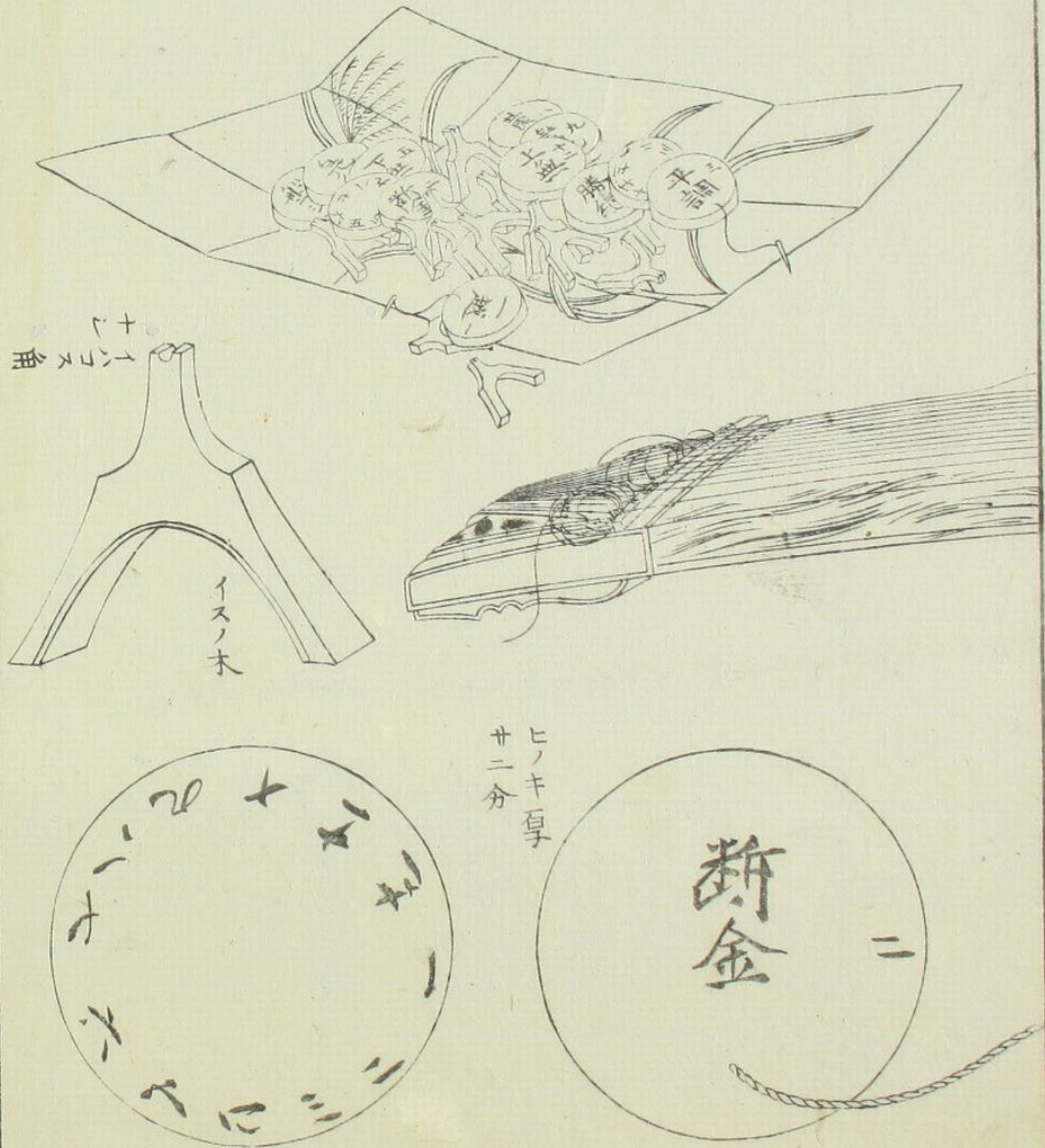


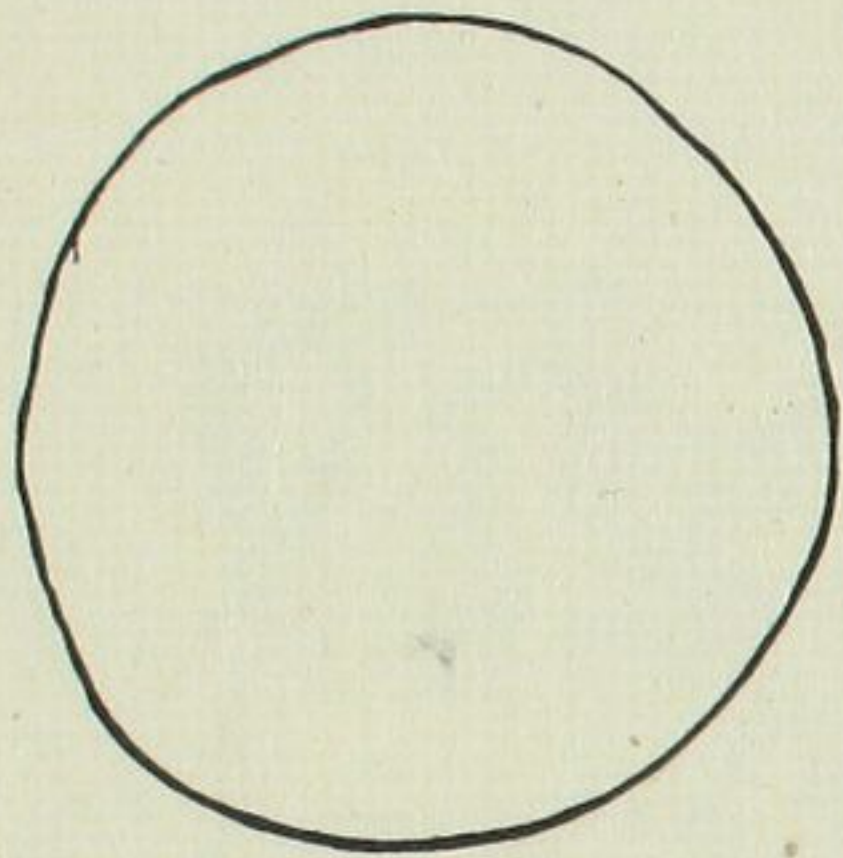
大正十一年九月廿九日
執行高

玄上ノ琵琶

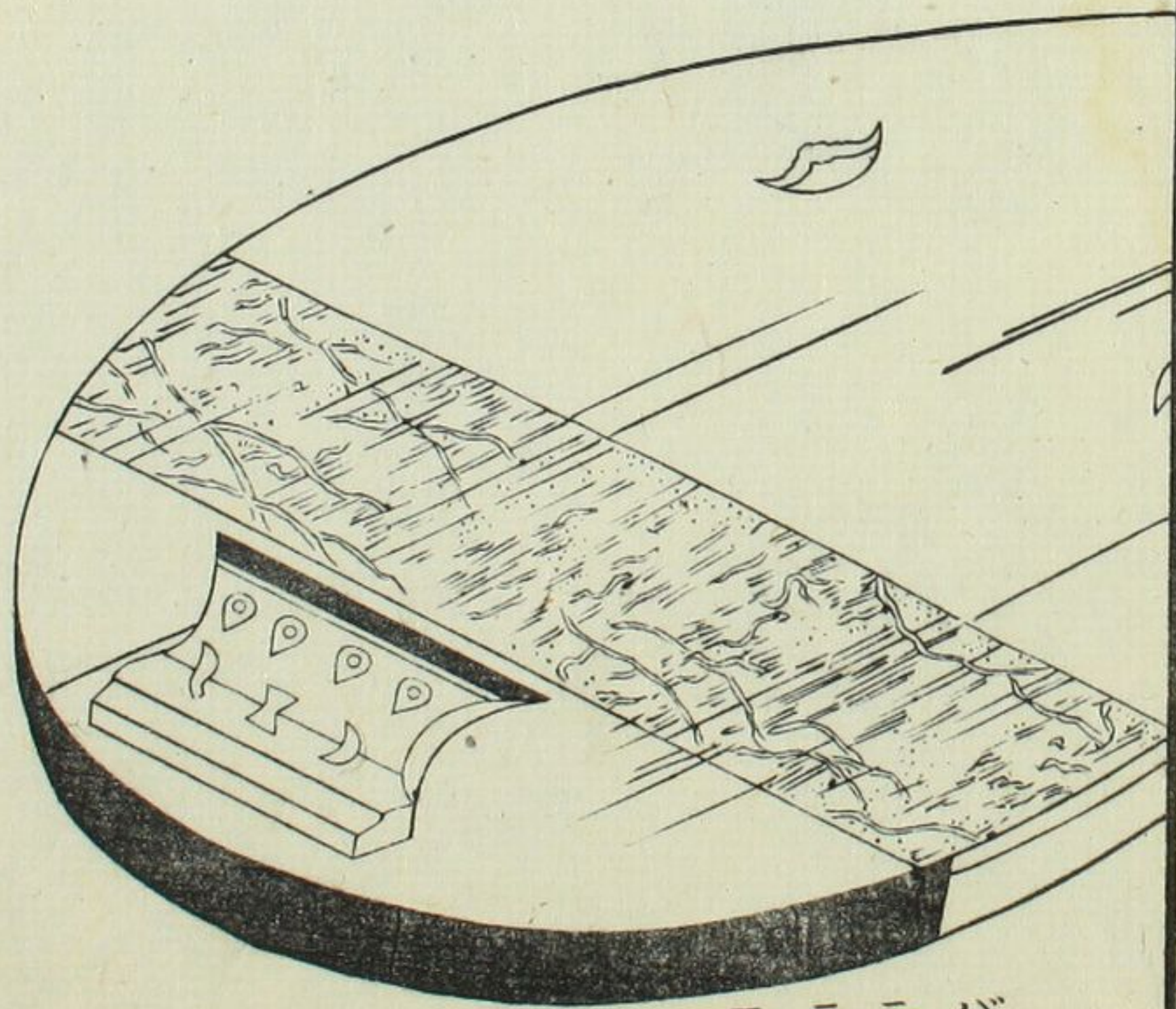
谷川ノ琵琶トイフハコレナリ 當社ノ樂器ソノ數多シトイヘトモ糸竹ノタクヒニテハ小櫻ノ笙オヨビコノ琵琶ノ上ニ出ルモノアルコトナシツネニハ玄上トヨヘリ玄上ヲ引懸テツクルルニヨリテナリソノヨシハ下ニ載スルトコロノ玄上考ニ詳カナリ

惣長サ三尺三寸二分華欄ノ直甲ニテ縁ノ厚サ壹寸強長サ七寸四分八厘幅腰板ノ付クトコロニテ壹寸六分頸ニテ七分五厘腰ハ三継合幅壹尺三寸五分ソノ内上ノ板ニテ五寸中ノ板ニテ五寸六分中ノ板ノ棹ニツクトコロ壹寸八分下ノ板ニテ二寸九分長サ二尺五寸二分厚サ縁ニテ三分轉手四寸五分糸倉膠ノ木外法長四寸五分内法頸ニ付キタ丸方幅八分強海老尾ノカタ幅三分強海老尾長二寸六分兼絃柱下ドハウセテナシ





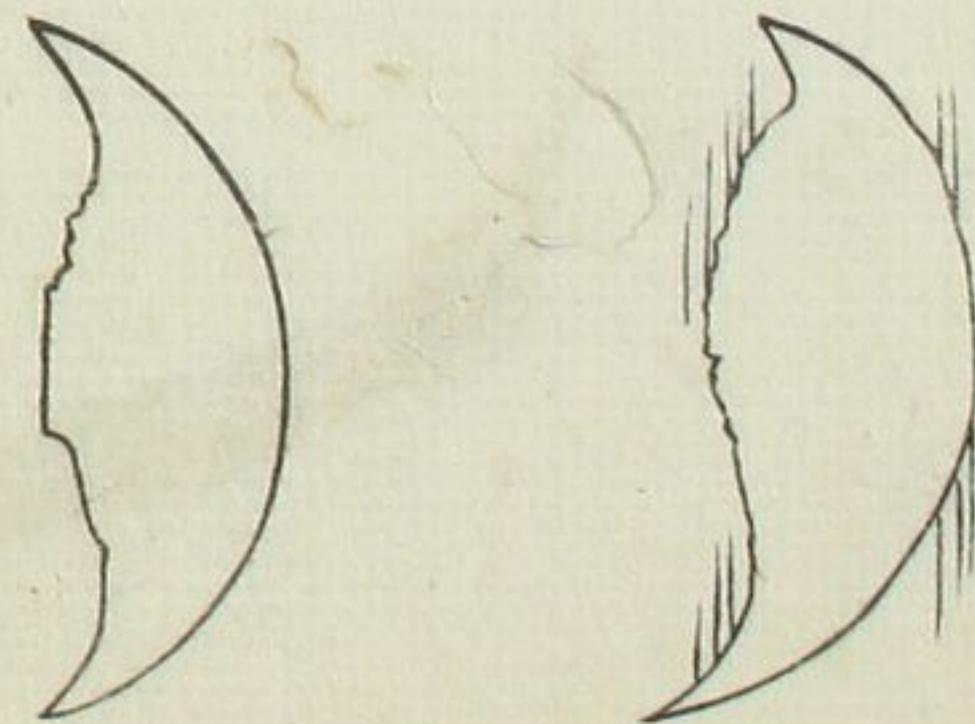
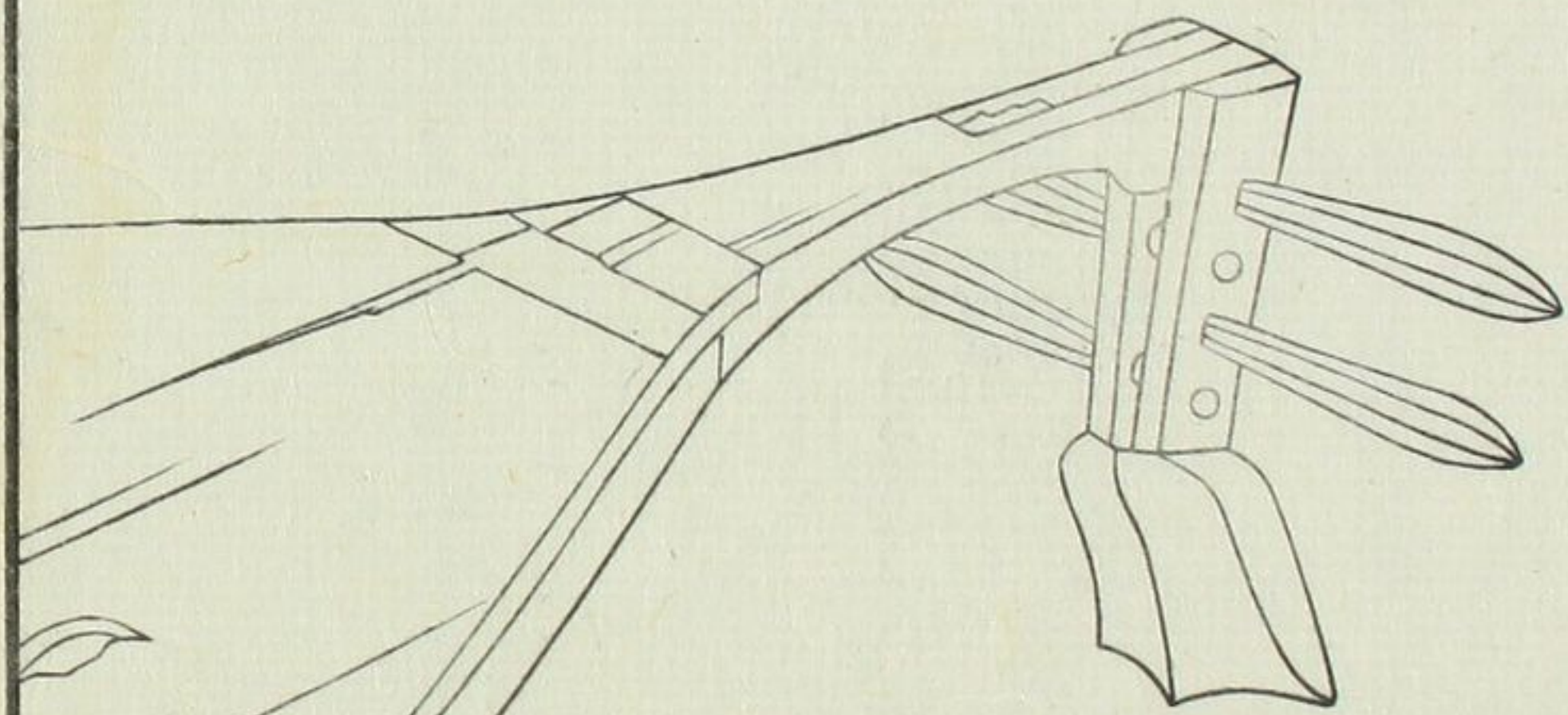
隠月大サ面ノ如シ



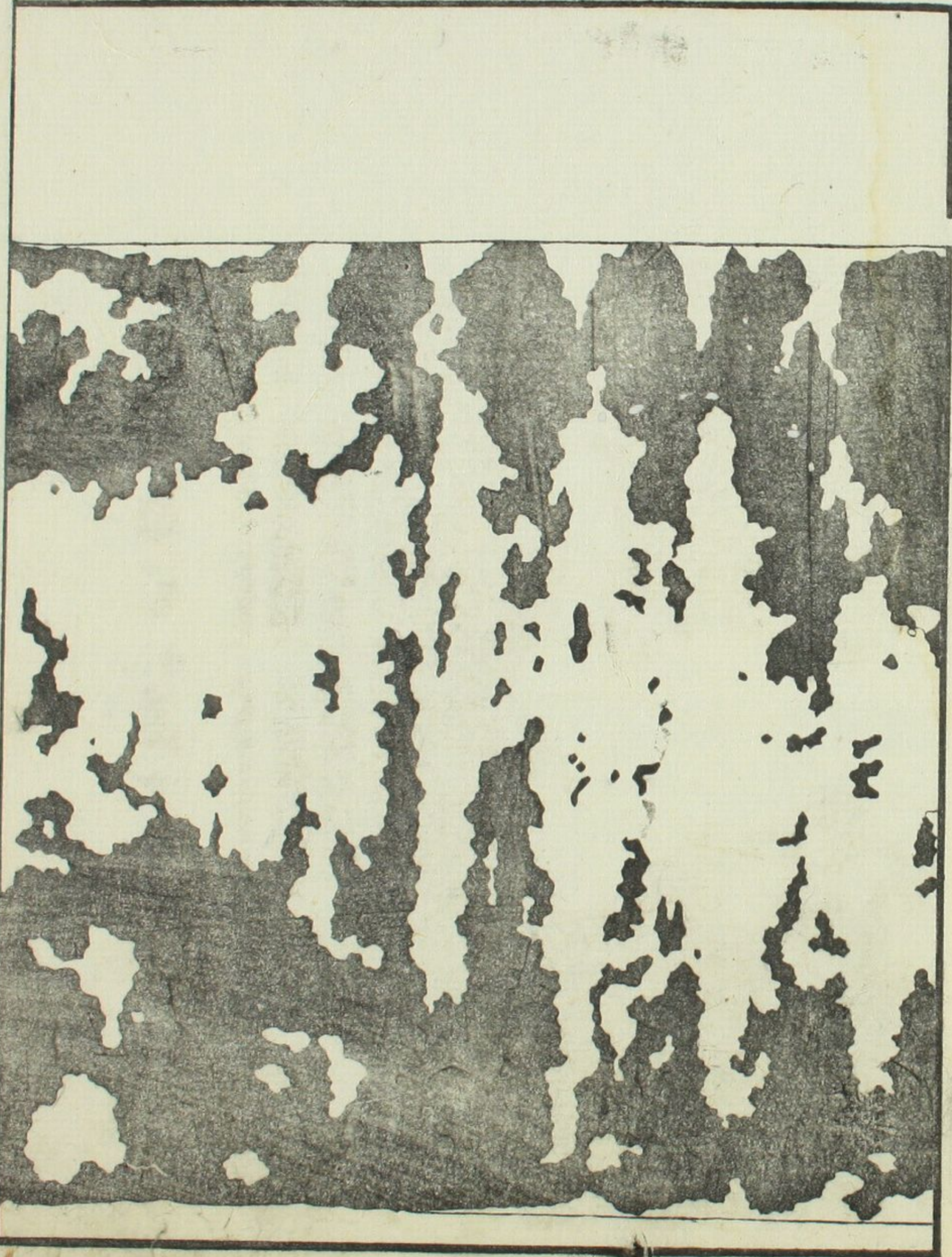
バチ面下
ニ面アリ
ラクタイ
ニ尺七寸
皮上質
シレズ

續世継物語なみのうのほらづきノ巻ニモ上よりふびいをひき
たまはれバ大ねちち比巴れちりまがうまをんるコレハ開白師
通公ノ彈タへルコイハナリ文意ヲカムガ元ニ普通ノ比巴ヨリモ大キ
如ク聞ユ

玄上



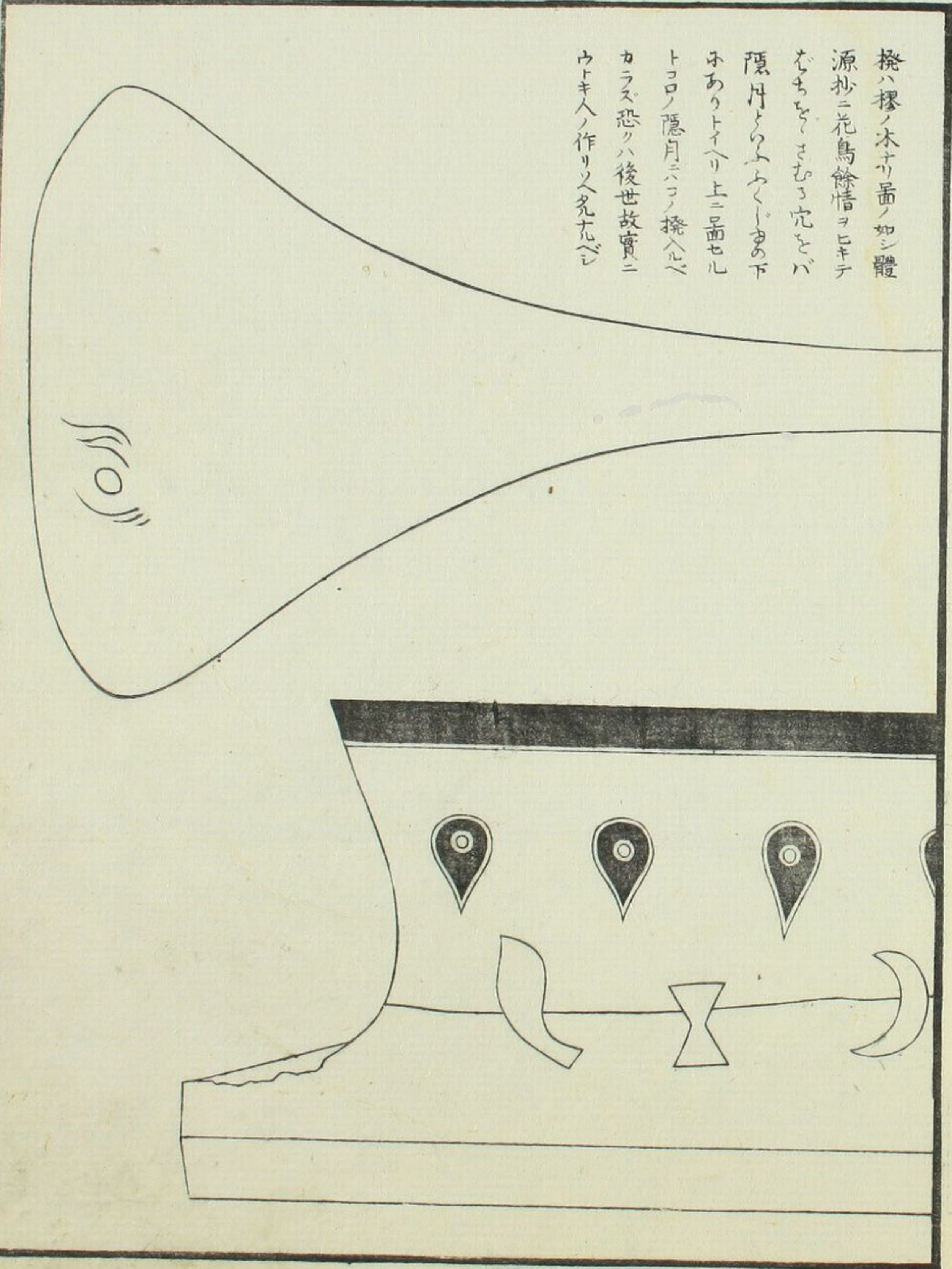
半月面ノ如シ



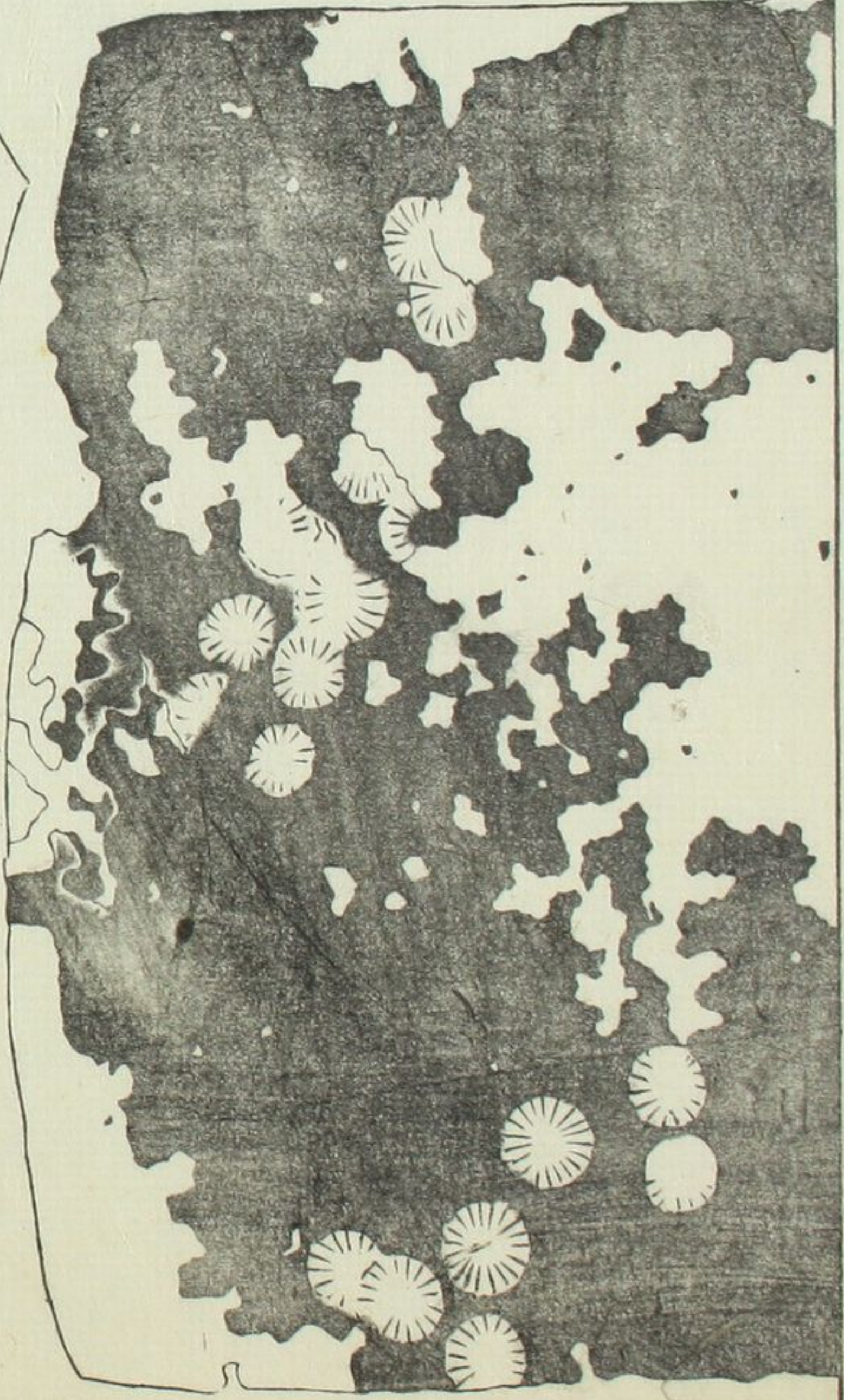
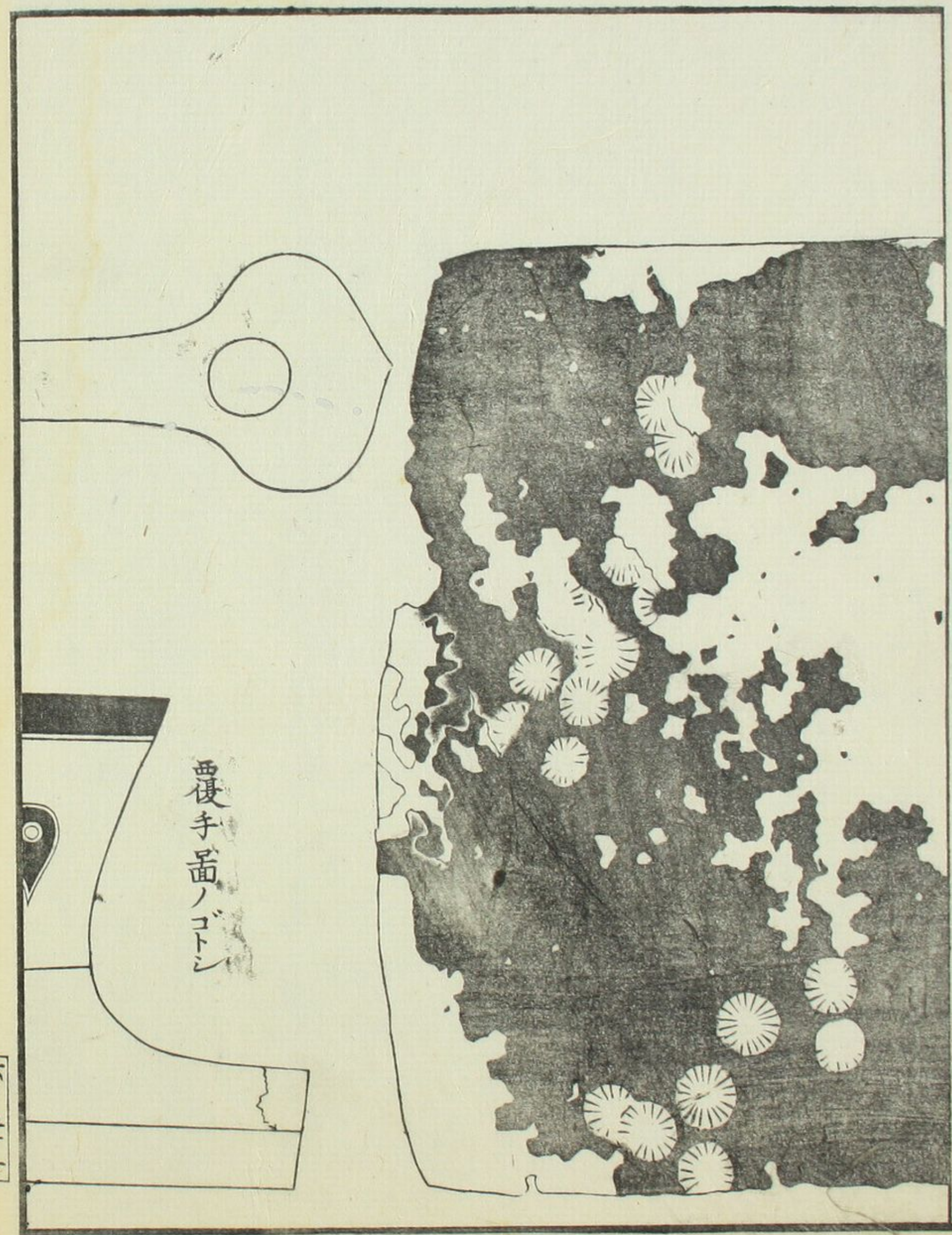
椀面番ノゴト
シ画ノユエヨ
シ玄上考ニッ
バラナリ下ニ載
タリ



椀ハ椀ノ木ナリ番ノ如シ體
 源抄ニ花鳥餘情ヲヒキテ
 心をささむる穴をバ
 隙丹とらふふくまの下の
 小ありトイヘリ上ニ面セル
 トコロノ隱月ニハコノ椀ハルヘ
 カラス恐クハ後世故實ニ
 内トキ人ノ作りノ丸丸ヘシ



覆手番ノゴトシ



南無觀音菩薩

南無妙音菩薩



弘

六ノ五十二

長慶年五月十日
弘念作如

暖板ノウラ書
孟ノゴトシ

玄上考

田中芳樹

玄上ノ琵琶ハ。須徳院天皇ノ禁秘御抄ニ。因ニイフ。禁秘御抄ノ
 ノツケタルモノナラム。河海抄ニコノ書ヲ引テ。建曆御記トイ
 ヘリ。建曆ハコノ天皇即位ノ年号ナリ。建曆天皇ノ御記トイ
 フヨシニテ。コレガ正シカルベキ。但賢所ノ建曆天皇ノ御記トイ
 穢トアル内大臣ハ。坊門信清公ニテ。建保四年ニ薨シタヘリ。
 コレヲ穢トノタマヘルナリ。サテソノ薨ノ年ヲ去々年トカ、
 トナルベシ。然レモイテ。累代寶物也。置中殿御厨子。根源様。人不
 ハ普通ノ名ニ随ヘリ。知之。掃部頭貞敏。渡唐之時。所渡琵琶二面。其一欵紫檀直甲也。大
 宋人云。紫檀者大祿不可過六七寸。直甲之條不信云々。但此甲非
 只物紫檀也。凡此琵琶。去々聲不可說未曾有物也。為靈物。人為
 跡之時。有貴人如何。跡ニスルゾト云テ。入人夢。皆著直衣人也。
 靈物之中。越他。以不淨手不可取。昔无履。自近比有沙汰。有履并臺

此琵琶靈驗。内裡焼亡之時。飛出撥面。又消所々有赤色。不知其繪。
 代々有沙汰未決。俊房云。良道琵琶。移玄上。彼撥面。又不可違。彼唐
 人打毬形也。或云。玄象吞青鉢之水。所謂号玄象。又玄上宰相。献延
 喜帝仍号玄上。兩説也。但妙音院。入道付玄上説。欵トアリ。俊房云
 琵琶ノ七字。普通ノ本。俊房公良通云。琵琶ノ八字ニ。古ヘヨリ。既ニ
 ツクレリ。誤ナルヘシ。ヨリテ異本ヲ以テ改メツ。カクノ如ク。名義フタツニ別レ。是非明ラカナラザリシコトノ。
 不足ク。チヲシクテ。年比イカニゾヤト。覺束十ク思ヒワタリツ
 レド。サシモ尊トキ朝廷ノ御宝ヲ。匹夫ノ口ニカケテ論ヒケガ
 サンコト。カツハ人ノ聞耳モオソリナキニアラジト。ノドメ置
 ツルニ。此度嚴島神社ノ宝庫ナル。谷川ト云フ琵琶ノ腰板ノ裏
 書。上ニ畱シタルゴトク。弘長二年壬戌十月十一日。以玄上引懸
 作之唯念トアル。作ルキ琵琶ノ様ヲウツシテ。ヲ見テ。イトウレ

シキコト。玄上ノ名義モ。イマヅ掲焉ニ知ラルベキト。ソノ撥面ノ繪ヲ。熟オモフニ。唐人抄毬吹ト。御抄ニアルニヨクカナヘリ然レバ玄象吞青鉢之水所謂号玄象トアルカタハ。誤ナルコト決ナシ。御抄ヲカ、セタマヒシハ。建保六年ノコトナリ。上件ノイヘソノカミスラ。撥面文消所々有赤色不知其繪。代々有沙汰未決トアナルモノヲ。四十年餘モ後。弘長二年ニツクリシコノ琵琶ノ撥面ニ。イカバハモトノマ、ヲ摸スコトヲ得シ。コハタダ寸法バカリヲ引懸タルナルベケレバ。繪ハ沙汰ノ限りニアラジト。思ハン人モアメレド。引懸トイヒナガラ。撥面ヲ異モノニシテヤハオクベキ。按フニコノ琵琶ハ。マダ玄上ノ撥面ノ鮮ヤカナリシホドニ。人ノ引懸オキタルガアリシヲ。唯念フタ、ビソノウツシノ玄上ニヨリテ。マタ引懸ツクレリシナルベシ。

中殿ノ御厨子ナルヲ。スグニ取出テ本トシタルニテハアルベカラズ。コレニ依テ。カヘリテ。コノ琵琶ニ繪ノ残り傳ハレルニコソ。カクテオモヘバ。玄上トイフ名ハ。一説ノ。玄上、宰相献延喜帝仍号玄上ト御抄ニカ、セタマヘルゾ正シカリケル。打毬ノ玄上トモ玄象トモイフベキヨシハ更ニナシ。妙音院入道ノ玄上宰相ノ名ニヨレル説ヲ用ヒタマヘルハ。據アリシナルベシ。但玄象ノ説モ。續教訓抄。糸竹口傳ナドニモミエテ。一向ニ捨ベキニアラネド。オソラクハ。玄上ヲ字音ノ通フマ、ニ假リテ玄象トモカケルヲ。撥面ノ繪消テ後。牽強テ玄象吞青鉢之水ナドイフコトハイヒ出タルナレヘシ。江談抄ニハ。スナハチ玄上玄象ヲカヨハ。玄上宰相ハ。八代集抄ニ。中納言諸葛男トミエ。禁秘御抄聞書ニハ。兼平三年正月廿一日薨于時参議従三位七十八歳トミエタリ。兼捕集ニ玄上ノ宰相ノ右近中将マテ。紅梅を吹りておこせりける。伊勢集ニ。もろかゝの宰相の北のうた。月此わらき夜かどのまへをまゝりたまふとて。せうそあひのい

ひいきたまふりまねむ。トアル。ちるかゝスナハキ玄上ナリ。拾遺集ニ。参議玄上ハルカミが免の。月のけうに夜かどのまへハルカミとて。せうハルカミといひいそくハルカミけりハルカミとて。ト端書シテ。伊勢集ナルトオナジ哥ヲ載タルニテ知ベシ。マタ大鏡ニ。玄上ハルカミ宰相のむを免のや。そ乃後朝のつうひよ。敦忠中納言の少将おてしたまひくる。トモアリ。コレラニ依ルニ。兼捕伊勢ナド、時ヲ同ジクシテ。齡ノ長カリシ人ナレバ。清和陽成光孝宇多醍醐朱雀ノ六代ムロヨヲゾヘタマヒケム。上件ニアゲタル。禁秘御抄コノ人優タル琵琶ノ上手ニテ。ツネニモテナラシタマヒシ琵琶ヲ。延喜ノ天皇ニ献ジタマヒタルヲ。御抄ニカ、セタマヘル如ク。本ノ主ノ名ニヨリテ。ヤガテ玄上ハルカミト。オフセタマヘルナラン。さうかゝトナツケズシテ。げんやうトナツケシハ。下ニヒケル良道ノ琵琶ヲ。古事談ニ。玄上ノよしみちトイハズシテ。りやうたうトエルガ如シ。

コト。江中納言ニ人ノ問ケレバ。不知ハルカミ延喜ノコト。玄上宰相トイヒケル琵琶ヒキノ琵琶トヤラムトゾ。被答ケル。江談抄ニ。予問玄上牧馬元者何時琵琶哉。答云。玄象牧馬者。延喜聖主御琵琶上ハルカミ手玄上ト云モノアリ云々。予又問云。然者依件名令付欵。延喜聖主御琵琶上手玄上ノ問ニ。カナラハルカミマタ系竹口傳ノ或説ニ。玄上宰相琵琶也。主ノ名ヲヒハニツケタリ。河海抄ニモ嵯峨天皇等玄上宰相比巴大石富門笛トアル。ミナトスルニ足レリ。人ノ名ヲ以テ琵琶ノ名ニセシコト。コレノミナラズ。琵琶合ニ。良道賢圓トイフニツヨ載セテ良道ハルカミのこまいろろつづく。いぶくハルカミき所をとり。音勢ハルカミのちいさくれど。りやう免死聲など殊勝なり。右大臣是公孫藤原良道琵琶なり。仍号良道ハルカミよハルカミみちトハイフベカラザルコト。大記ノ康和二年七月廿一日ノ件ニ。比巴字良道声読トミエ。琵琶合ノ或説ニ。着襦者ハルカミヲ置ハルカミ面依ハルカミ之ハルカミ称ハルカミ襦ハルカミトミエタリ。コレ玄象吞音録之水ニヨリテ。玄象ト名ゾケシトイフニオナジキ。牽強ノ説ナ

ガラ。禰良道ト字音ヲ通ハシ用ヒタルニテ。賢圓ハ琵琶血脉
リヤウダウトヨムベキ證ニハ足レリ。ニ。嵯峨供奉トアレバ。僧ノ名ナリ。玄上モコレニ准ヘテ人ノ名
ナルヲ知ベシ。或人問テ云ク。シカラバ玄上ハ。はるかノ宰相
ノ始メテ作り出タマヘルビハナルカ。予答テ云。然ラズ。ソノハジ
メハ唐ノモノナリ。三代實録ニ。貞觀九年十月四日ノ件ニ。從五
位上掃部頭藤原朝臣貞敏率。兼和五年到大唐。達上都。逢能彈琵琶
者劉二郎云。劉二郎臨別。設祖筵。賜紫檀紫藤琵琶各一。是歲
大唐大中元年。本朝兼和六年也。トアル。紫檀ハコノ玄上ナリ。胡
教録ノ師說ニ。玄上。波紫檀乃。飛多甲。腹ハ塩地ナリ。一継合。孝道云。
五枚。継ナリ。糸竹口傳一。紫檀。飛多甲トアリ。トヒケリ。
續日本後紀ニ。兼和六年冬十月朔。令遣唐使准判官正六位上藤
原貞敏。彈琵琶トアルハ。コノ劉二郎ガ賜シタル琵琶ヲ取カヘ
リテ。彈ケリシニゾアラム。糸竹口傳ニ。玄象ハ深草ノ帝ノ御時。

掃部頭貞敏。モロコシヘワタリテ。琵琶ヲナラヒケルトキ。師ノ
手ヨリ傳タリ。延喜帝ノ御物ナリ。紫檀ノ混甲ナリ。續教訓抄ニ。
古記云。玄象ハ。唐ノ琵琶ノ師。劉二郎ガ琵琶ナリ。深草帝ノ御時。
掃部頭貞敏ガ。唐ヘワタリテ。琵琶ナラヒケルトキ。得タルビハ
ナリ。東齋隨筆ニ。村上聖主。明月ノ夜。清涼殿ノ晝ノ御座ニ。
玄上。以水牛ノ角。比搔マテ。彈クマシテ。たゞ一所御座ケル。カ
げノ如ク。なるもの。空より飛で参たり。孫庇ニ。なりり。れを。うき
ハ何者ぞと問。欠たまふ所。りて去ク。唐ノ琵琶ノ博士廉兼
武。みゆ。唯今空。以まかり通。る。と。い。つ。る。御琵琶ノ。は。ち。音。の。い
と。ど。さ。に。参。入。ま。さ。と。ろ。後。なり。お。ま。さ。く。い。む。く。貞敏。又。授。残
り。たる。曲。の。い。以。授。た。て。ま。つ。と。んと。申。也。聖主。獻。感。の。ろ。り。た。り
て。御琵琶を。さ。し。や。し。く。欠。たま。ひ。たり。り。れ。を。ひ。ま。な。し。て。

これハ廉美武ガ琵琶ハカミハ、貞敏ニツ賜ハ内マてハと申スり。
終夜御物語ヨモスカラりて、上ウラ玄石上ヒキキヤウの曲マハを授奉スり。平家物語ニモ此事アリ。十
ドアルヲ以テオモフニ、貞敏ノ唐ヨリ持子渡リシモノナルヲ。
玄上ハルカミ宰相ノコノコトニ優スレタマヘルヲメデ、傳ハヘタレド、貞敏
ハ兼和六年ニ唐ヨリカヘリ。貞觀九年ニ奉セリ。玄上ハルカミハ、兼平三
年ニ七十八歳ニテ薨シタマヘルコト。上件ニイヘリ。サレバ貞
敏ノ老タリシコトハ、玄上ハルカミノソノ時マデハ、タバ本ノマ、ニ、紫
檀シ琵琶トノミタリケンヲ。三代實録ニ紫檀紫藤琵琶各一ト
トス。玄上ハルカミ宰相ヨリ延喜ノ天皇ニ奉リタマヒ、ソノ後、玄上ハルカミノ名
出來リシコト上件ニ論アヘルガ如シ。マタオモフニ、玄上ハルカミ宰相ノ
ノ外ノ書ニモ、コノ人琵琶ノ上ウニオハシケルコトヲミヤタ
ラネバ、上件ニヒキシ東齋隨筆ニイヘル。上玄石上ノ四字ニヨ
リテ、玄上ト名ツケタルニハアラヌヤトモオモヘド、御抄ニ
モカ、セタマハヌコトヲ、オノガウガ子イハンモ、サシスグイ
タリト人ヤオモハシト、恥カシソレヨリコナタ代々ノ朝廷ノ
サニウケバリテモ論アラハズ。

御寶ミタカラトシテ神聖鏡ミタカラノサシ次ツギニ尊ウトハレシモノナレ。凡ヘ合アニ
今此至ニ玄象者、潛魚之無モ心、幼兒之不モ言、可感之誠、是日域無雙靈
物。宸居累代、名器也。マタ八音抄ニ、古妃名物のうち、世の中ハ殘
りたる八つあり。玄上ハルカミ内ウ裡、牧馬、良道、木繪、小琵琶、明ニ勝ル井手、
涓橋ニ經藏ノ院ニ元興寺ノ經藏ノ院ニナド、カズ多カル名物、ミナ其所
彼所ニヨサレド、玄上ハルカミ百練抄ニ、天元五年十一月十七日、内
裏燒亡。天皇御職、曹司、或記云、冬上之間、累代御物、多ク紛失。紫檀御
脇息カク玄上ハルカミ等也。十二月六日、玄上ハルカミ從式、御曹司、東垣、付物ニ技ヲ落ス畢ニ御
ニ、此琵琶、靈驗。内裡燒亡之時、飛出、體源抄ニ、昔ヨリ靈物ニテ、内
裏燒亡ノ時モ、人ノ取出サヌサキニ、トビ出テ、大庭ノムクノ木
ノ末ニゾカ、リケル。ナトアルモ、天徳燒、同書ニ、壽永二年七月
廿五日、平家、黨類、前内大臣已下、牽テ一族、出奔西海。天皇、建礼門院、
同、奉相具。内侍所、神鏡、神聖、宝劍、時簡、殿上、御倚子、玄上ハルカミ鈴鹿、皆以
相具。八月五日、玄上ハルカミ出來、大夫、尉知康、於路頭見付、即進院。系行口
平家西國へ落行トキ、玄上ハルカミナラビニ鈴鹿、取具シテ落ントスル
ニ、女官、女孀、心カシコク取カクシテケリ。ウセニケリト御ナゲ

キノトコロニ。平家落テ後。取出シテマヅラス。ユキシキ高名シ
 タリト御感アリケリ。トミエテ。百練抄ニタガヘリ。源平盛衰記
 平家都落ノ件ニハ。大納言時忠卿。庭上ニ立廻ク。印鑑。時の
 玄上。鈴鹿。大床子。河霧御劔以下。九重の御具足。ひとつと取落の
べくと。下知せられしと。母人等。ついでて。我先よ
 と出立られ。取落次物も多うり。トノミアリ。マ夕體源抄ニ。文應元年十一月六日。
 今夜清暑堂御神樂。中畧。玄象始聞之。鬼丸同前。両重室一時。聰聞。増鏡ニ建治三年正
 正月御遊ニ。比巴上。今出川大納言。同書ニ正應三年朝原某トイフ者禁中ヲ 件ニ。女孀
サワガセシコライヘル
 ハ。玄象鈴鹿とりてふけり。同書ニ。應長元年正月ノ御遊ニ。撰
 政殿琴ふ。右大将公頭琵琶上。トアリ。マ夕皇年代私記ニ。花園
 院正和五年十月廿四日。玄上紛失。ソノ後出シニヤ。太平記延元
 元年正月。主上都落ノ件ニ。如何シテ見落シケム。玄上牧馬云々
 取落サレケルコソアサマシケレ。ナド見エテ。教度ノワザハヒ
 ニアヒ。千ト年ノ後ニツタハリタレバ。揆面ノ繪ハ。御抄ニスラ詳
 カセタマ。今更イハズ。賤甲ノ板モ損ジテ。ムカシノカタチハア
 ヘレバ。

ラズ成タルラム。台記ニ玄上修補ノコトアリ。今暗記セス。後ニ引ベシ。ソハトマレカクマレ甚モ恐カシキ朝廷ノ御
 室ナレバ。匹夫ノ輒ク見ルベキコト思ヒモヨラズ。然ルニソノ
 引懸。コノ御社ニカクノコリテ。揆面今ニキエウセズ。名義ヲ考
 へ知ベキタツキトモナリヌルハ。古へ好ムワガ徒モノヨロコビ。
 何事カコレニ及ベキ。

いづれはのみや
 谷川の
 谷川の
 谷川の

この清社の御堂は、谷川のしをふと
築てつらつらと古上考をまじりて

棚守元貞

とつねのねにたるくまの年かきつ
くつねのうへは
くまの世もつら谷川のまをり
とまをるるをせし

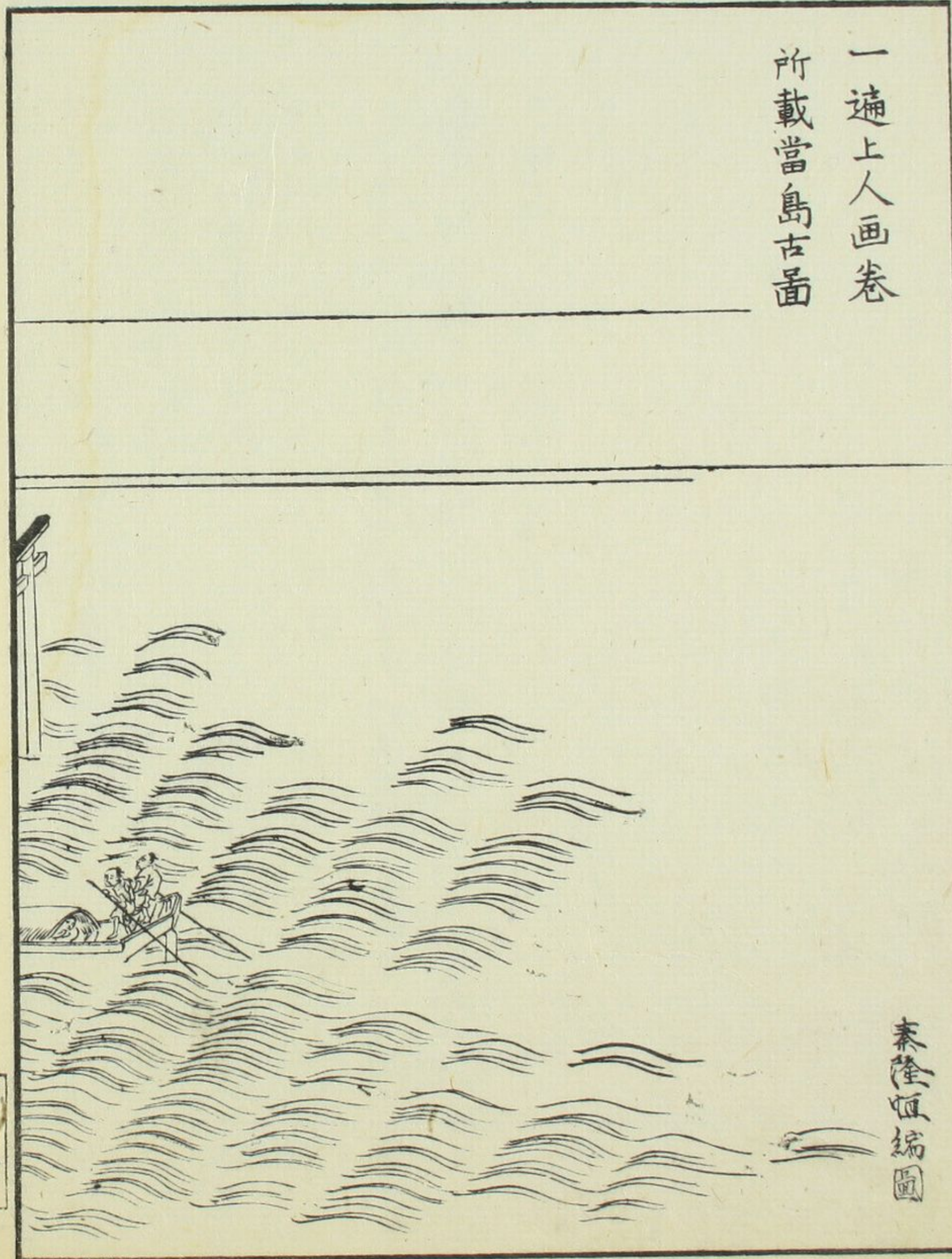
一遍上人画卷物所載嚴島古圖

古制回廊釣燈籠

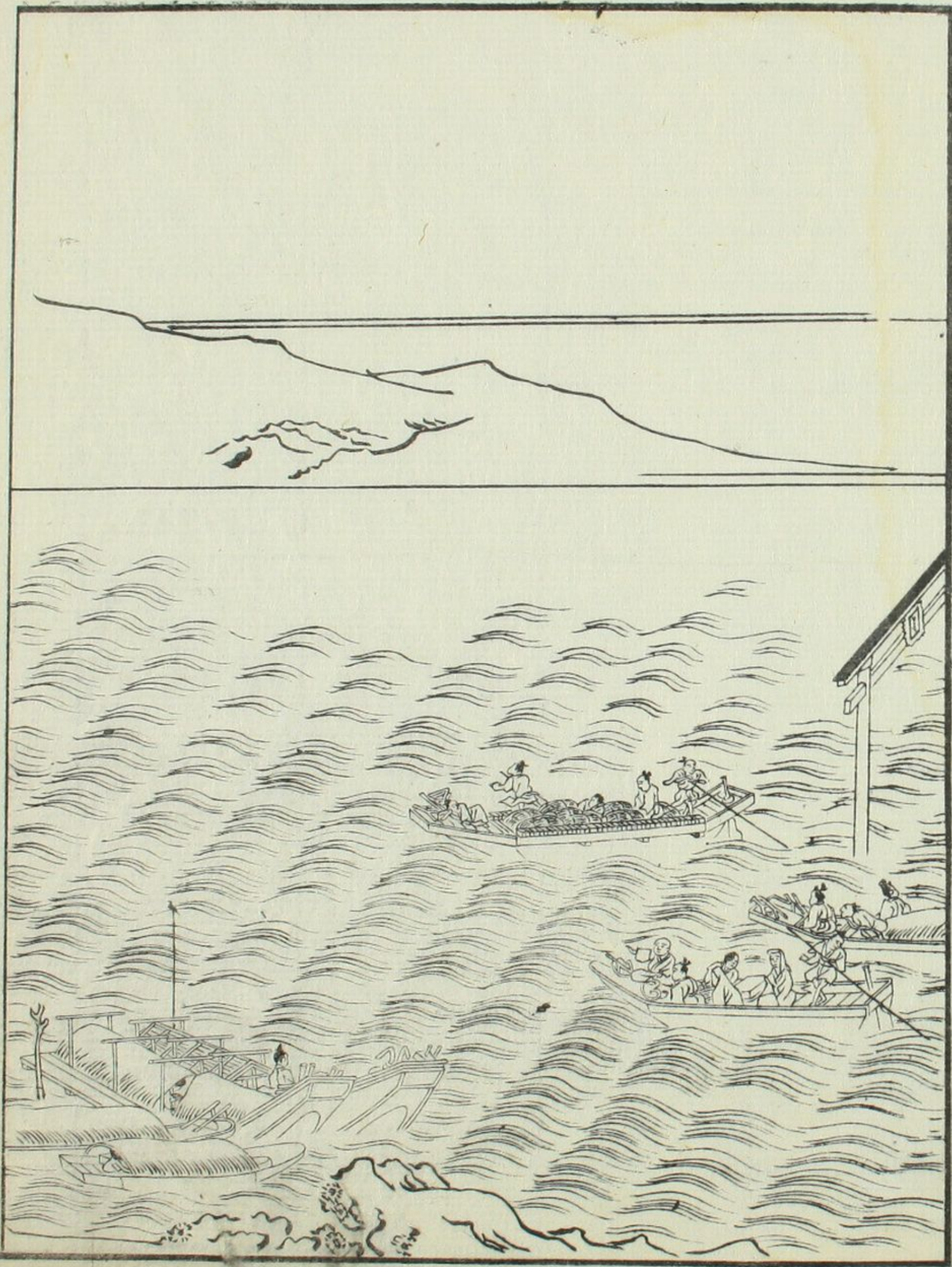
小松内府重盛古硯

以上三品ハ社司棚守氏ニ傳來スル所ニシテ神庫ニヲサムルモノ
ニアラズトイヘ共今爰ニ附シテ好事家ノ翫具ニ備フ中ニモ
画卷物ニ載スル所ハ即今ノ結構トハ殿廊漸異ナル所アリ
テ當時ノ趣ヲ見ルニ足レリ

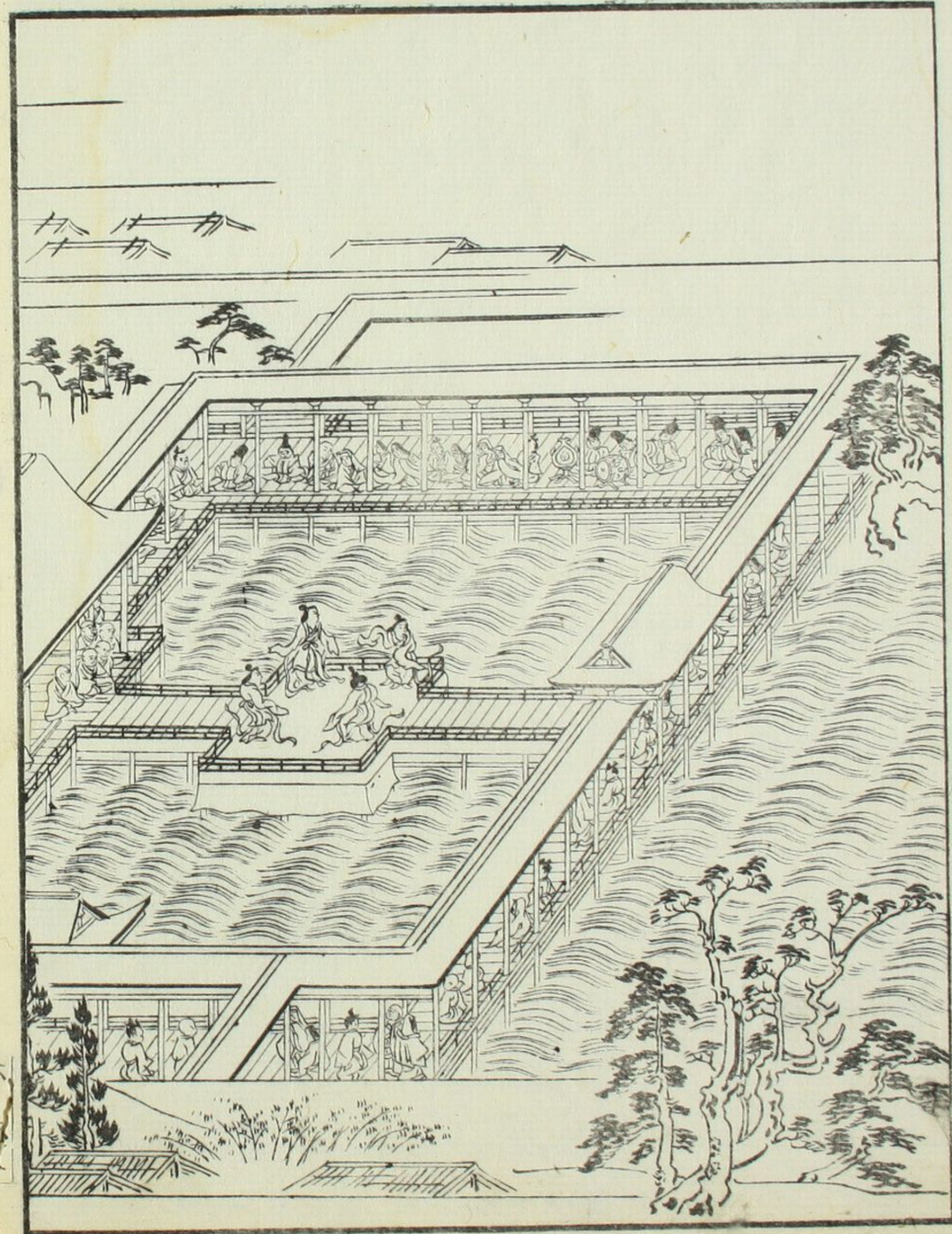
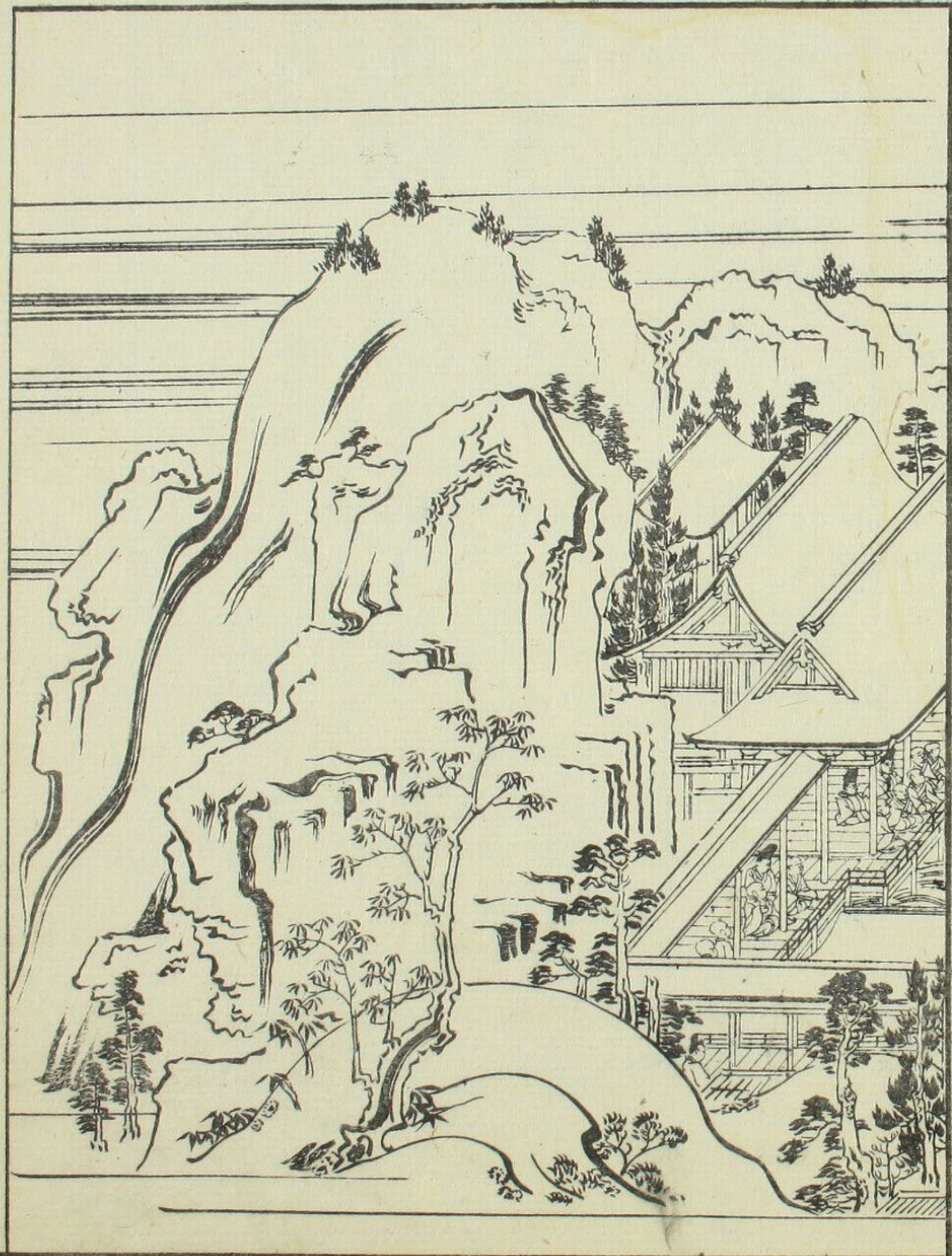
一遍上人画卷
所載當島古面



素隆恒編圖



六六



釣燈籠 鉄鑄物

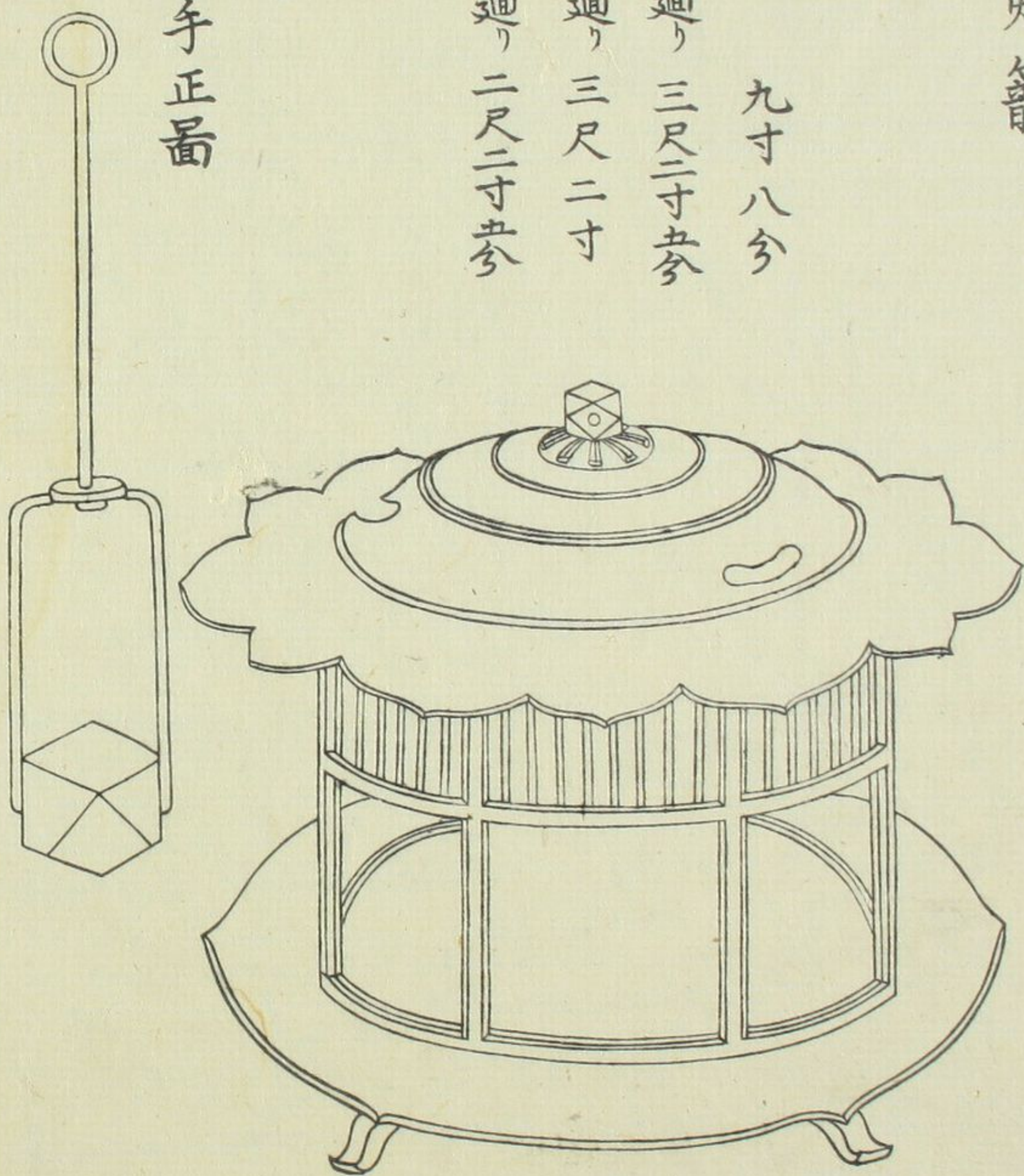
高 九寸八分

笠廻り 三尺二寸五分

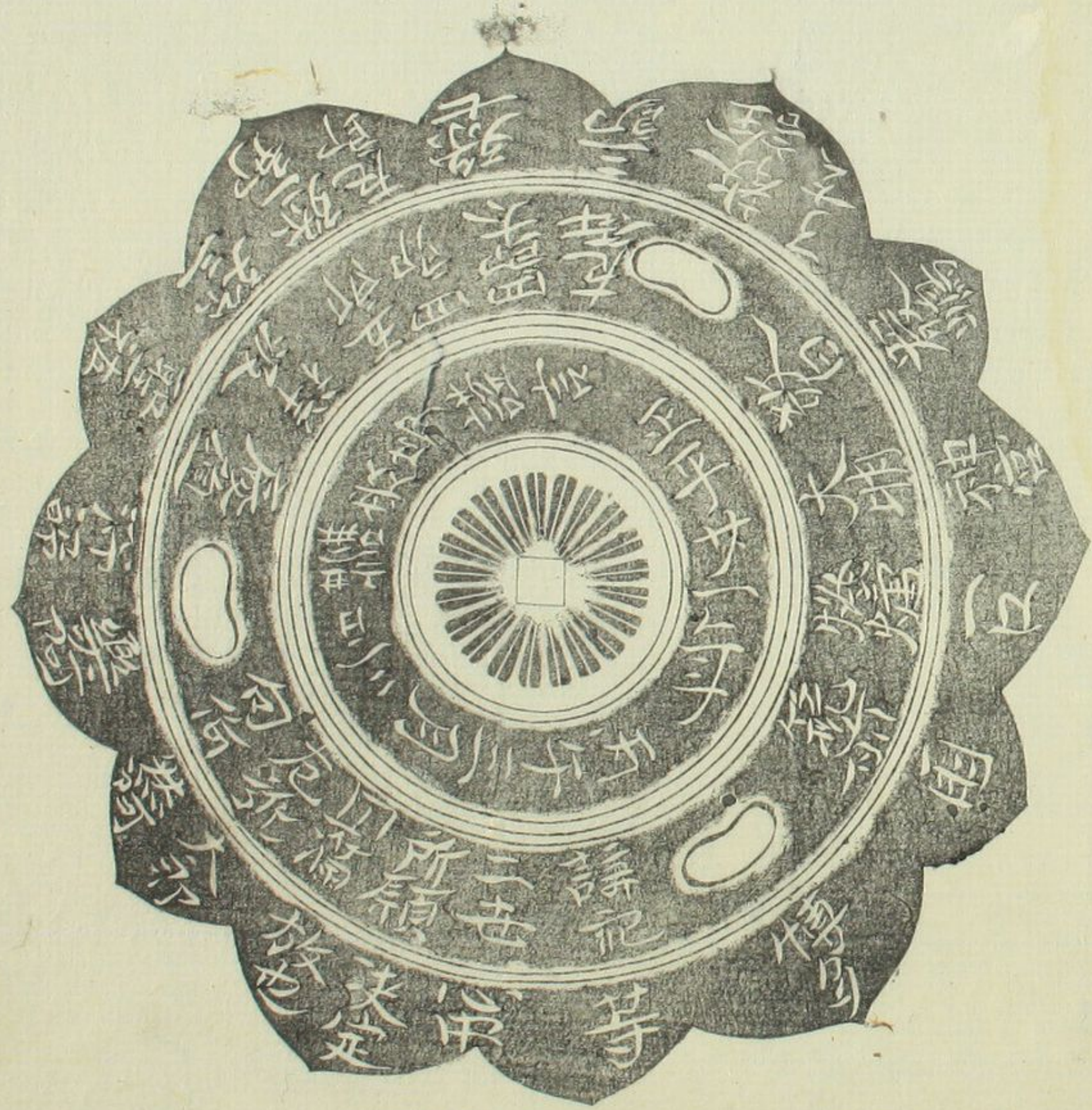
臺廻り 三尺二寸

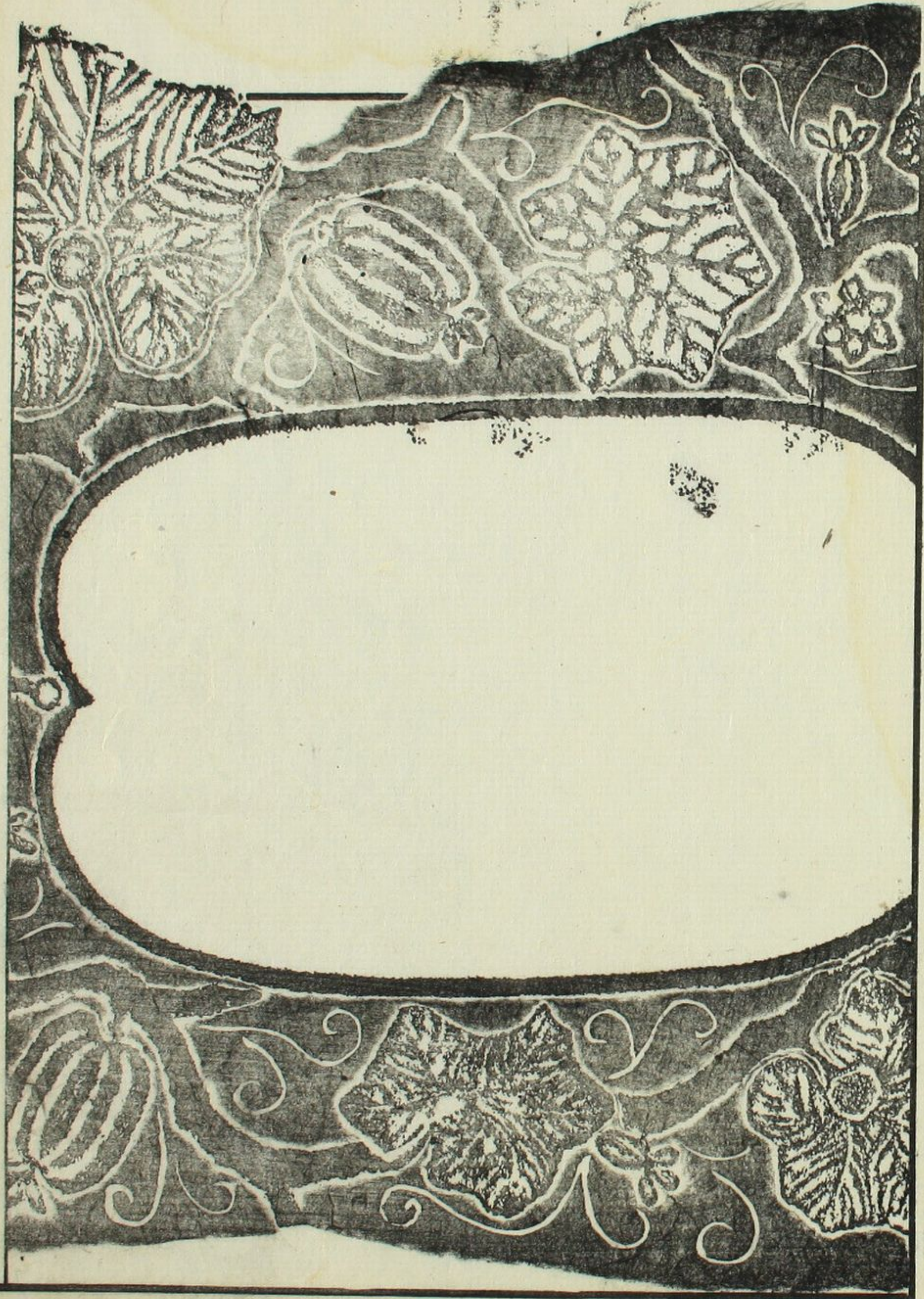
袋廻り 二尺二寸五分

釣手正番



笠銘





小松内府古硯

嚴島寶物圖會卷之六終

紫石
大如圖
厚八分
背無銘



